令和４年度

技術力維持・向上対策研修運営委託事業

報告書

令和５年２月

一般社団法人　全国林業改良普及協会

目　　次

事業のあらまし …… 1
　Ⅰ．事業の目的 …… 2
　Ⅱ．事業の内容 …… 2
　　１．カリキュラム検討等 …… 2
　　２．実践研修の運営 …… 2
　　３．情報共有ネットワーク化 …… 2
　Ⅲ．事業の年間スケジュール …… 2
　　１．カリキュラム検討等、実践研修、サイト関連 …… 3

実践研修 …… 5
　Ⅰ．研修の実施概要 …… 6
　　１．運営体制 …… 6
　　２．事前打ち合わせの実施概要 …… 6
　　３．実践研修の実施概要 …… 6
　　４．基本テキスト …… 10
　Ⅱ．各ブロックの研修実施状況 …… 23
　　１．北海道ブロック …… 24
　　２．東北ブロック …… 29
　　３．中部ブロック …… 34
　　４．近畿中国ブロック …… 39
　　５．四国ブロック …… 44
　Ⅲ．主な意見と課題の整理及び総括 …… 49
　　１．外部講師の主な意見 …… 49
　　２．アンケート結果の概要(ブロック別) …… 51
　　３．アンケート結果の概要(森林総合監理士・森林総合監理士外) …… 56
　　４．運営改善報告書の概要 …… 58
　　５．実践研修の課題の整理 …… 59
　　６．総括 …… 61

情報共有ネットワーク化 …… 63
　Ⅰ．サイトの開設状況 …… 64
　　１．技術力維持･向上対策研修運営委託事業ポータルサイト …… 64
　　２．実践研修受講生向けサイト …… 65
　　３．森林総合監理士ＰＲサイト …… 67
　　４．森林総合監理士ネットワークサイト …… 69
　　５．各サイトのアクセス数等 …… 73
　Ⅱ．総括 …… 75

参考資料 ・・ 77
１－１　実践研修講師リスト(外部講師、林野庁講師) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 78
１－２　実践研修修了者名簿 ・・ 83
１－３　実践研修ふりかえりシートの様式例 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 85
１－４　実践研修アンケート調査票 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 87
１－５　実践研修タイムスケジュールの事例 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 88
１－６　研修における新型コロナウイルス感染症の感染防止対策について ・・・・・・・・・・ 92
１－７　体温・体調等記録用紙例 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 94
２－１　安全管理マニュアル ・・ 96
２－２　本事業で使用している研修関係用語の説明 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 107
２－３　事務担当、事務局名簿(統括事務局、ブロック事務局) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 109

事業のあらまし

事業のあらまし

Ⅰ．事業の目的

市町村森林整備計画の作成・実行や森林経営計画の認定など市町村の森林・林業行政を技術面で支援する役割を担う森林総合監理士等技術者の能力の維持・向上を図るため、各地域の課題をテーマとした実践的な継続教育（以下「実践研修」という）を実施するとともに、森林総合監理士等技術者間の連携の推進及び先進的な地域活動の普及を目的としたネットワークの構築を行う。

Ⅱ．事業の内容

１．カリキュラム検討等

（1）カリキュラム案の作成等

林野庁担当官及び森林管理局研修担当官との打合せ等を基に、実践研修に係るカリキュラム・講師、研修資料、現地検討を行う国有林フィールドの選定等、ブロック毎の研修カリキュラム案を作成するとともに、受講生のアンケート結果の分析により研修結果を考察し、翌年度に向けた改善点の整理を行う。

(2)基本テキスト作成

林野庁で企画した原稿を元に、研修等で使用する基本テキストを作成する。

２．実践研修の運営

市町村の森林・林業行政を技術面で支援する役割を担う森林総合監理士をはじめとする技術者の技術水準の維持・向上を図ることを目的として、森林経営管理制度、地域森林・林業の再生、林業の成長産業化等に資する地域課題をテーマに、現地検討及びグループ討議等を通じて、現場レベルでの課題解決手法の習得を図るものとし、ブロック単位で実施する。

３．情報共有ネットワーク化

森林総合監理士の地域課題への対応や先進的な地域活動等のＰＲ及び森林総合監理士等技術者相互の情報共有や連携の促進を目的として、森林総合監理士を広くＰＲするための一般向けサイト、森林総合監理士間の情報共有に供する専用サイトを運営し、森林総合監理士等技術者のネットワーク化を図るとともに、実践研修受講生へのフォローアップを行う。

Ⅲ．事業の年間スケジュール

次頁図のとおりである。

Ⅲ. 事業の年間スケジュール

1. カリキュラム検討等、実践研修、サイト関連

↔ 研修日程

事業の内容 ＼ 月		4月	5月				6月					7月				8月				9月					10月				11月					12月	1月	2月
			第1週	第2週	第3週	第4週	第1週	第2週	第3週	第4週	第5週	第1週	第2週	第3週	第4週	第1週	第2週	第3週	第4週	第1週	第2週	第3週	第4週	第5週	第1週	第2週	第3週	第4週	第1週	第2週	第3週	第4週	第5週			
			2～6	9～13	16～20	23～27	30～6/3	6～10	13～17	20～24	27～7/1	4～8	11～15	18～22	25～29	1～5	8～12	15～19	22～26	29～9/2	5～9	12～16	19～23	26～30	3～7	10～14	17～21	24～28	31～11/4	7～11	14～18	21～25	28～12/2			
			祝：3･4･5											祝：18			祝：11						祝：19・23			祝：10			祝：3			祝：23				
実践研修	北海道ブロック		実践研修に向けた準備																			13～15														
	東北ブロック																				6～8															
	中部ブロック																					13～15														
	近畿中国ブロック																					14～16														
	四国ブロック																										18～20									
	その他	4月～5/27基本テキスト作成					受講者照会・受講ブロック調整																						実践研修外部講師へ意見照会					研修の課題等の整理、事業報告書作成			
				講師照会、依頼																																
												・受講生や関係者への連絡及び調整				・研修の実施、報告				・修了証書発行					・アンケート集計等、研修の課題抽出											
情報共有ネットワーク化	森林総合監理士のサイト作設		森林総合監理士PRサイト、森林総合監理士ネットワークサイト																																	
			ポータルサイト、受講生サイト																																	

実践研修

実践研修

Ⅰ. 研修の実施概要

1. 運営体制

別図(12 頁参照)のとおり研修運営を行った。

2. 事前打ち合わせの実施概要

研修の実施に際し、事前に研修運営上必要な進行・役割分担の確認等、準備を行うことを目的に、各局研修担当官等と調整の上、ブロック別に事前打ち合わせを行った。なお、各ブロックでカリキュラム内容や外部講師の人数、外部講師が担当する内容・役割等が異なることから、打ち合わせ形式(外部講師と局担当者のみの打ち合わせや関係者による集合打ち合わせ、非対面形式の打ち合わせ等)が異なる。

3. 実践研修の実施概要

(1)研修の目的

市町村の森林・林業行政を技術面で支援する役割を担う森林総合監理士をはじめとする技術者の技術水準の維持・向上を図ることを目的とする。

(2)対象者

森林総合監理士、都道府県職員、市町村職員、森林管理局署職員、団体職員等

(3)研修内容

昨年度は東北ブロックがコロナウイルス感染状況により開催中止となったが、今年度は５ブロック(北海道、東北、中部、近畿中国、四国)２泊３日の日程で開催、各ブロックでテーマ及びカリキュラムを設定して実施した。

各ブロックの研修テーマ一覧

ブロック	テーマ
北海道	資源循環利用構想実習　～木材供給ビジョンを考える～
東北	路網配置計画と情報化技術を用いた現地踏査
中部	伐採･造林一貫作業システム(架線)と木材流通
近畿中国	一斉人工造林地における地位区分に応じた森林施業
四国	地形に応じた効率的な架線と作業路網を組み合わせた集材作業システムと木材流通について

①北海道ブロック･実践研修のカリキュラムと概要(シラバス)(13 頁参照)

②東北ブロック･実践研修のカリキュラムと概要(シラバス)(15 頁参照)

③中部ブロック･実践研修のカリキュラムと概要(シラバス)(17 頁参照)

④近畿中国ブロック・実践研修のカリキュラムと概要(シラバス)(19 頁参照)

⑤四国ブロック・実践研修のカリキュラムと概要(シラバス)(21 頁参照)

(4)研修実施場所・研修日程

全国５ブロックにおいて９月から 10 月に実施した。

ブロック	日程	開催場所	研修会場	現地実習箇所
北海道	９月13日～15日	北海道札幌市	北海道森林管理局	北海道小樽市国有林4149林班外
東北	９月６日～８日	岩手県盛岡市	アイーナ　いわて県民情報交流センター	岩手県雫石町 御明神荒沢山国有林735は1林小班外
中部	９月13日～15日	岐阜県下呂市	下呂市民会館	岐阜県小川長洞国有林1113林班外
近畿 中国	９月14日～16日	岡山県新見市	新見商工会館	岡山県新見市大佐上刑部 古谷国有林527林班
四国	10月18日～20日	高知県高知市	四国森林管理局	高知県朴ノ川山国有林3210い1林小班

(5)研修修了者

①都道府県別修了者数(全区分)

都道府県名	修了者					
		都道府県	市町村	国有林	国立研究開発法人	民間
北海道	9	5	1	3	0	0
青森県	0	0	0	0	0	0
岩手県	6	1	0	0	1	4
宮城県	0	0	0	0	0	0
秋田県	1	0	0	1	0	0
山形県	0	0	0	0	0	0
福島県	2	0	0	0	1	1
茨城県	0	0	0	0	0	0
栃木県	0	0	0	0	0	0
群馬県	0	0	0	0	0	0
埼玉県	0	0	0	0	0	0
千葉県	0	0	0	0	0	0
東京都	0	0	0	0	0	0
神奈川県	0	0	0	0	0	0
新潟県	0	0	0	0	0	0
山梨県	0	0	0	0	0	0
静岡県	1	1	0	0	0	0
富山県	1	1	0	0	0	0
石川県	3	1	1	0	1	0
福井県	0	0	0	0	0	0
長野県	8	3	0	2	0	3
岐阜県	2	0	0	1	0	1
愛知県	1	1	0	0	0	0
三重県	1	0	0	0	1	0
滋賀県	1	1	0	0	0	0
京都府	0	0	0	0	0	0
大阪府	0	0	0	0	0	0
兵庫県	3	1	0	0	0	2
奈良県	1	1	0	0	0	0
和歌山県	1	1	0	0	0	0
鳥取県	1	0	0	0	1	0
島根県	0	0	0	0	0	0
岡山県	2	0	0	1	1	0
広島県	1	1	0	0	0	0
山口県	1	1	0	0	0	0
徳島県	0	0	0	0	0	0
香川県	0	0	0	0	0	0
愛媛県	2	1	0	0	0	1
高知県	8	2	1	4	0	1
福岡県	0	0	0	0	0	0
佐賀県	0	0	0	0	0	0
長崎県	1	1	0	0	0	0
熊本県	1	0	0	1	0	0
大分県	1	0	0	1	0	0
宮崎県	1	0	0	0	1	0
鹿児島県	0	0	0	0	0	0
沖縄県	0	0	0	0	0	0
合計	60	23	3	14	7	13

②ブロック別修了者数

ブロック	都道府県名	修了者						修了者					
			都道府県	市町村	国有林	国立研究開発法人	民間		都道府県	市町村	国有林	国立研究開発法人	民間
北海道	北海道	9	5	1	3	0	0	11	6	1	4	0	0
	兵庫県	1	1	0	0	0	0						
	大分県	1	0	0	1	0	0						
東北	岩手県	6	1	0	0	1	4	13	1	0	2	2	8
	秋田県	1	0	0	1	0	0						
	福島県	2	0	0	0	1	1						
	長野県	3	0	0	0	0	3						
	熊本県	1	0	0	1	0	0						
中部	富山県	1	1	0	0	0	0	14	8	1	3	1	1
	石川県	2	1	1	0	0	0						
	長野県	4	2	0	2	0	0						
	岐阜県	2	0	0	1	0	1						
	静岡県	1	1	0	0	0	0						
	愛知県	1	1	0	0	0	0						
	三重県	1	0	0	0	1	0						
	滋賀県	1	1	0	0	0	0						
	広島県	1	1	0	0	0	0						
近畿 中国	石川県	1	0	0	0	1	0	7	2	0	1	3	1
	兵庫県	1	0	0	0	0	1						
	奈良県	1	1	0	0	0	0						
	和歌山県	1	1	0	0	0	0						
	岡山県	2	0	0	1	1	0						
	宮崎県	1	0	0	0	1	0						
四国	長野県	1	1	0	0	0	0	15	6	1	4	1	3
	兵庫県	1	0	0	0	0	1						
	鳥取県	1	0	0	0	1	0						
	山口県	1	1	0	0	0	0						
	愛媛県	2	1	0	0	0	1						
	高知県	8	2	1	4	0	1						
	長崎県	1	1	0	0	0	0						
合計		60	23	3	14	7	13	60	23	3	14	7	13

(6)研修修了者の所属別比、年齢構成、男女比

○所属別比

	総数	都道府県職員	市町村職員	国有林職員	国立研究開発法人職員	民間
人数（人）	60	23	3	14	7	13
比率（%）	100.0	38.3	5.0	23.3	11.7	21.7

○年齢構成

年代	総数	20代	30代	40代	50代	60代	全体平均年齢（歳）
人数（人）	60	11	14	24	10	1	40.5
比率（%）	100.0	18.3	23.3	40.0	16.7	1.7	

○男女比

	総数	男性	女性
人数（人）	60	52	8
比率（%）	100.0	86.7	13.3

４. 基本テキスト

(1)ページ数等

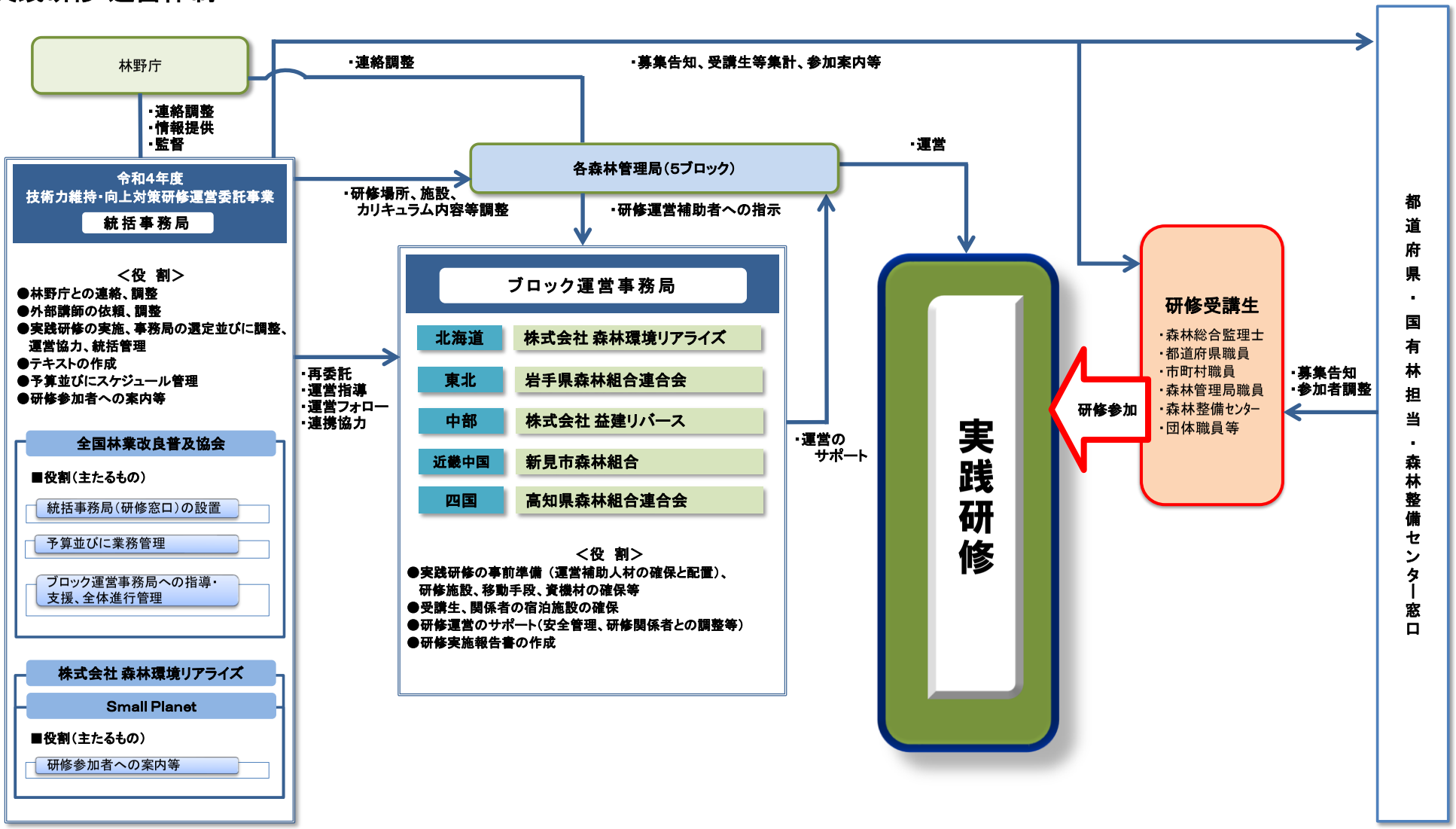
基本テキスト(全 306 ページ)を作成し、５月 27 日に 100 部納入した。

(2)構成

第１部	森林総合監理士(フォレスター)
	第１章　森林総合監理士(フォレスター)とは
	第２章　森林総合監理士(フォレスター)に求められる能力・活動体制
第２部	森づくりの理念と森林施業
	第１章　森づくりの基本的な考え方
	第２章　目標林型とゾーニング
	第３章　針葉樹人工林の目標と間伐
	第４章　針葉樹人工林の収穫と更新
	第５章　広葉樹林施業
	第６章　鳥獣被害対策
第３部	森林・林業の構想と市町村森林整備計画
	第１章　地域の森林・林業の構想
	第２章　市町村森林整備計画
	第３章　市町村森林整備計画の作成
	第４章　市町村森林整備計画の実行監理
第４部	森林経営計画
	第１章　森林経営計画の趣旨
	第２章　森林経営計画の策定に当たっての留意事項
	第３章　森林経営計画の策定に向けた森林総合監理士(フォレスター)の役割
	第４章　森林認証制度と森林経営計画
第５部	森林経営管理制度
	第１章　森林経営管理制度の趣旨及び概要
	第２章　森林経営管理制度の基本的な事務の流れ
	第３章　森林総合監理士(フォレスター)に期待されること
第６部	路網と作業システム
	第１章　路網整備の推進
	第２章　作設指針
	第３章　路網整備におけるフォレスターの役割
	第４章　作業システムと林業機械
	第５章　作業システム選択の考え方
	第６章　地域における作業システムの構築
	第７章　コスト計算と機械の能力

第７部　これからの提案型集約化施業の進め方 第１章　提案型集約化施業とは 第２章　提案型集約化施業の進め方 第３章　森林施業提案書 第４章　提案型集約化施業の壁とプランナーをサポートする関係者 第５章　フォレスターに期待されること
第８部　木材流通・販売 第１章　国産材利用拡大の意義 第２章　木材需給 第３章　木材価格 第４章　木材の流通構造 第５章　木材安定供給・販売体制
第９部　林業における労働安全とフォレスターの役割 第１章　フォレスターに求められる役割 第２章　労働安全法令等について 第３章　リスクアセスメントの推進
第 10 部 コミュニケーションとプレゼンテーション能力 第１章　研修におけるコミュニケーションのスキルアップ 第２章　フォレスターとしてのコミュニケーションのあり方 第３章　コミュニケーションとプレゼンテーション 第４章　会議の進め方・合意形成の図り方
巻末資料

1. 実践研修 運営体制


林野庁
・連絡調整
・情報提供
・監督
・連絡調整
・募集告知、受講生等集計、参加案内等
令和4年度
技術力維持・向上対策研修運営委託事業
統括事務局
＜役　割＞
●林野庁との連絡、調整
●外部講師の依頼、調整
●実践研修の実施、事務局の選定並びに調整、運営協力、統括管理
●テキストの作成
●予算並びにスケジュール管理
●研修参加者への案内等
全国林業改良普及協会
■役割（主たるもの）
統括事務局（研修窓口）の設置
予算並びに業務管理
ブロック運営事務局への指導・支援、全体進行管理
株式会社 森林環境リアライズ
Small Planet
■役割（主たるもの）
研修参加者への案内等
・研修場所、施設、カリキュラム内容等調整
各森林管理局（5ブロック）
・研修運営補助者への指示
・運営
・再委託
・運営指導
・運営フォロー
・連携協力
ブロック運営事務局
北海道
株式会社 森林環境リアライズ
東北
岩手県森林組合連合会
中部
株式会社 益建リバース
近畿中国
新見市森林組合
四国
高知県森林組合連合会
＜役　割＞
●実践研修の事前準備（運営補助人材の確保と配置）、研修施設、移動手段、資機材の確保等
●受講生、関係者の宿泊施設の確保
●研修運営のサポート（安全管理、研修関係者との調整等）
●研修実施報告書の作成
・運営の
サポート
実践研修
研修参加
研修受講生
・森林総合監理士
・都道府県職員
・市町村職員
・森林管理局職員
・森林整備センター
・団体職員等
・募集告知
・参加者調整
都道府県・国有林担当・森林整備センター窓口

①北海道ブロック・実践研修のカリキュラムと概要(シラバス)

【研修テーマ:資源循環利用構想実習　～木材供給ビジョンを考える～】

	午　前				午　後						
9月 13日 (火)				集合	13:00～13:20	13:20～13:45	13:45～14:00	14:10～15:10	15:10～15:30	15:40～17:05	17:05～17:15
					(20分) 開講式 オリエンテーション (担当:局研修担当官)	(25分) 研修の目的・内容 (担当:局研修担当官)	(15分) 【講義】 森づくり構想に関する基礎知識 (担当:局講師)	(60分) 【講義】 木材需給・流通に関する基礎知識 (担当:外部講師)	(20分) 【講義】 森林資源循環利用に関する基礎知識 (担当:局講師)	(85分) 【机上演習】 グループ演習① 施業案を机上作成 (担当:局研修担当官)	(10分) まとめと翌日の現地検討の進め方説明 (担当:局研修担当官)
9月 14日 (水)	8:30～12:00			12:00～13:00	13:00～14:30			14:30～17:00			
	(バス移動含む) 【現地演習】 グループ演習② 現地にて林況等を踏まえた机上案の確認・検討 (担当:局研修担当官、外部講師、局講師)			昼食	【バス移動】 (担当:局研修担当官)			【机上演習】 グループ演習 ③机上案の修正 (担当:局研修担当官)			
9月 15日 (木)	9:00～10:00	10:00～10:45	11:00～12:00	解散							
	(60分) 【机上演習】 グループ演習④ 机上案の発表準備 (担当:局研修担当官)	(45分) 【発表】 検討結果の発表⑤ 質疑応答 (担当:局研修担当官、外部講師、局講師) 15分(発8、PKT2、質5)×3班 45分	(60分) 【講評等】 検討結果に対する講師講評 (外部講師/内部講師)								

(現地演習:石狩森林管理署管内国有林)
(机上演習等:北海道森林管理局大会議室)

実践研修の概要

北海道ブロック

テーマ	資源循環利用構想実習　～木材供給ビジョンを考える～				
研修場所	小樽市	実施日	9月13日～9月15日	該当する大目標	森林・林業を地域の振興につなげるビジョンを構築できる能力の習得

【研修のねらい・目標】

現地実習で確認した団地を対象として、経営ビジョンを様々な観点から検討し、集約的かつ効率的な森林整備の戦略及び地域の将来ビジョンを描く能力を養う。

【本研修の必要性】

人工林資源が利用期を迎えていることから、森林資源の循環利用が課題であり、公益的機能を発揮しつつ資源の齢級構成の平準化も見据えた森林整備が重要である。このためには、中長期的かつ面的広がりの視点を持ち、適時適切な施業を行う他、自然条件等に応じて多様な森林へ誘導する必要がある。また、木材の流通・販売を理解し、広域的な販売戦略を考えることも重要である。

【講義のポイント】

【講義】
①「森づくり構想」
②「森林資源循環利用構想」
③「木材需給・流通に関する基礎知識」

【グループ演習】
演習地における森林整備の戦略及び地域の将来ビジョンを考える。

・机上案作成 ：各グループ内で検討。グループの森林整備の戦略及び将来ビジョン案を作成する。（初日）
・現地演習 ： 演習の現地において、机上案の実現性・妥当性等を確認・再検討し、森林整備の戦略及び将来ビジョンを確定する。（2日目）
・発表・講評 ：各グループの森林整備の戦略及び将来ビジョンをプレゼンテーションし、全員で共有し講師から講評を受ける。（3日目）

【まとめ】
木材のサプライチェーンに向けた、今後の取り組みについて。

地域における森林・林業の現状（問題点等）について、把握しておく。

【研修講師】

嶋瀬拓也（（研）森林研究・整備機構　森林総合研究所　北海道支所　地域研究監）

②東北ブロック・実践研修のカリキュラムと概要(シラバス)

【研修テーマ:路網配置計画と情報化技術を用いた現地踏査】

9月6日(火)(午後)								
13:00～13:30	休	13:40～14:40	休	14:50～15:50	休	16:00～16:30	16:30～17:30	17:30～17:45
30分	息	60分	息	60分	息	30分	60分	15分
開講式 オリエンテーション等		【講義】 森林作業道とは		【講義】 森林作業道配置計画の基礎知識		【演習】 情報技術を用いた森林路網計画の手順と方法	【グループワーク】 森林作業道配置図の作成	連絡報告等
局研修担当		外部講師					外部講師 局講師	

9月7日(水)(午前)					9月7日(水)(午後)				
8:30～9:10	9:10～9:20	9:20～10:30	10:30～11:00	11:00～12:00	12:00～12:50	12:50～15:00	15:00～15:30	15:30～16:30	16:30～17:15
40分	10分	70分	30分	60分	50分	130分	30分	60分	45分
バス移動 「雫石町御明神公民館」へ	前日のふりかえり、現地検討の進め方	【演習】 森林作業道配置図の作成等	公民館から「演習箇所」へ移動	【演習】 森林作業道配置事例の研究	昼食	【演習】【グループワーク】 森林作業配置の現地検討 ～情報化技術を用いた現地踏査～	演習箇所から「公民館」へ移動	【グループワーク】 森林作業配置図の作成 路網配置の決定とその評価	バス移動 公民館から研修会場へ
	局講師	外部講師 局講師		外部講師 局講師		外部講師 局講師		外部講師 局講師	

9月8日(木)(午前)						
9:15～9:20	9:20～10:20	休	10:30～11:15	11:15～11:45	11:45～11:55	11:55～12:05
5分	60分	息	45分	30分	10分	10分
日程説明	【グループワーク】 森林作業配置図の作成 路網配置の決定とその評価		発表	講評	アンケート記入	閉校式
局研修担当	外部講師 局講師				局研修担当	

実践研修の概要

東北ブロック

テーマ	路網配置計画と情報化技術を用いた現地踏査				
研修場所	盛岡市	実施日	9月6日～9月8日	該当する大目標	循環的な木材生産の戦略を描ける能力の習得

【研修のねらい・目標】

情報化技術を活用し、地形・地質及び立木の資源状況に応じた適切な森林作業道の配置計画を考えることができ、実践的な指導・助言ができるようにする。

【本研修の必要性】

地域の森林を整備・管理し、木材を搬出して森林・林業を再生していくためには、路網が適切に整備されていることが重要である。しかしながら、地域における森林作業道の計画を立案できる技術を有する者は少ない状況にある。

そのため、情報化技術を活用した森林作業道の路網配置計画を有するとともに、現地の林況に応じた効率的な森林作業道の配置を計画できる者を育成していくことが必要不可欠である。

本研修によって、既設の森林作業道を検証するとともに新たな森林作業道の計画及び現地における検討を通じて、実践的な指導・助言ができるようになる。

【講義のポイント】

【講義：外部講師】

現地検討を深めるため、テーマに関連した技術的な最新の知見、現地検討のポイント等についての講義を実施する。

【グループ演習】

講義の実施後に机上で、1／5,000図面（白図）および、CS立体図に森林作業道を計画する。

【現地演習】

現地の既設森林作業道を確認・検証する。

机上の森林作業道計画図面により現地踏査を行い、図面と実際の現地の違いを確認する。

情報化技術によって表現された情報と現地での実態を理解する

【グループ演習・発表・意見交換】

机上の森林作業道計画図面に基づいて、現地を確認した上で、班ごとに地形・地質等により森林作業道の計画位置変更等、効率的な森林作業道作設に向けた検討・発表・意見交換を行う。

【研修講師】

斎藤仁志（岩手大学農学部　准教授）

③中部ブロック・実践研修のカリキュラムと概要(シラバス)

【研修テーマ：伐採・造林一貫作業システム(架線)と木材流通】

場所：岐阜県下呂市（下呂市民会館2F会議室）、岐阜県下呂市(乗政国有林１１２１へと林小班）ほか

	午　前	午　後		
1日目 9月13日 （火）		13：00～13：30	13：30～17：10	17：10～ 17：15
		（30分）	（3時間30分）	（5分）
		・開講式 ・オリエンテーション	**講義・説明・演習** ・伐採・造林一貫作業システムについて ・採材・仕分けについて ・伐採計画の演習について	・2日目の現地検討について
		研修担当	林野庁講師	研修担当

	午　前	午　後			
2日目 9月14日 （水）	8：15～12：15	12：15～13：00	13：00～14：00	14：30～17：10	17：10～ 17：15
	（4時間00分）	（45分）	（1時間00分）	（2時間40分）	（5分）
	伐採・造林一貫作業システム及びコンテナ苗生産事業地での現地検討・意見交換等 ・搬出の実施状況 ・地拵え、シカ防除対策等の確認 ・伐採・造林一貫作業システムによる主伐計画の検討 ・コンテナ苗生産事業地での講義、意見交換	昼食	**市場視察・意見交換** ・流通・販売等の講義、意見交換	**発表準備** ・伐造一貫作業による主伐及び低コスト造林について、図面・シート等作成	・3日目の日程について
	林野庁講師・外部講師		外部講師	林野庁講師	研修担当

	午　前					午　後
3日目 9月15日 （木）		8：55～ 9：10	9：10～11：25	11：35～ 11：50	11：50～ 12：10	
		（15分）	（2時間10分）	（15分）	（20分）	
		・日程説明 ・発表方法等説明	**発表準備・発表** ・架線系作業システムによる主伐計画について、図面・シート等作成 ・発表、ディスカッション	・講師講評	・集合写真 ・アンケート ・閉講式	
		研修担当	研修担当	林野庁講師	研修担当	

実践研修の概要

中部ブロック

テーマ	伐採・造林一貫作業システム（架線）と木材流通				
研修場所	下呂市	実施日	9月13日～15日	該当する大目標	循環的な木材生産の戦略を描ける能力の習得

【研修のねらい・目標】

林業の成長産業化に貢献するためには、主伐・再造林を適切かつ低コストで実施する必要があることから、伐採・造林一貫作業システムについて現地検討・意見交換を行うことにより、課題解決力の向上、実践的な指導・助言ができる技術者の育成を図る

【本研修の必要性】

主伐・再造林を進めるためには、地拵え等造林コストの縮減や、作業の効率化を図るため、林地残材の活用、コンテナ苗の利用推進が重要であり、そのためには、伐採・造林一貫作業システムを導入することにより、作業効率・コスト及び木材流通等の課題に対応できる技術者の育成が必要

【講義のポイント】

【講義等】
①伐採・造林一貫作業システムについて（内部講師）
→搬出計画（架線）の作成について講義、実習
→採材・仕分けについて講義
→造林コストの低減に向けた作業システムについて講義

②コンテナ苗の生産等について（外部講師）
→コンテナ苗の生産等に関する講義

③流通・販売について（外部講師）
→市場での有利販売に向けた取組、木材流通等に関する最新の情報について講義

【現地実習・視察・意見交換】
①1日目に作成した主伐計画の机上案により、伐採・造林一貫作業システム実施箇所の現地確認および集材方法・搬出系統等について検討し、効率的な搬出・造林作業ができるよう現地実習、意見交換
②コンテナ苗生産箇所視察、意見交換
③市場、木材流通等について視察、意見交換

【グループ演習・発表】
①講義・現地実習及び視察を踏まえ、伐採・造林一貫作業システムによる搬出計画の検討を行い、主伐から植栽、流通までを班内で検討しとりまとめ、発表・全体討議・講評

【研修外部講師】

川添峰夫（住友林業株式会社　岐阜樹木育苗センター　シニアマネージャー）
杉山永喜（下呂総合木材市売協同組合　理事長）

④近畿中国ブロック・実践研修のカリキュラムと概要(シラバス)

【研修テーマ:一斉人工造林地における地位区分等に応じた森林施業】

日　程:令和4年9月14日(水)～16日(金)(2泊3日)

新見商工会議所

	午前	午後						
1日目		13:00～13:10	13:10～13:20	13:20～13:40	13:40～15:40(休憩10分含む)	15:40～16:10	16:10～17:00	17:00～17:30
		開講式(10分)	オリエンテーション(10分)	実践研修ガイダンス(20分)	【講義】 ①今後の森林づくりの考え方について(20分) ②多様な森林づくりの構想について(70分) 班内共有＋質疑(20分)	グループ演習・現地検討の進め方、発表のとりまとめ方説明(30分)	【グループ演習1】(50分) 現地検討前の打合せ	ふりかえり(30分)
			進行役	研修担当官	外部講師 局講師	進行役	外部講師 局講師	進行役

2日目	8:00～9:10	9:10～9:20	9:20～10:10	10:10～13:30(昼食40分含む)	13:35～14:30	14:30～17:00(休憩10分含む)	17:00～17:20
	車移動	現地検討の進め方説明(10分)	【現地検討】古谷国有林(50分) 天然力を活用した森林づくり(天然生広葉樹の活用事例の調査)	【現地検討】古谷国有林(160分) 一斉人工造林地における今後の森林施業(地位等の森林の状況の調査)	車移動	【グループ演習2】(140分) 現地検討結果を踏まえて、「一斉人工造林地における今後の森林施業」をテーマとして、目標林型等について検討(50分)し、発表をとりまとめ(90分)	ふりかえり(20分)
		進行役	外部講師 局講師	外部講師 局講師		外部講師 局講師	進行役

3日目	8:30～8:40	8:40～11:05(休憩15分含む)	11:05～11:25	11:25～11:55	11:55～12:00	
	本日の進め方説明(10分)	【グループ演習3(発表・意見交換)】(130分) 発表準備:50分　休憩:間に15分 (発表10分、班内共有5分、質問7分)×3班＝66分 全体を通した意見交換:14分	講評(20分)	ふりかえり、アンケート記入(30分)	閉講式(5分)	
	進行役	外部講師 局講師 進行役	外部講師 局講師 林野庁	進行役		

実践研修の概要

近畿中国ブロック

講義等名	一斉人工造林地における地位区分等に応じた森林施業				
研修場所	新見市	実施日	9月14日～16日	該当する大目標	森林を科学的に評価する能力の習得

【研修のねらい・目標】

・ 既存の人工林について、目的を再確認・再設定し、その目的を達成するために最適な目標林型を導き出す能力の習得。
・ 天然力を活用した森林づくりに関する知見及び意識の向上。

【本研修の必要性】

森林の管理を正しく進め、適切な施業技術を適用するためには、森林の現況やそこで発揮が求められる機能（木材生産、生物多様性の保全など）に対応した森林の将来像を描き、森林施業を進めていくことが重要であり、森林総合監理士には、そのような将来像を描く力が求められている。

人工林は、多くの場合、木材生産を目的として造成され、現存する人工林の多くは、短伐期施業による柱材生産を生産目標としてきた。しかしながら、木材需要動向の変化や森林の持つ多面的な機能への期待の高まりなどを受け、目的を再確認（場合によっては再設定）し、その目的を達成するために最適な目標林型を明確にする必要が生じている。既存の人工林で生産目標を再設定する際には、地位や林木の形状からみて、達成可能なものでなければならない。

昨年6月に閣議決定された新たな「森林・林業基本計画」では、現況が育成単層林のうち、林業に適した場所に位置する森林はこれを維持する一方で、それ以外は育成複層林化を図り、あわせて、天然生林を適切に維持することなどにより、一定の広がりにおいて様々な生育段階や樹種から構成される森林がバランス良く配置された望ましい森林の姿へと誘導するとされている。

また、森林経営管理制度では、森林所有者自らが森林の経営管理を実行できない場合に、市町村が森林の経営管理の委託等を受け、そのうち自然条件が悪く再委託ができない等の森林は市町村が管理を実施することとなる。その際には、公益的機能を発揮しつつ、管理コストが小さくなるよう、針広混交の育成複層林等へと誘導する必要がある。森林総合監理士には、この市町村による公的管理の取組への技術的支援が求められている。

【講義】

① 今後の森林づくりの考え方について【内部講師：計画課 流域管理指導官】今後の森林づくりに関する政府方針
② 多様な森林づくりの構想について【外部講師：森林総研関西支所 森林生態研究グループ長】目標林型や地位について

【現地検討】

① 一斉人工造林地における今後の森林施業
45haの一斉人工造林地をフィールドとして、図面、衛星画像、森林調査簿等を用いて机上調査するとともに、地位等の森林の状況を現地調査
② 天然力を活用した森林づくり
天然生広葉樹を活用して針広混交林の造成を行っている林分を調査

【グループ演習】

班ごとに、45haの一斉人工造林地をフィールドとして、現地検討の結果を踏まえて、「一斉人工造林地における今後の森林施業」をテーマに、以下の手順で検討し、発表をとりまとめる。

①森林の現況（地位、森林被害状況等）と生産活動の可能性（路網、効率的な作業システム導入の可否等）の2つの視点から木材生産機能を評価するとともに、生物多様性などの他の公益的機能の発揮が重視される区域を検討。
②①の結果から、区域と区域毎の目的を設定し、それぞれの目的を達成するために最適な目標林型（木材生産を目的とする場合は、伐期齢、伐期における主林木の胸高直径と本数密度。それ以外を目的とする場合には、混交林等）を検討。
③目標林型に導くための森林施業について検討するとともに、近い将来更新を行うことを想定した場合には更新方法等を検討。

各班から検討結果の発表を行ったのち、全員でディスカッションすることにより、技術的ポイント等を共有する。

【外部研修講師】

山下直子（（研）森林研究・整備機構　森林総合研究所　関西支所　森林生態研究グループ長）

⑤四国ブロック・実践研修のカリキュラムと概要(シラバス)

【研修テーマ：地形に応じた効率的な架線集材作業システムと木材流通について】

実施期間：令和4年10月18日（火）～令和4年10月20日（木）

日程	午　前					午　後					
10/18 （火）						13：00～13：30	13：30～15：00		15：10～15：50		16：00～16：40	16：40 ～17：00
						【開講式】 （30分） ・森林整備部長挨拶 ・研修主旨、意図、留意点の説明 （四国局会議室）	【講義】 （90分） ・今後の世界の木材需要動向等について 外部講師 （四国局会議室）	（10分） 休憩	【講義】 （40分） ・集材架線システムの資料作成の説明（コスト計算等） ・GIS操作方法 内部講師 （四国局会議室）	（10分） 休憩	【実習】 （40分） 机上で1/5000図面に搬出系統図（集材線・路網）を記入。 内部講師 （四国局会議室）	（20分） ふりかえり （四国局会議室）
						後藤研修担当	株式会社サイプレス・スナダヤ 代表取締役社長　砂田　和之		資源活用課 森林技術・支援センター			後藤研修担当
10/19 （水）	8：15～9：45		9：55～11：05	11：05～12：00	12：00 ～12：50	12：50～14：15			14：25～15：20		15：20～16：40	16：40 ～17：00
	（90分） 【ジャンボタクシーにて現地へ移動】 （トイレ休憩含む） 朴ノ川山国有林 3210い1林小班	（10分） 実習 準備	（70分） 採材研修 ・各班、自班の採材木と、外の班の採材木を採材（合計2本）し、その結果を発表 ・その結果に対する講評（南所長） 外部・内部講師 （朴ノ川山国有林）	（55分） 素材生産作業現場見学及び説明 ・事業概要 ・集造材から運材までの作業工程説明及び見学 外部・内部講師 （朴ノ川山国有林）	（60分） 昼食 搬出系統図の確認が必要であればドローンで確認 （朴ノ川山国有林）	（85分） 【ジャンボタクシーにて四国局へ移動】 （トイレ休憩含む）		（10分） 休憩	（55分） 簡易な架線集材設備の見学及び操作演習 ・架線設備説明 ・電動集材機操作 内部講師 （四国局駐車場）		（80分） 各班で現地確認を踏まえた、集材架線システムの資料作成 内部講師 （四国局会議室）	（20分） ふりかえり （四国局会議室）
			高幡共販所 資源活用課	株式会社清水林業 資源活用課					資源活用課 森林技術・支援センター		資源活用課 森林技術・支援センター	後藤研修担当
10/20 （木）	8：15～9：40		9：50～11：30	11：30～12：00								
	（85分） 各班で現地確認等を踏まえた、集材架線システムの資料作成 内部講師 （四国局会議室）	（10分） 休憩	（100分） 各班発表 ①15名（4班） ②各班20分（発表10分、質疑応答8分）×4班＝80分 ③講評10分 （四国局会議室）	（30分） ・ふりかえり（10分） ・アンケート（10分） ・閉講式（10分） ・終了/解散 （四国局会議室）								
	資源活用課 森林技術・支援センター			後藤研修担当								

実践研修の概要

四国ブロック

講義等名	地形に応じた効率的な架線と作業路網を組み合わせた集材作業システムと木材流通について				
研修場所	須崎市上分	実施日	10月18日～20日	該当する大目標	循環的な木材生産の戦略を描ける能力の習得

【研修のねらい・目標】

急峻な地形に応じた効率的な架線系と作業路網を組み合わせた集材作業システムや大型製材工場の木材利用・流通事情について現地検討・意見交換を行い、地域における木材の安定供給について実践的な指導・助言ができる人材の育成を図る。

【本研修の必要性】

四国においては、地形が急峻な箇所が多いなか、地域の特性に応じた効率的な架線集材システム、現地特性に応じた林業機械の組み合わせによる生産の効率化等が課題となっていることから、架線集材、高性能林業機械等を組み合わせた事業現場で現地検討等を行う。

また、大型製材工場や木質バイオマス発電所が操業開始後、約10カ年が経過、その後、他県においても大型工場やバイオマス発電プラント等が操業されていることから、最新の木材利用・流通事情及び今後の動向等について、情報を共有し、それぞれの地域における取組みに資する。

【カリキュラムのポイント】

［1日目］
【講義】
①世界の木材需要動向等について〔外部講師〕
②架線系作業システムについて説明〔内部講師〕
③各班、机上で1／5000の図面に搬出系統図（集材線・路網）の作成

［2日目］
【現地視察】
①採材研修を実施〔外部・内部講師］
②事業地の集材作業システムについて説明。〔外部講師（素材生産請負事業者）〕
③各班、事前に1／5000の図面に記入した、搬出系統図（集材線・路網）の確認再検討を行う。〔外部・内部講師〕
④架線集材設備の基礎知識の習得（簡易な索張見学）［内部講師］

［3日目］
【意見交換】
①各班で現地確認等を踏まえた、集材作業システムの発表（コスト計算含む）の資料づくり。
②発表・意見交換・講評

【研修外部講師】

砂田和之（株式会社サイプレス・スナダヤ　代表取締役社長）
南　朋広（高知県森林組合連合会　高幡共販所　所長）
清水誠生（株式会社清水林業　代表取締役）

Ⅱ. 各ブロックの研修実施状況

実践研修の実施状況を共有する資料として、各ブロックの研修の概要をまとめた「実施報告書」、研修運営を通じた問題点と改善策をまとめた「運営改善報告」、受講生のアンケートを集計した「アンケート結果」を作成した。

なお、「実施報告書」は、受講生サイトに掲載した。

１．北海道ブロック
(1)実施報告書

実践研修　実施報告書（北海道ブロック）

１ 日程・研修場所　　令和4年9月13日（火）～9月15日（木）
研修会場 北海道森林管理局　大会議室（北海道札幌市）
現地実習 小樽市国有林4149林班ほか（北海道小樽市）

２ 研修受講者数：11名 ［男性：8名　女性：3名］
（道職員5名、県職員1名、市職員1名、森林管理局職員4名）

北海道	5	名	兵庫県	1	名	北見市	1	名	森林管理局	4	名

途中欠席者数　0　名

３ 研修実施概要

〇研修運営状況、研修生の様子など
・1日目は開講式の後、受講生は自己紹介カードを使い自己紹介を行った。根本内部講師より「森づくり構想に関する基礎知識」の講義が行われ、嶋瀬外部講師から「木材需給・流通に関する基礎知識」の講義が行われた。次に、林内部講師より、「森林資源循環利用に関する基礎知識」の講義が行われた。その後、各班ごとに机上で施業計画案の作成を行った。
・2日目は貸切バスを利用して、小樽市国有林へ移動し、現地演習を行った。研修スタッフよりスケジュール等の説明が行われた後、班ごとに分かれ、前日に作成した施業計画案修正のため、現地確認を行った。現地演習後は会場へ戻り、最終案に向けての検討を行った。
・3日目は各班ごとに発表・質疑応答を行った。発表後、嶋瀬外部講師らによる各班の施業計画についての講評及び今後の留意点等の補足が行われた。講評を受けて、受講生より最終的な意見等を交換・共有を行い、当研修は閉講した。
〇今回の研修の工夫
・資源循環利用構想（ビジョン）を検討する際、森林総合監理士等として「施業計画を立て、資源が持続的かつ有効に活用されるよう地域を先導し、森林・林業の再生等を体験する」研修であることを1日目のイントロで説明し、受講生の思考の目合わせを行った。
・森林総合監理士としての業務から相当年数離れている者等が多いと思われることから、森林総合監理士としての基礎的な視点に加え、実践例なども織り交ぜて講義を行った。
・地域ビジョンを作成する際には、事業計画を策定するだけではなく、事業収支や森林環境譲与税の活用等を踏まえつつ、林業再生を主軸とした地域振興まで繋げていくよう導いた。

４ 記録写真

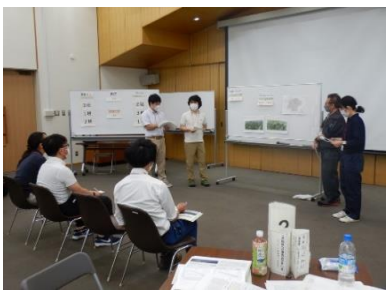
嶋瀬外部講師による講義：1日目

グループワークによる施業計画の机上案作成：1日目

現地演習での机上案の確認・修正：2日目

現地演習での机上案の確認・修正：2日目

施業計画の修正と計画概要作成：2日目


検討結果の発表：3日目

(2)運営改善報告

研修に同行した運営補助者の所感、研修後のミーティングから問題点、改善策を取りまとめる

項目	問題点	今後に向けての改善策
研修テーマ・カリキュラム	特記事項なし。	○次年度以降も、研修テーマ（演習地）と講義内容が合致するよう検討する。
講義・演習	特記事項なし。	①講義内容については、外部講師との兼ね合いについても考慮する。 ②「アンケート」では、グループ演習の時間が足りないとの声もあることから、グループ演習時間の拡大を検討する。
現地実習	○特記事項なし（実習地・見学地への移動時間も程よく、実習に当てる時間を十分に取ることが出来た）。	○次年度以降も、移動時間を極力短縮し、現地確認や検討時間を確保する。また、休憩時間（場所）にも配慮する。
その他	○一部の受講生から、研修運営等（グループ演習や安全対策の実施）に支障ある言動（遅刻等）が度々あった。	①グループ演習時に班サポート講師を配置し議論等の整地化を図るとともに、関係機関等へ研修趣旨等を理解できる人選となるよう、再要請を検討する。 ②次年度以降も、受講生の負担を減らす工夫（会場設定、交通機関、駐車場、現場用品の準備、宿泊場所など）をしていく。

(3)アンケート結果

回収率:11名/11名(100%)

Ⅰ　森林総合監理士資格の有無

(1)森林総合監理士資格の有無

1 ：森林総合監理士　　（　6 名 ）
2 ：資格なし　　（　5 名 ）

Ⅱ　本研修に対する理解度、活用度

(1)研修内容についてどの程度理解できましたか？

できなかった				できた	
1	2	3	4	5	平均: 3.8

1 （　0 名 ）
2 （　0 名 ）
3 （　2 名 ）　現場に関する知識が足りずレベルが高い研修と感じた
4 （　9 名 ）　おおむね理解できた／広葉樹の取扱方法を考える必要性を感じた
5 （　0 名 ）

(2)今後、森林総合監理士等の活動を行う上で、どの程度活用できそうですか？

できない				できる	
1	2	3	4	5	平均: 3.9

1 （　0 名 ）
2 （　0 名 ）
3 （　3 名 ）　資格は持っていないが森林の理解度をさらに深めていきたい
4 （　6 名 ）　チーム内の合意形成や市長など他者への説明に生かしたい／流通や利活用の視点や知見が参考になった
5 （　2 名 ）　全て活用できると思う

Ⅲ　本研修に対する全体としての満足度、運営に対する評価

(1)テーマの設定について(※森林総合監理士等の活動を行う上での評価として下さい)

低い		満足度		高い
1	2	3	4	5

平均: 4.0

1 (　0 名)
2 (　0 名)
3 (　2 名)
4 (　7 名)　小樽市という観光都市での木材供給体制を考えるのは難しかったが勉強になった
5 (　2 名)　北海道庁、市町、国が連携しとても有意義な研修だった

(2)テーマに対するカリキュラムの内容について

低い		満足度		高い
1	2	3	4	5

平均: 3.8

1 (　0 名)
2 (　1 名)　実践研修とは言えないように感じた
3 (　1 名)
4 (　8 名)　外部講師の木材需給や流通に関する資料が分かりやすく印象に残った／現地の林分が悪くて残念だった
5 (　1 名)　コスト計算の経験ができた

(3)カリキュラムの時間について

低い		満足度		高い
1	2	3	4	5

平均: 3.7

1 (　0 名)
2 (　1 名)　もう少し現場の状況をふまえて計画できればよかった
3 (　4 名)　全体的に余裕がなかった
4 (　3 名)
5 (　3 名)　ちょうど良かった

(4)研修の進行・運営の流れについて

良くなかった				良かった
1	2	3	4	5

平均：4.5

1 （　0 名 ）
2 （　1 名 ）　検討時間が短かった。受講生が意見を話せる時間が短かった
3 （　0 名 ）
4 （　3 名 ）　スムーズな進行で問題なかった
5 （　7 名 ）　時間管理がうまかった／現場も見ることができ良かった

Ⅳ　その他

自由に感想をお書き下さい。（研修の中で特に印象に残ったこと等）

- 今回得た知見を日頃の業務に活用していきたい
- 当班は市、道、国の担当者が揃い、有意義な意見交換ができた
- 講師や道職員等、色々な観点からの話を聞けて勉強になった
- 合意形成は難しいと感じた
- グループワークをしてみてこれまでの林業（経済林）の考え方にどうしてもなってしまうと感じたので１日目の講義の中に木材の高付加価値化の事例紹介などあるとよいと思った
- 国と民の施業の考え方（他県を含めて）の違いについての説明があったらよかった。研修場所が北海道なので、考え方が違っても合わせているように感じた
- 他班の方々とも話ができたらよかった

2. 東北ブロック
(1)実施報告書

実践研修　実施報告書（東北ブロック）

1 日程・研修場所　　令和4年9月6日（火）～9月8日（木）
研修会場 アイーナ いわて県民情報交流センター　会議室501（岩手県盛岡市）
現地実習 雫石町御明神荒沢山国有林 735 は1林小班外（岩手県雫石町）

2 研修受講者数：13名 ［男性：11名　女性：2名］
（県職員1名、国有林職員2名、森林整備センター職員2名、民間事業体8名）

岩手県	1 名	国有林	2 名	整備センター	2 名	民間事業体	8 名

途中欠席者数　0　名

3 研修実施概要

〇研修運営状況、研修生の様子など
・1日目は、開講式で林野庁　研究指導課　安富係長より挨拶を行った後、講義に先立ち田中企画官から研修主旨等の説明があった。その後、岩手大学 斎藤講師の講義となり、情報化技術を用いた路線配置計画について説明が行われ、現地図面を使用して実習地の森林作業道を各班ごとに検討した。
・2日目は、御明神公民館にてスマートフォンを使った現地踏査の講義・アプリの操作説明等を行った後、実習地へ移動し、各班で作成した路線配置計画に基づく作設が可能か現地踏査を行った。その後、御明神公民館に戻り、作業道配置図作成についての再検討を行い終了した。
・3日目は、研修開始前に集合写真の撮影を行い、前日に引続き作業道配置図の作成を開始した。進捗状況を確認し、班ごとに作成図面を投影しながら発表を行った。発表終了後に、斎藤講師による講評、補足説明と施工事例等の紹介を行い全体の講義を終了した。その後、ふりかえりシートの記入と共有、アンケートの記入をした後、閉講式にて東北森林管理局　庄司課長の挨拶で研修の全日程を終了した。
・全体としては、班編成の属性・業務経歴等によるバランスが良く、活発に意見が出され、演習も全員が作業に参加し、検討・作成・発表が行われていた。講義も適切な時間配分により、グループワークに多く時間を割くことができていた。
〇今回の研修の工夫点
・講師提案により、1日目の講義冒頭の机の配置をスクール形式で実施し、受講生の向きについて配慮して実施した。
・室内会場がアイーナと御明神公民館の2箇所に分かれたことから、プロジェクターを2台で対応し、設営撤去の時間短縮を行った。

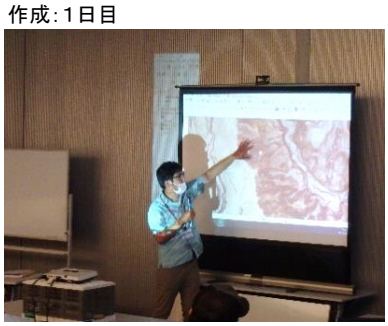
4 記録写真

【講義】森林作業道とは：1日目

【グループワーク】森林作業道配置図の作成：1日目

【演習】森林作業道配置図の作成等：2日目

【現地実習】森林作業配置の現地討論～情報化技術を用いた現地踏査～：2日目


森林作業道配置計画の発表：3日目

集合写真：3日目

(2)運営改善報告

研修に同行した運営補助者の所感、研修後のミーティングから問題点、改善策を取りまとめる

項目	問題点	今後に向けての改善策
研修テーマ・カリキュラム	○研修テーマの選定について、必要性の高い（求められている）ものかどうか検討が必要。	○研修テーマ・設計の検討が必要。
講義・演習	①序盤は班内での発言が少ないときがあった。 ②各班に準備したノートパソコンのセキュリティ設定によりオフラインのみの使用制限とアクセス制限があった。そのため、オンラインでのデータの送受信や講師のUSBが使えないなどデータの入出力に不便が生じた。	①サポートスタッフが混ざりきっかけを作る事で、意見を出しやすい雰囲気を作っていく。 ②制限がなくオンラインで使用可能なパソコンを準備する。
現地実習	○ハンドレベルの使用経験の無い班員のために、班内の経験者が指導する場面があった（踏査時間が少なくなる）。	○事前周知による対応が必要。
その他	特記事項なし。	特記事項なし。

(3)アンケート結果

回収率:13名/13名(100%)

Ⅰ　森林総合監理士資格の有無

(1)森林総合監理士資格の有無

1 ：森林総合監理士　　（　 3 名 ）
2 ：資格なし　　（　10 名 ）

Ⅱ　本研修に対する理解度、活用度

(1)研修内容についてどの程度理解できましたか？

できなかった				できた	
1	2	3	4	5	平均: 4.3

1 （　0 名 ）
2 （　1 名 ）　情報化技術を用いた路線計画についてあまり理解できなかった
3 （　0 名 ）
4 （　6 名 ）　ＣＳ立体図の読み取りの理解が深まった。作業道の作設についてこれからさらに理解を深めたい／現場での路網計画への活用方法がよく分かった
5 （　6 名 ）　ＣＳ立体図及びＧＩＳの活用の大切さを知った／ＣＳ立体図の具体的な地形情報の読み取り方が分かった

(2)今後、森林総合監理士等の活動を行う上で、どの程度活用できそうですか？

できない				できる	
1	2	3	4	5	平均: 4.3

1 （　0 名 ）
2 （　0 名 ）
3 （　4 名 ）　作業道作設や森林調査へ行く際に事前にＣＳ立体図を読み込んでいきたい／生かせることは生かしていきたい
4 （　1 名 ）　日々の業務の中で今回学んだことを繰り返し復習していきたい
5 （　8 名 ）　現地調査に行く前の事前の情報収集が円滑にできる／施業集約化や素材生産計画に大いに活用できる

Ⅲ　本研修に対する全体としての満足度、運営に対する評価

(1)テーマの設定について(※森林総合監理士等の活動を行う上での評価として下さい)

低い		満足度		高い
1	2	3	4	5

平均: 4.4

1 (　0名)
2 (　0名)
3 (　3名)　森林監理士として生かせるかは分からないが作業道のテーマ設定はとてもよかった
4 (　2名)　情報化技術を使いながらの研修がよかった
5 (　8名)　活動を行ううえで具体的に必要となる知識・技術が得られた／森林路網に対してさらに理解を深められた

(2)テーマに対するカリキュラムの内容について

低い		満足度		高い
1	2	3	4	5

平均: 4.5

1 (　0名)
2 (　0名)
3 (　2名)　Avenza Mapの操作をもう少し深く教えてほしかった
4 (　3名)　「作業道とは」という基礎的なところからの講義がよかった／路網配置による伐出コストの変化などがあってもよかった
5 (　8名)　様々な分野がバランスよく行われていた／座学、実習、グループワークを通して深い知識が学べてよかった

(3)カリキュラムの時間について

低い		満足度		高い
1	2	3	4	5

平均: 4.2

1 (　0名)
2 (　0名)
3 (　3名)　作業道を入れるための路線の確認ができたが、実際道を入れる工法まで検討してみたかった。またコスト比較をして議論するのも面白いと思った
4 (　5名)　演習・現地踏査にもう少し時間があればよかった
5 (　5名)　座学・現地とも十分な時間配分だった

(4)研修の進行・運営の流れについて

良くなかった				良かった
1	2	3	4	5

平均：4.6

1 （　0 名 ）
2 （　0 名 ）
3 （　2 名 ）
4 （　1 名 ）　現地で実践し評価しながらできてよかった
5 （ 10 名 ）　時間に無駄がなく円滑に実施していただいた

Ⅳ　その他

自由に感想をお書き下さい。（研修の中で特に印象に残ったこと等）

- 基礎的なところを頭の中に入れて、地図を見て現場を見て検討する、一連の流れがとてもスムーズで充実した内容だった
- 外部講師の講義が分かりやすかった／講師がよかった。かなり現場を歩かれている印象
- 様々な立場からの意見、現場の見方を知ることができてとても良かった
- 今まで森林施業図だけで現地確認していたが、今後ＣＳ立体図等を活用していきたい
- 林業を魅力あるものにし、担い手を確保していくためには情報化の活用がとても重要である
- 班のみなさんとざっくばらんに情報共有ができたことがよかった

３. 中部ブロック
(1)実施報告書

実践研修　実施報告書（中部ブロック）

１ 日程・研修場所　　令和4年9月13日（火）～9月15日（木）
研修会場 下呂市民会館　2階大ホール（岐阜県下呂市）
現地実習 小川長洞国有林1113林班外（岐阜県下呂市）

２ 研修受講者数：14名 ［男性：13名　女性：1名］
（県職員8名、市職員１名、森林管理局職員３名、森林整備センター職員１名、民間事業体１名）

富山県	１ 名	石川県	１ 名	長野県	２ 名	静岡県	１ 名	愛知県	１ 名
滋賀県	１ 名	広島県	１ 名	金沢市	１ 名	森林管理局	３ 名	整備センター	１ 名
民間事業体	１ 名								

途中欠席者数　０　名

３ 研修実施概要

〇研修運営状況、研修生の様子など
・【全　体】当初16名の参加予定であったが、新型コロナ対策の影響等により14名の参加となった。
・【１日目】欠席・遅刻なくカリキュラムどおり進行した。「開講式」では、中部森林管理局筒井企画官の進行により、森林整備部山口部長による開講挨拶、講師紹介・班毎に担当講師と受講生の交流含め自己紹介を行い、班長および発表者を選出した。「伐採・造林一貫作業システム講義」、「採材・仕分けについて」「伐採計画の演習において」では、受講生が現地のイメージがつくようドローン映像を流す等の工夫のもと講義・演習を実施し、２日目の現地研修の理解度がアップするよう促した。
・【２日目】天候もよく、現地実習はほぼ予定通り進行した。「伐採・造林一貫作業システム及びコンテナ苗生産事業地の演習」「市場視察」では、講師説明の直後に現地実習をして現場を目に出来たこともあり、活発な質問がなされ、充実した研修となった。会場に持ち帰った資料をもとに３日目の発表資料を作成し、各班とも時間内で完了することができた。
・【３日目】資料作成・発表準備が、スタッフの効率的なサポートのおかげで余裕をもって実施することができた。また質疑応答においても詳細な意見交換が行われていた。講評では、日置企画官から総括的に、安富評価係長からは他地域の情報を交えた視点で、長技術普及係長からは架線系システムが今後に活かせる貴重な研修であること等、多角的な視点でのお話をいただいた。その後、受講生間で最終的な意見等を交換・共有を行い、当研修は閉講した。
〇今回の研修の工夫点
・講師・スタッフ側が全体を把握し、受講生の習熟度合いをサポートした結果、スムーズに実施でき、また、ドローン映像を活用して理解度のアップに努め、伐採計画の演習効率化を図った。

４ 記録写真

開講式の様子：１日目

伐採計画演習：１日目

現地踏査の様子：２日目

育苗センターでの研修の様子：２日目

演習発表の様子：３日目

演習発表講評の様子：３日目

(2)運営改善報告

研修に同行した運営補助者の所感、研修後のミーティングから問題点、改善策を取りまとめる

項目	問題点	今後に向けての改善策
研修テーマ・カリキュラム	①外部講師が、カリキュラムの流れがつかみづらかった。 ②時間があれば最初に現地を見ておいてからの流れも理解しやすいのではないか。	①事前打合せをオンライン含め増やすこと検討。 ②スケジュール的に厳しいが様々な方向性で検討していきたい。
講義・演習	①受講生がフィードバック記入等で戸惑っていた感じがあった。 ②GISも使えた方がよいが国有林GISでは自治体や民間では使えない。	①説明をわかりやすく努め、一層のサポートを実施していく。 ②QGIS等を利用できるように検討していきたい。
現地実習	○育苗見学は時間が短かった。	○次年度以降の場所にもよるが、スケジュール調整して増やせたらよいので検討する。
その他	○特記事項なし(実習地・見学地への移動時間も程よく、実習に当てる時間を十分に取ることが出来た)。	○次年度以降も、移動時間を極力短縮し、現地確認や検討時間を確保する。また、休憩時間(場所)にも配慮する。

(3)アンケート結果

回収率:14名/14名(100%)

Ⅰ　森林総合監理士資格の有無

(1)森林総合監理士資格の有無

1 ：森林総合監理士　　（　6 名 ）
2 ：資格なし　　（　8 名 ）

Ⅱ　本研修に対する理解度、活用度

(1)研修内容についてどの程度理解できましたか？

できなかった				できた	
1	2	3	4	5	平均: 3.9

1 （　0 名 ）
2 （　1 名 ）　架線の知識がないなかで架線による搬出を検討するのは難しかった
3 （　3 名 ）　架線についての知識がなく理解ができたか不明だが、予備知識はできたので更なる知識習得が必要
4 （　6 名 ）　計画から下刈りまで各段階での低コスト化の意識が大切だと学んだ／架線を用いた一貫作業システムの検討の流れについて学べた
5 （　4 名 ）　架線の索張りや集材の方法などについてイメージができた／市場の講義は特に貴重

(2)今後、森林総合監理士等の活動を行う上で、どの程度活用できそうですか？

できない				できる	
1	2	3	4	5	平均: 3.5

1 （　0 名 ）
2 （　2 名 ）　自県ではほぼ100％車両系である
3 （　5 名 ）　コンテナ苗について参考になった／架線の可能性があれば提案するが、自県内で架線集材ができる事業体が限られるため架線の活用は限定的と思った
4 （　5 名 ）　今回の研修を生かし助言等していきたい／架線による皆伐を検討している事業体に対して何らかのアドバイスをしたい
5 （　2 名 ）　木材市場で得た経験は役に立つと思った

Ⅲ　本研修に対する全体としての満足度、運営に対する評価

(1)テーマの設定について(※森林総合監理士等の活動を行う上での評価として下さい)

低い		満足度		高い
1	2	3	4	5

平均: 3.6

1 (　0 名)
2 (　2 名)　各種搬出方法を検討することは良いと思った
3 (　4 名)　一貫作業システム、コンテナ苗の活用については経営計画、補助事業の確認などで指導のツールになると思う
4 (　5 名)　今後、自県でも架線が必要となってくるのでとても重要なテーマ／伐採技術には疎かったので勉強になった
5 (　3 名)　今後増えていくであろう架線の一貫作業システムを学べ助言等で生かせる

(2)テーマに対するカリキュラムの内容について

低い		満足度		高い
1	2	3	4	5

平均: 3.9

1 (　0 名)
2 (　1 名)　搬出方法を検討するのであればそれに係る経費を算出し比較検討が必要と感じた
3 (　3 名)　架線系初心者でもなんとか理解できる内容だった／集約化、経営制度を踏まえたうえで、現場における搬出の検討の流れであれば理解力も深まると思った
4 (　7 名)　伐採現場、育苗現場、市場を見学することができ中身が濃かった／班での机上検討、現地検討、それをふまえた計画の修正と流れで考えることができた
5 (　3 名)　造材、仕分けも重要であることを現場の方々から学ぶことで理解度が上がった

(3)カリキュラムの時間について

低い		満足度		高い
1	2	3	4	5

平均: 3.8

1 (　0 名)
2 (　1 名)　もう少し基本の講義の時間が必要と感じた
3 (　3 名)　現地検討時間がもう少しほしかった
4 (　8 名)　短めではあるが３日間は時間を確保しやすい／コンテナ苗や市場ではもう少し時間がほしかった
5 (　2 名)　苗木施設の時間がもう少しあればよいと思ったが全体的にはよかった

(4)研修の進行・運営の流れについて

良くなかった				良かった
1	2	3	4	5

平均: 4.1

1 （　0名 ）
2 （　1名 ）　２泊３日ならテーマは一つに絞った方がよいのではないか
3 （　2名 ）　全体的には良かった
4 （　5名 ）　ちょうど良かった
5 （　6名 ）　滞ることもなく分かりやすかった／班の指導を含めスムーズで丁寧な進行、運営だった

Ⅳ　その他

自由に感想をお書き下さい。（研修の中で特に印象に残ったこと等）

- 大変勉強になり有意義な研修だった
- 班担当の指導官をはじめ、国有林での情報を親身になって教えていただけた
- 伐採技術を深く学べたことは大きかった。儲かる林業を目指す上で検討していきたい
- 市場での造材、仕分けが付加価値を上げるということ、外部講師の想いが印象に残った
- 架線の研修は重要であると感じている
- 新しい林業に林業従事者所得と安全向上があるが低コストばかりに話が行っていると感じている
- 実際に架線搬出の現場を見学できたらもっとよかった。また各班毎の講評があるとよい
- 伐造一貫のメリットがより理解できるとよいと思う。架線系はどうしてもコストが高くなるため、収支がネックになる。皆伐には造林補助金も出ないため架線で収支を合わせるのが難しい
- コロナ禍で仕方ないが、全体の交流の場が必要と感じた

4. 近畿中国ブロック
(1)実施報告書

実践研修　実施報告書（近畿中国ブロック）

1 日程・研修場所　　令和4年9月14日（火）～9月16日（金）
研修会場 岡山県新見市高尾　新見商工会館　会議室（岡山県新見市）
現地実習 古谷国有林527林班（岡山県新見市大佐上刑部）

2 研修受講者数：7名 ［男性：6名　女性：1名］
（県職員2名、森林管理局職員1名、森林整備センター職員3名、民間事業体1名）

奈良県	1 名	和歌山県	1 名	国有林	1 名	整備センター	3 名	民間事業体	1 名

途中欠席者数　0　名

3 研修実施概要

〇研修運営状況、研修生の様子など
・1日目は、開講式において、林野庁業務課小口課長補佐が挨拶をされ、受講生を激励された。オリエンテーション後、ガイダンスを行い、講義に入った。今後の森づくりの考え方について、近畿中国森林管理局講師の講義の後、多様な森づくりの構想について、森林総合研究所関西支所の山下外部講師が講義を行った。その後、各班に班付講師を配置し、グループ演習を行い、現地検討に向けて机上調査、目標林型等を検討し、1日目のカリキュラムを終了した。
・2日目は、現地検討のため、バスにて演習地へ移動し、演習地を遠望した後、「天然力を活用した森づくり」の演習地に入り、山下外部講師から森林内での講義後、班ごとに演習地の踏査を行った。昼食後、研修会場に戻り、各班で取りまとめ、発表準備を行い2日目を終了した。
・3日目は、日程説明、各班発表準備の後、「一斉人工造林地における今後の森林施業」の発表、ディスカッションが行われた。また、受講生の地元、業務の実情や課題などの発表、ディスカッションをおこなった。最後に、森林管理局講師及び外部講師等が講評を行った。ふりかえりの後、閉講式では池田技術指導課長の挨拶で全日程終了となった。
・全体を通して、受講生が少ないこともあったが、スムーズな運営となった。2日目の現地検討の日に、バス出発時間を30分早めたことにより、その後の演習準備の時間が例年よりも余裕を持って取ることができ、ほぼ定時に終了できた。
〇今回の研修の工夫点
・2日目の現地検討の日にバスの出発時間を30分早め、また昼食を後に回して先に踏査をしたことで、例年よりも時間を有効に使うことができた。
・事前に、踏査地の作業道の草刈りを実施し、林内踏査地の急峻で足場が悪いところは階段を掘り、安全かつスムーズに現地演習が行えるように整えた。

4 記録写真

オリエンテーション　アイスブレイク風景：1日目

外部講師による講義：1日目

現地検討(遠望)：2日目

現地検討：2日目

グループ演習：2日目

プレゼン発表：3日目

(2)運営改善報告

研修に同行した運営補助者の所感、研修後のミーティングから問題点、改善策を取りまとめる

項目	問題点	今後に向けての改善策
研修テーマ・カリキュラム	特記事項なし。	特記事項なし。
講義・演習	○投影用パソコンに投影データが入っていなかった。準備段階でデータの投影確認を行っていなかった。	○準備段階で、統括事務局、ブロック事務局で準備状況について複数者での確認を徹底する。研修当日の準備時間に、データの投影確認を徹底する。事務局は森林管理局運営担当者と状況確認等のコミュニケーションをこまめにとる。不足の事態に備え、データは二重に用意しておくようにする。
現地実習	①測桿、林尺を用意していたが受講生に渡さなかった。 ②トランシーバーが通じなかった。	①タイムスケジュールに記載するなど、詳報を共有する。 ②他のトランシーバーを使用する。移動ルートを考慮し、途中に中継のための人員を配置できるか検討する。
その他	①研修のロジ資料に訂正箇所があった(昼食のお茶・弁当代金、座席表の入口の位置等)。 ②例年使用している5階の会議室が使用できず、1階の会場となったが、会場レイアウトの都合で講師席が少し遠かった。	①統括事務局とブロック事務局で、事前に複数者での確認を徹底する。 ②5階の会議室で研修実施ができるよう、他団体の定例会のない2週目・4週目に研修予定日を設定することが望ましい。また、会場を早めに予約する。どうしても1階の会議室での実施となる場合は、配置を横にするなど検討する。

(3)アンケート結果

回収率:7名/7名(100%)

Ⅰ　森林総合監理士資格の有無

(1)森林総合監理士資格の有無

1 ：森林総合監理士　　（　4 名 ）
2 ：資格なし　　（　3 名 ）

Ⅱ　本研修に対する理解度、活用度

(1)研修内容についてどの程度理解できましたか？

できなかった				できた	
1	2	3	4	5	平均: 4.1

1 （　0 名 ）
2 （　0 名 ）
3 （　1 名 ）　無知な状態で参加したが新たな視点ができた
4 （　4 名 ）　広葉樹に対して考えていければと思った／ゾーニングの基本について受講できた
5 （　2 名 ）　森林の持つ多様な機能を発揮させるための目標林型の設定の仕方について理解を深められた

(2)今後、森林総合監理士等の活動を行う上で、どの程度活用できそうですか？

できない				できる	
1	2	3	4	5	平均: 4.3

1 （　0 名 ）
2 （　0 名 ）
3 （　1 名 ）　所有者の思いは様々なので折り合いをつけながらやっていきたい
4 （　2 名 ）　針広混交林を進めているので活用したい
5 （　3 名 ）　県のゾーニングや市町村の経営管理制度指導などに生かしたい

Ⅲ　本研修に対する全体としての満足度、運営に対する評価

(1)テーマの設定について(※森林総合監理士等の活動を行う上での評価として下さい)

低い		満足度		高い
1	2	3	4	5

平均: 4.3

1 (　0 名)
2 (　0 名)
3 (　1 名)　森林総合監理士について調べてみたい
4 (　3 名)　大面積のゾーニングについて考えられて良かった／施業方法の提案は業務で行うことが多々あるので役に立つ
5 (　3 名)　広大な森林をどのように管理(保全、利用)していくかに関する知見を深められる内容だった

(2)テーマに対するカリキュラムの内容について

低い		満足度		高い
1	2	3	4	5

平均: 4.6

1 (　0 名)
2 (　0 名)
3 (　0 名)
4 (　3 名)　個人で行う検討、考察する時間が必要。その後班で集約したかった
5 (　4 名)　講義、現地実習、グループ演習、発表の流れは理解を深める上で良かった

(3)カリキュラムの時間について

低い		満足度		高い
1	2	3	4	5

平均: 4.1

1 (　0 名)
2 (　1 名)　検討時間が短く深い考察ができなかった
3 (　1 名)　ややスケジュールがタイト。現場の時間をもう少しとれればよいと感じた
4 (　1 名)　標準的な時間構成だと思う。ただ現地実習はもう少し踏査したかった
5 (　4 名)　ちょうど良かった／現地の踏査を調査にもう少し時間をかけたかった

(4)研修の進行・運営の流れについて

良くなかった　　良かった

1　2　3　4　5

平均：4.6

1（　0名）
2（　0名）
3（　0名）
4（　3名）
5（　4名）　スムーズで困ることはなかった／分かりやすかった

Ⅳ　その他

自由に感想をお書き下さい。（研修の中で特に印象に残ったこと等）

- 対面の研修ができて良かった。手厚い指導を受けることができた
- ゾーニングの目標林型で決める原則を知ることができとても良かった
- 広葉樹の知識等、所有者と協議するうえで参考になった
- シカ害の多い地域、傾斜の急な地域での対応について考えていきたい
- 研修内容を市町村や県の他の職員にフィードバックしていくという点では、もう少し都道府県職員からの参加が多ければ良かったと感じた

5. 四国ブロック
(1)実施報告書

実践研修　実施報告書（四国ブロック）

1 日程・研修場所　　令和4年10月18日（火）～10月20日（木）
研修会場 四国森林管理局（高知県高知市）
現地実習 朴ノ川山国有林3210い1林小班（高知県須崎市上分）

2 研修受講者数：15名 ［男性：14名　女性：1名］
（県職員6名、町職員1名、森林管理局職員4名、森林整備センター職員1名、民間事業体3名）

長野県	1 名	山口県	1 名	愛媛県	1 名	高知県	2 名	長崎県	1 名
本山町	1 名	森林管理局	4 名	整備センター	1 名	民間事業体	3 名		

途中欠席者数　0　名

3 研修実施概要

〇研修運営状況、研修生の様子など
・1日目は、林野庁研究指導課安富係長からの開講挨拶後、サイプレス・スナダヤ砂田社長による将来展望を見据えた木材産業の現況講義を行った。その後、資料作成の手順・簡易架線概略・GIS等説明がなされ、班ごとに搬出系統図の検討・案作成に入った。受講生たちは開講前着席時から自主的に情報交換を行うなど、アイスブレイク不要な良い雰囲気でスタートした。また、砂田社長による講義では、国産木材産業の可能性にポジティブな影響を受けた様子だった。
・2日目は、ジャンボタクシーにて現地実習地へ移動。各班1本の採材実習、現地搬出間伐の講義・見学、ドローンによる演習林を確認した。その後、会場へ戻り、四国森林管理局内にて架線集材模型操作を体験、班ごとに集材作業システムを再検討した。採材研修では、結果を造材により確認、傷の見落としを含めた実体験、架線集材の実操作など、机上と現実の差を体感した様子が伺えた。
・3日目は、各班、集材作業システム検討結果についてプレゼン資料を作成、発表・質疑応答を行った。その後、資源活用課原田課長による講評、森林技術・支援センター渡辺所長による閉講の挨拶をもって本研修を終了した。
・全体的に各受講生が終始積極的に参画し、今後の実務への貢献が期待できる様子だった。
〇今回の研修の工夫点
・採材案に基づき造材し丸太にした状態を確認、講評を受けた。採材のあり方が木材価値→収入にダイレクトに影響すること、傷の見落としにより強く印象を受け、理解が深まったように見受けられた。

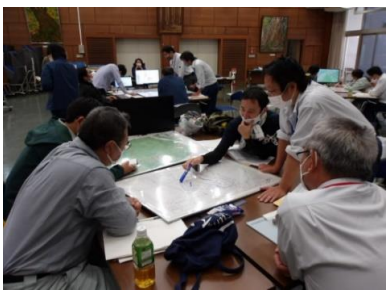
4 記録写真

搬出系統図（架線・作業道）検討・作成：1日目

外部講師による採材研修の説明の様子：2日目

外部講師による集材作業見学の様子：2日目

架線集材模型(エンドレス方式)の見学・集材機操作実習：2日目


発表用の搬出システム資料の作成：2～3日目

班ごとに作成したスライドの発表：3日目

(2)運営改善報告

研修に同行した運営補助者の所感、研修後のミーティングから問題点、改善策を取りまとめる

項目	問題点	今後に向けての改善策
研修テーマ・カリキュラム	①テーマである架線集材について、受講生が事前に持っている知識差が大きかった。 ②架線集材がテーマだったが、準備できる演習地の都合により、車両系の現場となった。 ③限られた講習時間に対し内容が幅広く、理解が不十分と感じる受講生がいた。	①②③共通 ・研修の募集対象者、目的、検討の前提条件など、ターゲットを絞ることを検討。 ・初日座学講義で、作業システムの全体像や地形・地質など条件に応じた作業システム選定の必要性を提示した上で今回のテーマに入り、研修の目的を明確等を検討するのも一案。
講義・演習	①架線集材のコスト情報に対する要望があった。 ②地域特性についての情報が不足していた。 ③発表の際、質問する班のメンバー同士で情報共有がなく、質問者個人の質問内容となっていた。	①座学時に、各方式のコスト情報を織り込むことを検討。 ②地域特有のマーケット情報をインプットする。 ③発表後、質問の前に班内で情報共有の時間を確保する。
現地実習	○架線集材という主テーマに対し、実習地が車両系中心の場所であったため、作業システムの検討結果に路網が織り込まれることとなった。	○架線作業中心の実習地でない場合は、敢えて架線を選択する前提条件を指示して、テーマである架線集材の知識を深めるよう方向づけることも一案。
その他	特記事項なし。	特記事項なし。

(3)アンケート結果

回収率:15名/15名(100%)

Ⅰ　森林総合監理士資格の有無

(1)森林総合監理士資格の有無

1 ：森林総合監理士　　（　 4 名 ）
2 ：資格なし　　（　11 名 ）

Ⅱ　本研修に対する理解度、活用度

(1)研修内容についてどの程度理解できましたか？

できなかった				できた	
1	2	3	4	5	平均: 4.0

1 （　0 名 ）
2 （　1 名 ）　３日目については県職員とのレベルの違いに驚き、全くついていけなかった
3 （　2 名 ）　内容的には理解できた
4 （　8 名 ）　全体的にイメージがしやすい構成だったので理解しやすかった／初歩的な考え方やルールについては理解できたと思う
5 （　4 名 ）　架線についてある程度予備知識があったのでよく理解できた／理解できたと思うが、実務でも生かせるように勉強したい

(2)今後、森林総合監理士等の活動を行う上で、どの程度活用できそうですか？

できない				できる	
1	2	3	4	5	平均: 4.1

1 （　0 名 ）
2 （　0 名 ）
3 （　4 名 ）　現在の活動区域では架線に対応できる事業体がほぼないが、今後の施業地検討のうえで武器とし得る集材方法だと思う
4 （　4 名 ）　活用できるが今回を皮切りにさらなる勉強が必要
5 （　6 名 ）　これまで架線集材を実際に計画設計をしたことがなかったので、今後、現場での生産計画を考える際の参考になった／今後、皆伐再造林を進める上で活用できる

Ⅲ　本研修に対する全体としての満足度、運営に対する評価

(1)テーマの設定について(※森林総合監理士等の活動を行う上での評価として下さい)

低い		満足度		高い
1	2	3	4	5

平均: 4.4

1 (　0 名)
2 (　1 名)　架設線位置の検討や架線が比較的有利な皆伐の現場の検討を行いたかった
3 (　1 名)　今後の時代を考え、架線も検討すべきであると思う
4 (　4 名)　これまでに接する機会が少ないテーマだったので興味深かった／急峻な地形の多い四国において今回のテーマは非常に重要なものであり、良いテーマだった
5 (　8 名)　架線について学ぶ機会が少ないためイメージを持つためだけでも非常にためになる研修だった／高知県開催にふさわしいテーマだったと思うが、願わくば、架線作業を得意とする事業体の話等があれば、より現場のリアルな話が聞けたかと思う

(2)テーマに対するカリキュラムの内容について

低い		満足度		高い
1	2	3	4	5

平均: 3.8

1 (　0 名)
2 (　2 名)　架線が主体の内容であってほしかった
3 (　3 名)　架線の現場や、最新のキャレッジや集材機タワーヤーダ本体などが現物で見られたらよかったと思う
4 (　6 名)　実際にワイヤを張ってのモデルの使用は大変分かりやすかった／本格架線の現場視察ができればなおよかった
5 (　4 名)　今後、皆伐再造林を進める上で、重要なポイントのカリキュラムであった

(3)カリキュラムの時間について

低い		満足度		高い
1	2	3	4	5

平均: 3.3

1 (　0 名)
2 (　2 名)　操作説明時間が短く、国有林受講生に負担をかけることが多かった
3 (　8 名)　これ以上長くはできないと思うが、じっくりやれればよかった／机上、現場での検討時間が短く感じた
4 (　3 名)　長くも短くもなくちょうどよい時間だった
5 (　2 名)　プレゼン作成の時間が短い

(4)研修の進行・運営の流れについて

良くなかった　　良かった

1　2　3　4　5

平均：4.2

1（　0名）
2（　0名）
3（　3名）　現地実習地までの移動時間が長い
4（　6名）　班にサポートが付いていたこともありスムーズに感じた／全体の流れはスムーズでよかったが、もう少し班ごとの作業時間を確保できればなおよかった
5（　6名）　スムーズで良かったと思う／進行役がとても良かった

Ⅳ　その他

自由に感想をお書き下さい。（研修の中で特に印象に残ったこと等）

・ グループワーク形式はとても有意義だった
・ 日頃採材は行わないので勉強になった
・ 自分のような若手の職員にとっては班内にベテランの方がいてくれたことは非常に勉強になった。国有林のＧＩＳは使い方を覚えれば、様々な参考資料の作成が可能であると思った
・ 学生時代の知識でストップしていた架線に関する理解度を高めることができ、ありがたかった。班編成も国有林、民間の方と同じで、様々な意見・考え方を聞かせていただき勉強になった
・ こういった実践研修は重要。林野庁だからこそ、国、市町村、自治体、民間を越えた所属の研修が可能だと思う。また、国有林という広大なフィールド、地形が違う、事業方法も違う中だからこそ研修の場としての利用価値があると思う
・ 全て知らない事でいろいろな経験をすることができたのでどれも印象的
・ テーマの架線を目的としている方もいるため、間伐地でも主伐地として考えさせるなどの方法はあるのではないか
・ 「特に効率的な施業を行う区域」を設定する時代、架線集材技術は一部で残っていけばよい技術なのかもしれないと感じている

Ⅲ. 主な意見と課題の整理及び総括

1. 外部講師の主な意見

今年度の研修内容、時間等に関し、外部講師から寄せられた主な意見を整理したものである。

1．研修目標に見合った研修内容となっていましたか(受講生の印象、講師を担当しての感想を含む)
意見等
林業も木材産業もあまり大きくない観光都市小樽市において、トドマツ・カラマツ人工林及び天然林を今後どのように管理・経営していくかが今回のグループ演習の課題であり、「現地実習で確認した団地を対象として、経営ビジョンを様々な観点から検討し、集約的かつ効率的な森林整備の戦略及び地域の将来ビジョンを描く能力を養う」という研修のねらい・目標によくマッチした研修内容となっていたと考える。 受講生はタイトなスケジュールの中、会って間もないメンバー同士で、グループ演習としての施業計画作成という課題に、高い水準で応えていた印象。 過去２回の研修でも受講生の方たちにあまりよく知られていなかった国内・道内の木材需要の実態について話ができ、幾人かの方から個別に参考になったとのコメントをいただけたので、良かったのではないかと思う。自身の反省点として、ウッドショック等、近年の木材市場に生じている大きな動きの意味と今後の見通しについて、もう少し突っ込んでお話しできればなおよかったか。
研修目標がはっきりとしなくなりつつあるとも思えるが、受講生は各個人で必要な情報を学べていた。
最新の環境制御型のコンテナ苗生産施設を見学し、感銘している様子だった。育苗段階での効率的な生産が伐採・造林一貫作業システムを通して造林の効率化に貢献することを理解していた。
多様な森づくりということで、広葉樹や針葉樹からの広葉樹林化について説明したが、受講生は熱心に聞いており、質問もあったので、目標に見合う内容だったと思われる。
現場で協力頂いた事業体の皆様や、管理局の力添えもあり、スムーズに研修を進める事ができたと思う。 今年度は実際に造材を行い、できあがった材を見られたのは受講生にも良い経験になったと感じた(造材前と後での差異等を実感でき、造材の難しさを知ってもらえたのではないか)。
質問が多くあり興味があると同時に熱心だと思った。

２．講義時間、実習現地等の設定は適切でしたか
意見等
講義時間については、今回は施設等の見学を省略したことで、スケジュールに少し余裕ができたのではないかと感じた。過去２回の研修で訪問・見学した林業用種苗生産者や木材加工施設の見学は有意義だったと思うが、今年度は近隣にそれらの施設が少ない地域でもあり、過密スケジュールを回避する観点からも、省略は適切であったと思う。 実習現地等の設定については、極めて今日的な問題の一つを集約したような対象が選ばれており、これも適切であったと思う。
時間は適切であった。受講生からコスト等の内容も知りたかったと提案もあったが、時間的には難しいので、その内容を加えるのであれば、他の内容を削る必要があり、研修方針の調整が必要。
座学、現地見学と併せ通常２時間必要なところを、１時間しかないため、質問時間やディスカッションがとれず一方的な講義になってしまったような気がしている。 同様の内容を次年度計画するのであれば、講義時間を２時間にしたほうが受講生の理解度も深まると思う。
座学の時間はちょうどよかった。現地実習とその後のデータ解析については、やや時間が足りないと思われた。
適切だったと思う。

３．その他、お気づきの点や改善点等がありましたらご記入下さい
意見等
本研修の位置づけ、対象がよくわからなくなりつつある。路網の研修を数年行っているが、継続して路網の研修が必要であれば別途行うべきで、本研修が求めているものをよく検討・検証してから、講師ありきではない内容を検討すべき。

2. アンケート結果の概要(ブロック別)

アンケートは受講生全員を対象とし、研修成果の確認と今後の研修運営に役立てることを目的に実施した。本研修に対する理解度、役立ち度、全体の満足度、運営評価について、ブロック別の集計結果をグラフ化し、そのうち、「森林総合監理士資格の有無」、「研修内容の理解度」、「業務への活用度」、「テーマ設定の満足度」についてはブロックごとに詳細結果を取りまとめた。

なお、ブロックごとにテーマ、カリキュラムなどが多様であるため、ブロック別の結果を示しているが、ブロック間の単純な比較ではなく、ブロックごとの傾向や課題の明確化を意図している。また、今後さらに良い研修にしていくためには、各ブロックで評価の高かった点、改善すべき点について、全ブロックで共有することが重要だと考える。

アンケートの回収総数は、修了者 60 人中 60 人(回答率 100%)であった。

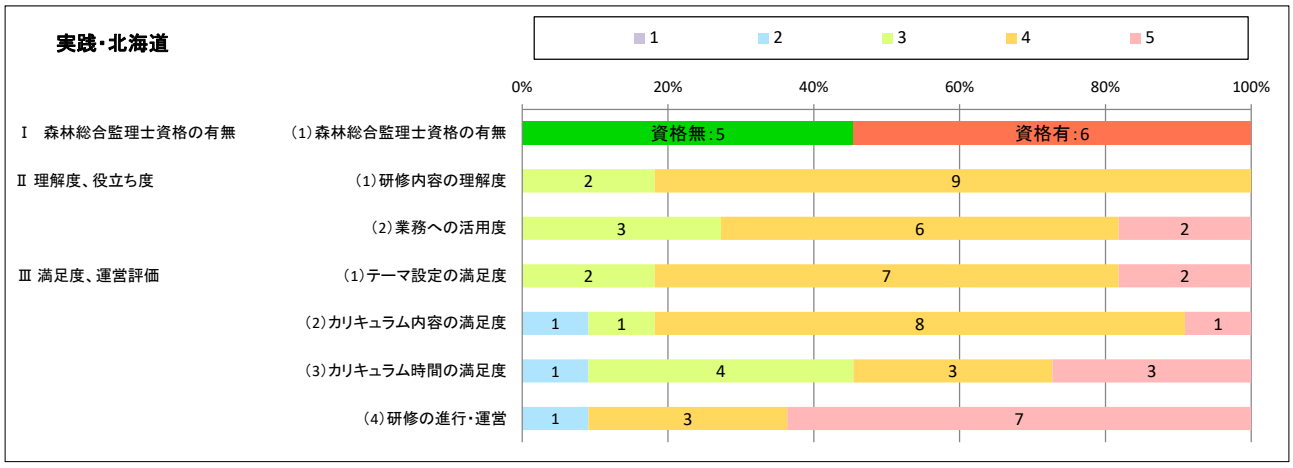
アンケートは、「森林総合監理士資格の有無」は１(資格あり)、２(資格なし)とし、その他の各項目は５段階評価で「研修内容の理解度」は１(理解できなかった)から５(理解できた)まで、「業務への活用度」は１(活用できない)から５(活用できる)まで、「テーマ設定の満足度」と「カリキュラム内容の満足度」、「カリキュラム時間の満足度」は１(満足度が低い)から５(満足度が高い)まで、「研修の進行・運営」は１(良くなかった)から５(良かった)までの評価で実施した。

「森林総合監理士資格の有無」の状況は、各ブロックで異なっており(以下、(１)～(５)のブロック毎を参照)、各受講生の評価を判断する上でも参考にした。

全ブロック２泊３日で実施した。

(1)北海道ブロック

テーマ:資源循環利用構想実習　～木材供給ビジョンを考える～



①森林総合監理士資格の有無

「森林総合監理士資格の有無」は森林総合監理士が 55%、資格なしが 45%であった。

②研修内容の理解度

「研修内容の理解度」は５と４の回答で 82%を占め、「おおむね理解できた」、「広葉樹の取扱方法を考える必要性を感じた」などのコメントが寄せられ、研修テーマへの関心や理解が深まったことがうかがえる。

③業務への活用度

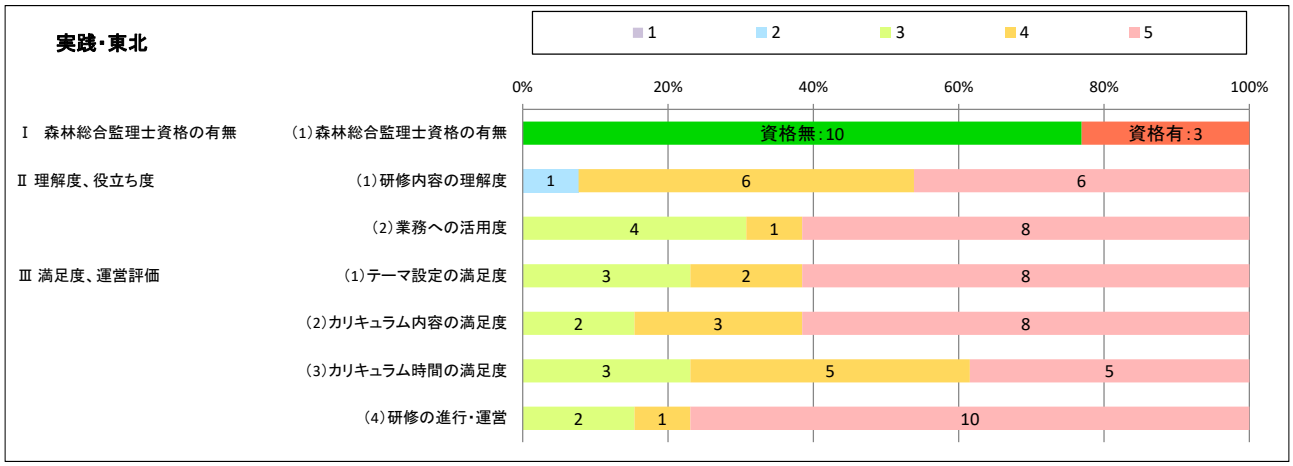
「業務への活用度」は５と４の回答で 73%を占め、「チーム内の合意形成や市長など他者への説明に生かしたい」、「流通や利活用の視点や知見が参考になった」、「全て活用できると思う」など、業務への活用に前向きなコメントが多く寄せられた。

④テーマ設定の満足度

「テーマ設定の満足度」は５と４の回答が 82%を占め、「北海道庁、市町、国が連携しとても有意義な研修だった」、「小樽市という観光都市での木材供給体制を考えるのは難しかったが勉強になった」等のコメントから受講生の関心が高いテーマ設定だったことがうかがえた。

(2)東北ブロック

テーマ:路網配置計画と情報化技術を用いた現地踏査



①森林総合監理士資格の有無

「森林総合監理士資格の有無」は森林総合監理士が 23%、資格なしが 77%だった。

②研修内容の理解度

「研修内容の理解度」は５と４の回答で 92%を占め、非常に高い理解度を得た。「ＣＳ立体図及びＧＩＳの活用の大切さを知った」との意見に代表されるようにＩＣＴの活用に関心が深まったことがうかがえるとともに、「ＣＳ立体図の読み取りの理解が深まった」との意見が寄せられ、新たな技術やツールを用いた実践的な研修内容で具体的な活用手法の理解が深まったことがうかがえる。

③業務への活用度

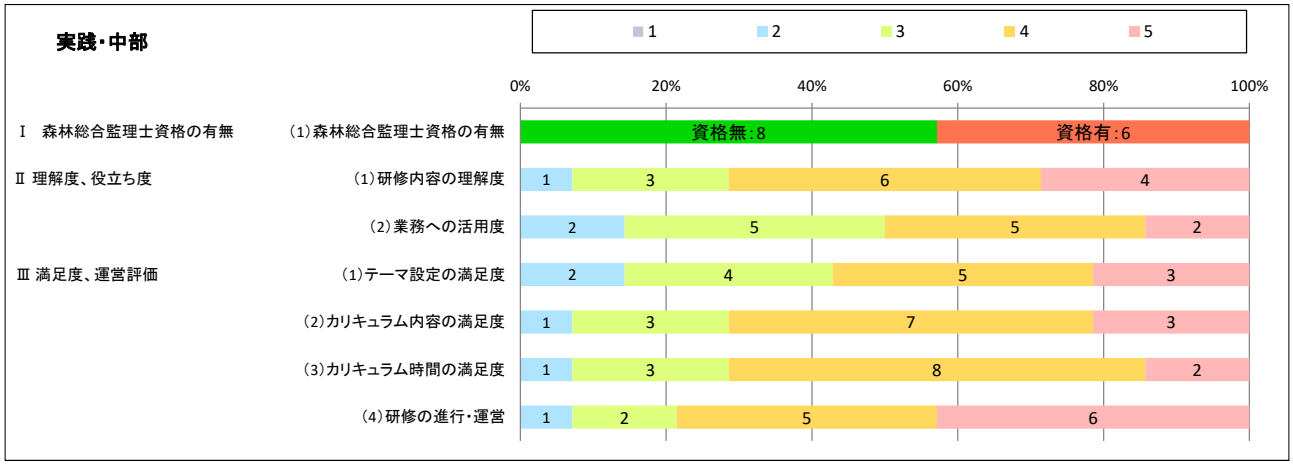
「業務への活用度」は５と４の回答で 69%で約７割の受講生から活用できると高い評価を得た。「施業集約化や素材生産計画に大いに活用できる」等、活用に積極的な意見が多数寄せられた。３と回答した受講生からも「森林総合監理士の活動内容が不明瞭なため、生かせることは生かしていきたい」との前向きな意見があった。

④テーマ設定の満足度

「テーマ設定の満足度」は５と４の回答で 77%の満足度となった。「活動を行ううえで具体的に必要となる知識・技術が得られた」、「情報化技術を使いながらの研修がよかった」等の意見が寄せられ、需要や関心が高いテーマ設定と研修内容だったと考えられる。また、３と回答した受講生からも「森林(総合)監理士として生かせるかは分からないが、作業道のテーマ設定はとてもよかった」と高い評価の意見が寄せられた。

(3)中部ブロック

テーマ:伐採･造林一貫作業システム(架線)と木材流通



①森林総合監理士資格の有無

「森林総合監理士資格の有無」は森林総合監理士が 43%、資格なしが 57%だった。

②研修内容の理解度

「研修内容の理解度」は５と４の回答が 71%を占め、昨年度(令和３：80%)とほぼ同様に高い理解度だった。「経験のない架線集材のイメージをつかむことができた」、「市場での話は、特に貴重だった」といったコメントが寄せられた。また、３以下の評価の受講生は「架線の基礎知識がなさ過ぎて、理解できているか不安。更なる知識習得が必要と認識した」といった初めて架線の知識や現場に触れたことによるものだった。

③業務への活用度

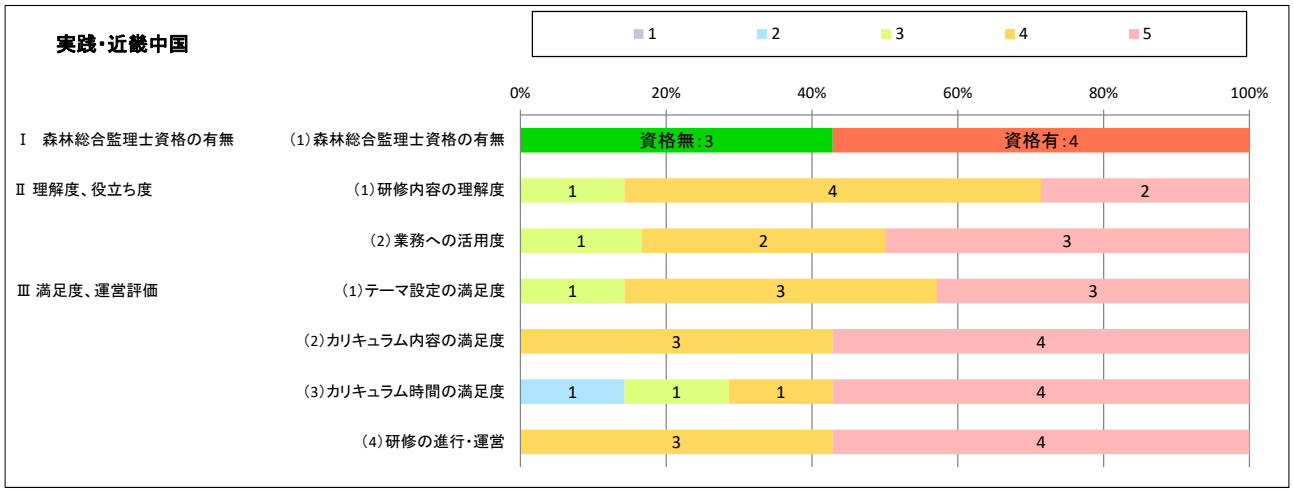
「業務への活用度」は５と４の回答が 50%と若干低めであったが、活用度が高いと評価した受講生からは「山土場での採材や仕分けの技術向上の指導に活かせる」、「架線集材で皆伐する事業体への指導に活かせる」といったコメントが寄せられた。また、３以下の評価の受講生からは「指導前に基礎知識を身につけねばと認識した」といった気づきを得る機会となった状況であった。

④テーマ設定の満足度

「テーマ設定の満足度」は５と４の回答が 57%だった。「今後、本県でも架線集材が必要になってくるので、とても重要なテーマだと思う」、「架線集材の現場を見たい」、「知識が足りないとの気づきを得た」といったコメントが寄せられた。また、３以下の受講生からは「今、本県では車両系を行う現場しかない」等の意見であり、今後の架線集材のニーズを踏まえ多様な集材方法の知識を習得できるテーマだったことがうかがえた。

(4)近畿中国ブロック

テーマ:一斉人工造林地における地位区分に応じた森林施業



①森林総合監理士資格の有無

「森林総合監理士資格の有無」は森林総合監理士が 57%、資格なしが 43%だった。

②研修内容の理解度

「研修内容の理解度」は５と４の回答が 86%と高い理解度で、「目標林型の設定の仕方について理解を深められた」などのコメントが寄せられた。

③業務への活用度

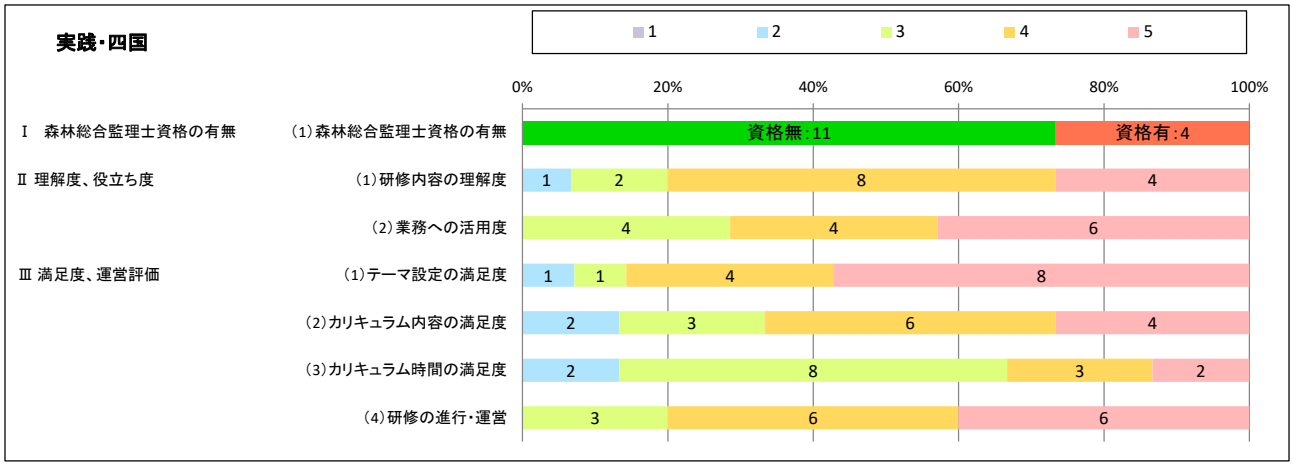
「業務への活用度」は５と４の回答が 83%と昨年度(令和３：82%)と同等に高く、「県のゾーニングや市町村の経営管理制度指導などに生かしたい」や「針広混交林を進めているので活用したい」というコメントに代表されるように、直接的に業務への活用度の高さがうかがえる意見が多く寄せられ、本研修のねらいに沿った成果がみられた。

④テーマ設定の満足度

「テーマ設定の満足度」は５と４の回答が 86%と昨年度(令和３：91%) と同等に高く、「講義、現地実習、グループ演習、発表の流れは理解を深める上で良かった」、「所有者と話をする際に役立つことが多かった」などのコメントが寄せられた。

(5)四国ブロック

テーマ:地形に応じた効率的な架線と作業路網を組み合わせた集材作業システムと木材流通について



①森林総合監理士資格の有無

「森林総合監理士資格の有無」は森林総合監理士が 27%、資格なしが 73%だった。

②研修内容の理解度

「研修内容の理解度」は５と４の回答が 80%で、「全体的にイメージがしやすい構成だったので理解しやすかった」といったコメントが寄せられ、おおむね理解されたことがうかがえる。他方、評価の低い受講生からは「３日目(発表資料作成→発表)については県職員とのレベルの違いに驚き、全くついていけなかった」というコメントが寄せられた。

③業務への活用度

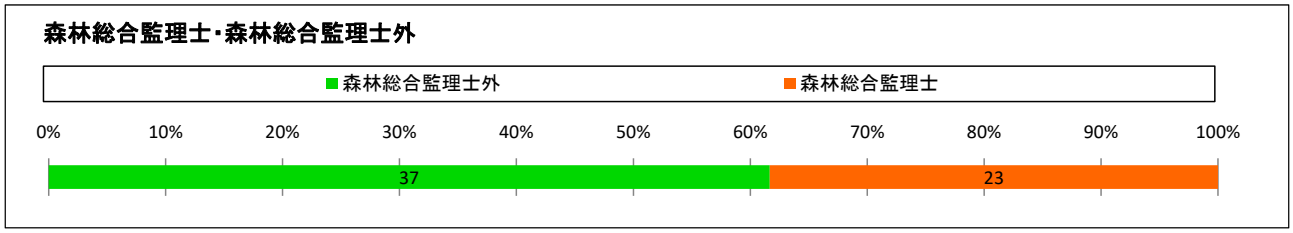
「業務への活用度」は５と４の回答が 71%(令和３：58%)と昨年度から若干上がり、「これまで架線集材を実際に計画設計したことがなかったので、今後、現場での生産計画を考える際の参考になった」、「現在の活動区域では架線に対応できる事業体がほぼないが、今後の施業地検討のうえで武器とし得る集材方法だと思う」といった現時点では本カリキュラム内容は未経験であるものの今後の業務活用に前向きなコメントが寄せられた。

④テーマ設定の満足度

「テーマ設定の満足度」は５のみ回答で 57%と半数を占め(５と４の回答では 86%)、高い満足度だった。「架線について学ぶ機会が少ないためイメージを持つためだけでも非常にためになる研修だった」といったコメントに代表されるように、業務への活用度同様、架線の経験がない受講生にとっても有効なテーマであったことがうかがえた。

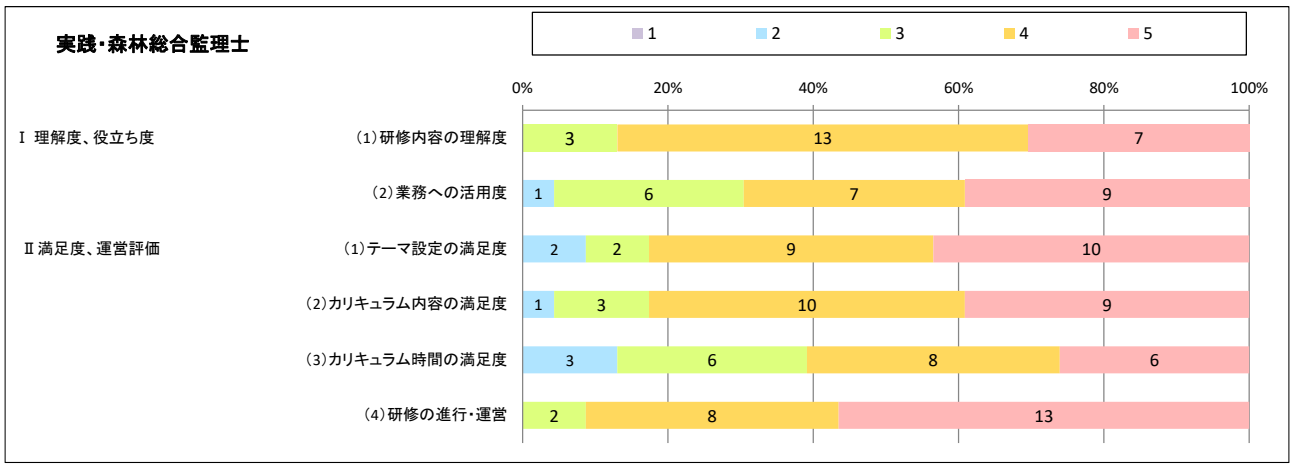
3. アンケート結果の概要(森林総合監理士・森林総合監理士外)

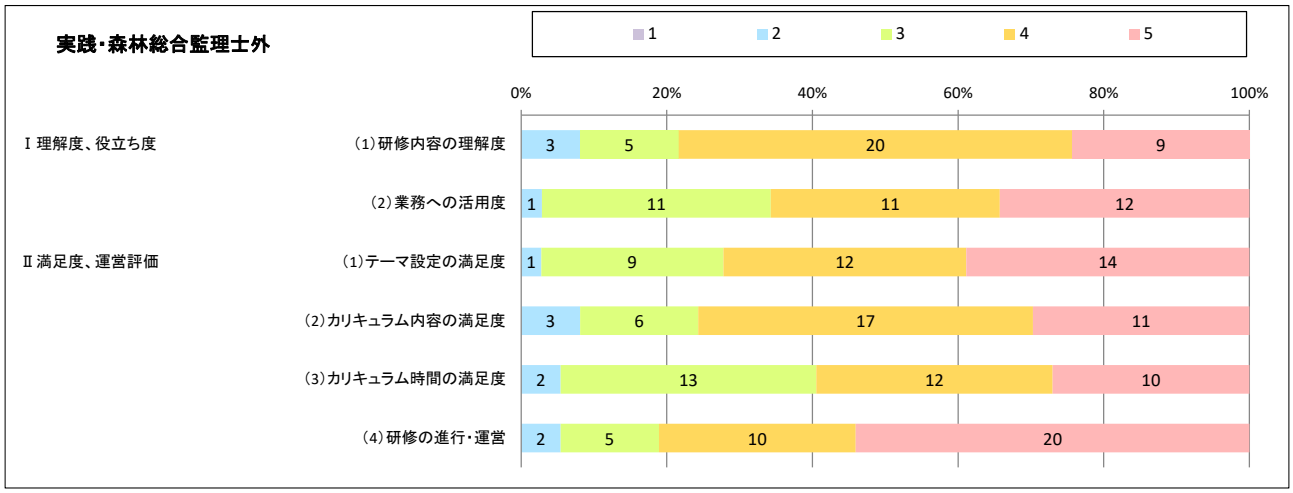
(1)森林総合監理士、森林総合監理士外



本研修は森林総合監理士を主な受講対象者としているが、全ブロックを合計すると森林総合監理士は 23 名、森林総合監理士外は 37 名だった。

(2)研修内容の理解度、業務への活用度、テーマ設定の満足度、カリキュラム内容の満足度





「森林総合監理士」(上段森林総合監理士グラフ)と「森林総合監理士外」(下段森林総合監理士外グラフ)でアンケート結果をそれぞれまとめた。

①研修内容の理解度

「研修内容の理解度」は、森林総合監理士の５と４の回答は 87%を占め、おおむね理解されたとうかがえる。「森林の持つ多様な機能を発揮させるための目標林型の設定の仕方についての理解を深められた」、「木材の需要の動向、採材の考え方、架線の仕組みや考え方の勉強になった」等のコメントが寄せられた。森林総合監理士外の５と４の回答は 78%を占め、「ＣＳ立体図の具体的な地形情報の読み取り方が分かった」、「架線についてある程度予備知識があったのでよく理解できた」等の意見が寄せられた。他方、高い理解度を評価した受講生であっても「架線についての基礎知識

の考査をして欲しかった」、「研修内容が初めて知ることも多く少し分かりづらいところもあった」といった、基礎的要素を要望する声も寄せられた。

②業務への活用度

「業務への活用度」は、森林総合監理士の５と４の回答は 70%で他項目と比べると若干評価は低いものの「現地情報の精度がより高くなると思われる」、「今後、皆伐再造林を進める上で十分に活用できると思う」等、業務活用に前向きな意見が寄せられ、３以下の評価の受講生からは「知識習得後でないと、活用は難しい」、「まずは自分の理解を深めるところからとりくみたい」等、自身の知識を増やしてから活用したいといったコメントが寄せられた。森林総合監理士外の５と４の回答は 66%で「今後の作業道計画に簡易で丈夫な道づくりに活用」、「収支の計算練習もできたのが活用できそう」等の意見が寄せられ、３以下の評価の受講生からは「活用できるか分からないが生かせることは生かしていきたい」、「列状間伐や集材方法を知ることができたのは大きい」等、業務活用に向けて前向きな意見が寄せられた。

③テーマ設定の満足度

「テーマ設定の満足度」は、森林総合監理士の５と４の回答は 83%を占め、「架線集材については地域(県)によって技術力にバラつきがあるので技術力の高い高知県(開催ブロック地)に合ったテーマだったと思う」、「今後、本県でも架線が必要となってくるので、とても重要なテーマだと思う」等の意見が寄せられ、おおむね高い満足度だった。森林総合監理士外の５と４の回答は 72%で、「架線について学ぶ機会が少ないためイメージを持つためだけでも非常にためになる研修だった」、「今後増えていくであろう架線での一貫作業システムを学べ、助言等で活かすことでできるであろう」といった現在の業務内容に直結はしていないものの高い満足度と評価をした意見も寄せられ、新たな知識や経験を得られる場となった受講生もいたことがうかがえた。

④カリキュラム内容の満足度

「カリキュラム内容の満足度」は、森林総合監理士の５と４の回答は 83%を占め、「多様な講義が聞けてよかった」、「講義、現地実習、グループ演習、発表の流れは理解を深める上で良かった」といったカリキュラム構成を評価する意見が寄せられ、森林総合監理士外の５と４の回答は 76%で、「具体性があってよかった。検討も意見交流があり発見が多かった」、「様々な分野をバランスよく行われていたと思う」等の意見が寄せられ満足度が高かった。

(3)その他感想、来年に向けての提案など

ブロック毎に取り扱う研修テーマ、カリキュラム内容が異なっていることから感想等はさまざまであるが、森林総合監理士からは「林業を魅力あるものにし、担い手を確保していくためには情報化の活用がとても重要である」、「広葉樹の知識等、所有者と協議するうえで参考になった」等、本研修が地域活動や業務に生かされる内容であったことがうかがえた。森林総合監理士外からも「今回得た知見を日頃の業務に活用していきたい」、「伐採技術を深く学べたことは大きかった。儲かる林業を目指す上で検討していきたい」等、今後の業務に繋がる前向きな意見が寄せられた。

4. 運営改善報告書の概要

当日運営補助者から研修ごとに作成された運営改善報告書の概要は、以下のとおり。

ブロック	研修テーマ・カリキュラム	講義・演習・現地実習	その他
北海道	特記事項なし。	・講義内容は外部講師との兼ね合いも考慮する。 ・「グループ演習の時間が足りない」との声もあることから、グループ演習時間の拡大を検討する。	・一部の受講生から、研修運営等（グループ演習や安全対策の実施）に支障のある言動（遅刻等）が度々あった。
東北	・テーマ選定は必要性の高い（求められている）ものか検討が必要。	・研修序盤は班内での発言が少ないときがあった。 ・ハンドレベルの使用経験のない班員がいたため、班内の経験者が指導する場面があり、踏査時間が少なくなった。	特記事項なし。
中部	・外部講師がカリキュラムの流れがつかみづらかった。 ・時間があれば最初に現地を見ておいてからのほうが理解しやすいのではないか。	・国有林ＧＩＳでは自治体や民間では使えない。 ・育苗見学は時間が短かった。	特記事項なし。
近畿中国	特記事項なし。	・投影用パソコンに投影データが入っていなかった（準備段階でデータの投影確認を行っていなかった）。	・例年使用している会議室が使用できず、階数違いの別の会場となったが、会場レイアウトの都合で講師席が少し遠かった。
四国	・架線集材がテーマだったが、準備できる演習地の都合により、車両系の現場となった。	・架線集材のコスト情報に対する要望があった。 ・実習地が車両系中心の場所であったため、作業システムの検討結果に路網が織り込まれることとなった。	特記事項なし。

5. 実践研修の課題の整理

昨年度は東北ブロックがコロナウイルス感染状況により開催中止、他の４ブロックも日程を延期して開催したが、今年度は５ブロックとも当初予定どおりの日程及びカリキュラムで実施することができた。

本研修は、市町村の森林・林業行政を技術面で支援する役割を担う森林総合監理士をはじめとする技術者の技術水準の維持・向上を図ることを目的とし、森林総合監理士、都道府県職員、市町村職員、森林管理局署職員、団体職員等を対象に全ブロック２泊３日で実施した。なお、受講生の平均年齢は昨年度と同等だった(令和３：40.0 歳→令和４：40.5 歳)。

以下、受講生アンケート、各ブロックの運営改善報告書から、主な課題を抽出・整理した。

(1)ブロック別の課題

ブロック	アンケート結果を通じての課題	運営改善報告書を通じての課題
北海道	・アンケートの評価は全体的に高いが「カリキュラム時間の満足度」が他項目と比べ若干評価が低く、「全体的に余裕がなかった」といったコメントが寄せられ、限られた時間の中で、時間配分や時間を多くかける点をどこに置くか等の検討が必要。	・アンケートからも時間不足を指摘する意見が寄せられており、グループ演習時間の拡大を検討する。
東北	・需要や関心が高いテーマ設定だったことや、実践的な研修内容で具体的な活用手法を得られたことから全体的にアンケートの評価が高かったとうかがえる。	・序盤は班内での発言が少ないときがあったことから、サポートスタッフが混ざりきっかけを作ることで、意見を出しやすい雰囲気を作る工夫をする。 ・ハンドレベルの使用経験のない班員がいたため、班内の経験者が指導する場面があり、踏査時間が少なくなった。事前に周知する等で時間の確保を行う。
中部	・架線をテーマに取り扱っているが、馴染みの少ない受講生からは「経験のない架線集材のイメージをつかむことができた」と前向きな意見がある一方、「架線の基礎知識がなさ過ぎて、理解できているか不安。更なる知識習得が必要と認識した」といった受講生自身の知識不足の意見もあり、どこにポイントを置いたカリキュラム内容とするか、整理・検討が必要。	・演習では国有林ＧＩＳを使用しているが、自治体や民間では使用できないことから、ＱＧＩＳ等を利用できるように検討する。 ・育苗見学は時間が短かったため、スケジュール調整して時間を増やせるか検討する。
近畿中国	・総じてアンケート評価は高いが、「カリキュラム時間の満足度」が他項目と比べ若干評価が低く、５と回答とした中でも「現地踏査の調査にもう少し時間をかけたかった」といった現地実習の時間不足の意見が寄せられ、限られた時間の中で時間配分の	・投影用パソコンに投影データが入っていなかった。準備段階で、統括事務局、ブロック事務局で準備状況について複数者での確認を徹底する。また、不足の事態に備え、データは二重に用意しておくようにする。

	検討が必要。	
四国	・架線集材をテーマとしているが演習地の都合により車両系の現場となり、「カリキュラム内容の満足度」及び「カリキュラム時間の満足度」の評価が若干低く、「本格架線の現場視察ができればなおよかった」といったテーマと演習地の一致を要望する意見が寄せられた。	・アンケートの課題にも挙がっているが、車両系中心の実習地だったため、作業システムの検討結果に路網が織り込まれることとなった。実習地が架線作業中心ではない場合の進め方について検討が必要。

(2)全体を通しての課題の整理（アンケート結果を通じて）

アンケートは、「森林総合監理士資格の有無」以外は、全項目５段階評価で実施した。

「研修内容の理解度」は、全ブロックとも５と４の割合が７割以上を占め、高い評価であった。

「業務への活用度」は、５と４の割合が 50～83%とブロックによってバラつきがあった。今後の業務に活用できるコメントも寄せられているが、現在の業務内容に直結していない受講生も参加していることも評価のバラつきに影響していると推察される。

「テーマ設定の満足度」は、一部のブロックでは若干満足度が低かったものの、その他のブロックでは５と４の回答で 80%前後を占め、受講生のニーズにあった研修テーマであったことがうかがえた。また、受講生によっては馴染みの少ないテーマを扱ったブロックにおいても貴重な経験や新たな知識が得られたことにより、高い評価をした受講生もいた。

「カリキュラム内容」に対する満足度は、５と４の割合が 67～100%、「カリキュラム時間」に対する満足度は、５と４の割合が 33～77%とブロックによって若干バラつきがあった。「カリキュラム内容」に対する満足度は、扱っているテーマに対して何を盛り込むかで満足度の評価が分かれるが、「講義、現地実習、グループ演習、発表の流れは理解を深める上で良かった」、「座学、実習、グループワークを通して深い知識が学べてよかった」といったバランスの良さを評価されたブロックは評価が高かった。「カリキュラム時間」に対する満足度は、本研修は２泊３日の日程で構成されているため、「短めではあるが３日間は時間を確保しやすい」との意見に代表されるように、参加のしやすさに対して評価が高かったが、「演習・現地踏査にもう少し時間があればよかった」、「プレゼン作成の時間が短い」といったコメントも寄せられ、カリキュラムの時間配分は今後も検討課題と言える。

「研修の進行・運営」は、５と４の割合が 79～100%で、各班へのサポート体制等により、滞りなく進行されたことが全ブロックにおいて高評価につながったとうかがえる。今後も、限られた時間内においてカリキュラムや講義・演習の中で盛り込むべき内容を精査し、さらに改善していくことが重要である。

(3)全体を通しての課題の整理（運営改善報告書を通じて）

研修テーマが各ブロックで異なるため、各ブロックの課題点はさまざまだが、研修本番までの準備行程の中で、講師等関係者と運営事務局間で連携を取って準備を進めていくことを改めて認識し、研修テーマ、カリキュラム内容・構成が受講生にとって多くの気づきを持ち帰ってもらう内容となっているか、今後もさらなる改善を行っていくことが重要である。

６. 総括

(1)全体設計

本研修は、市町村の森林・林業行政を技術面で支援する役割を担う森林総合監理士をはじめとする技術者の技術水準の維持・向上を図ることを目的としている。そのため今年度も森林総合監理士を主たる受講対象とした。森林総合監理士の受講者数は、昨年度同様ブロックによってバラつきがあり、森林総合監理士のブロックごとの参加率は23～57％(令和３：15～60％)と若干差があった。また、研修受講者数については、各ブロック７～15名とブロックによっては少ないブロックがあった。各ブロックで研修テーマが異なっており、どのブロックの研修を選択しても良いことから、自身や地域で経験できないテーマを扱うブロックを希望する参加者も少なくなく、今後、研修設計を行ううえで、森林総合監理士等の技術者にとって必要とされる研修テーマであるかを精査・検討していくことも重要である。

(2)テーマ・カリキュラム

本研修では、テーマ設定やカリキュラム作成は森林管理局が行った。テーマ設定については、ブロックごとに地域の特性や現状、ニーズを踏まえて設定しており、アンケート結果では一部のブロックを除き評価が高かった。上記の「(１)全体設計」でも述べているとおり、森林総合監理士等の技術者が市町村へ指導・助言などを行っていく上で、実践的でなおかつ、業務で活用できるテーマを今後も設計することが重要である。

カリキュラム内容・カリキュラムの時間については、ブロックによって評価にバラつきがあった。本研修は２泊３日の日程で実施しているために参加のしやすさに対して評価が高いが、全ブロックのカリキュラムは講義・演習・現地実習・各班発表の構成となっていることから、特に、現地実習や演習に対する時間不足を指摘する意見が散見された。限られた時間内で詰め込みすぎず、何にポイントを置いて研修を進めるか、さらなる改善をしていくことが重要である。

(3)研修運営

昨年度は東北ブロックが新型コロナウイルス感染症対策の影響により開催中止、他の４ブロックも日程を延期して開催したが、今年度は全ブロックとも当初の予定どおりの日程及びカリキュラムで実施した。

研修運営については新型コロナウイルス感染症拡大防止を考慮しながら行っているが、開催にあたっては昨年度同様、受講生や関係者が安心して研修に集中できる環境を整えた。密にならないよう定員に余裕のある広い会場を確保するとともに、換気や日々の体調管理、マスクの着用、マイクや備品等の消毒を行い、現地実習地への移動においても、全ブロックともバスの乗車人数が密にならないよう配慮した台数を確保し対策を講じた。また、今年度も受講生等研修参加者は、研修２週間前から自身の「体温・体調等記録用紙」を記入し、最終日に提出することとし、受講後２週間以内に体調の悪化が生じた場合は統括事務局へ連絡することとしたが、研修中及び後日においても参加者からの連絡はなかった。

各ブロックではカリキュラム内容・構成に合わせて備品・資機材等に不足がないよう準備をし、全ブロックとも演習においてパソコンやＩＣＴ機器を取り入れているため、演習のシミュレーション・段取りの確認を行った。また、現地実習でドローンを飛行させたブロックでは、現地実習地でドローンからの映像が確認できるようモニターを設置する等の準備も行った。

本研修は各班単位での演習がメインであることから、ディスカッションにおいて多様な意見交換となるよう、参加者の地域や所属等をバラつかせる班構成にした。

統括事務局ではブロックごとに担当者を配置してブロック事務局の担当者とチームをつくり、研修実施に向けた森林管理局の研修担当官と連絡・調整を密に行った。また、統括事務局は、受講生・外部講師への連絡・調整、安全管理マニュアルの作成、タイムスケジュールの確認、資料印刷等を行うことで、受講生が研修に集中できる環境を整え、定期的に統括事務局とブロック事務局間で情報の共有を図った。

研修当日は、森林管理局が進行役を務め、ブロック事務局スタッフと連携して運営し、受講生アンケートからはおおむねスムーズに運営されていると評価を得た。しかしながら、「５．実践研修の課題の整理」で挙げたように、近畿中国ブロックで投影用パソコンに投影データが入っていない事案が起きたことは大いに反省すべき点である。今後は、準備段階で、統括事務局、ブロック事務局で準備状況について複数者での確認を徹底し、不足の事態に備え、データは二重に用意しておくようにする。

本研修は現地実習を伴うことから、雨天時の対策等を準備しておく必要がある。各ブロックでの雨天時対応等の良い点や工夫点を全ブロックで共有して取り入れていくことも円滑な研修運営につながると考えられる。さまざまなことを想定した運営準備をしていくことは、全ブロック共通して意識する事項である。

(4)おわりに

現地検討及び討議・発表を通じて、ブロックごとのテーマに沿って課題解決策を共有する研修を実施した。本研修は、外部講師・森林管理局講師等の関係者からだけではなく、都道府県職員や国有林職員、森林整備センター職員、民間受講生といった日頃の業務では集うことがない多様な属性の受講生同士が意見交換し、双方向から気づき・学びのあるカリキュラム構成となっている。今後も受講生が各地域に戻って森林総合監理士等の技術者として市町村の森林・林業行政を技術面で支援する際に役立つ研修となるようなテーマを設定し、今年度参加した受講生からの声や運営側で気づいた課題をふまえ、研修を改善していくことが重要である。

情報共有ネットワーク化

情報共有ネットワーク化

Ⅰ．サイトの開設状況

１．技術力維持･向上対策研修運営委託事業ポータルサイト

(1)目的

実践研修の実施概要、森林総合監理士のＰＲ等を掲載し、広く一般への本事業の理解促進に資する。

(2)対象者

一般国民、森林・林業関係者、実践研修の対象者等

(3)構成･イメージ

○コンテンツ　※下線箇所：本年度更新情報のあるページ

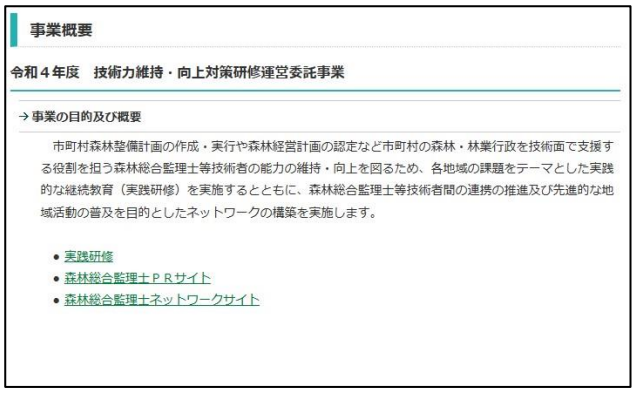
・事業概要：本事業実施の目的、本事業の概要

・実践研修：研修の目的、対象者、研修概要、研修実施時期等

・森林総合監理士ＰＲ：サイトの概要

・森林総合監理士ネットワークサイト：サイトの概要

▲トップページ



事業概要

令和４年度　技術力維持・向上対策研修運営委託事業

→事業の目的及び概要

市町村森林整備計画の作成・実行や森林経営計画の認定など市町村の森林・林業行政を技術面で支援する役割を担う森林総合監理士等技術者の能力の維持・向上を図るため、各地域の課題をテーマとした実践的な継続教育（実践研修）を実施するとともに、森林総合監理士等技術者間の連携の推進及び先進的な地域活動の普及を目的としたネットワークの構築を実施します。

- 実践研修
- 森林総合監理士ＰＲサイト
- 森林総合監理士ネットワークサイト

▲事業概要(部分表示)

令和4年度　実践研修　研修実施場所・研修日程・テーマ

開催ブロック	日程	研修会場(予定)	研修会場所在地	現地実習箇所(予定)	テーマ
北海道	9月13日(火)～15日(木)	北海道森林管理局	北海道札幌市中央区宮の森3-7-70	小樽国有林	資源循環利用構想実習～木材供給ビジョンを考える～
東北	9月6日(火)～8日(木)	アイーナ いわて県民情報交流センター	岩手県盛岡市盛岡駅西通1-7-1	岩手県岩手郡雫石町 荒沢山国有林735は1林小班外	路網配置計画と情報化技術を用いた現地踏査
中部	9月13日(火)～15日(木)	下呂市民会館	岐阜県下呂市森801-10	岐阜県下呂市 美濃国有林1121へと林小班外	伐採・造林一貫作業システム（架線）と木材流通
近畿中国	9月14日(水)～16日(金)	新見商工会議所	岡山県新見市高尾2475-7	岡山県新見市 吉谷国有林	一斉人工造林地における地位区分等に応じた森林施業
四国	10月18日(火)～20日(木)	四国森林管理局	高知県高知市丸ノ内1-3-30	高知県須崎市 朴ノ川山国有林3210林班外	地形に応じた効率的な架線と作業路網を組み合わせた集材作業システムと木材流通について

※関東、九州ブロックでは開催されません

▲本年度更新ページ(部分表示)

2. 実践研修受講生向けサイト

(1)目的

実践研修受講生への情報提供・共有の場を提供することにより、受講生のフォローアップに資する。

(2)対象者

令和４年度実践研修受講生、研修運営に関わる者(林野庁・森林管理局の研修講師および研修運営関係者)

※対象者のみのログイン制

(3)構成・イメージ

○コンテンツ　※下線箇所：本年度更新情報のあるページ

・ブロック研修回ごとの配布資料ＰＤＦ

・ブロック研修回ごとの実施報告書ＰＤＦ

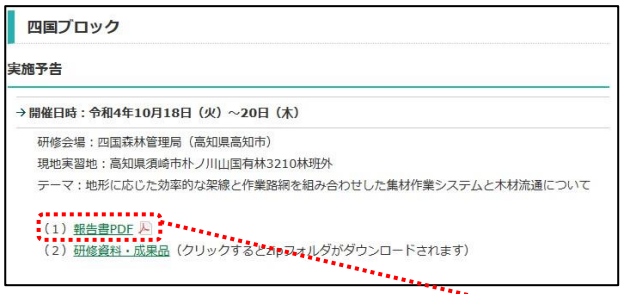
・森林総合監理士(フォレスター)基本テキスト(令和４年度版)ＰＤＦ

【参考：令和３年度実践研修】

・ブロック研修回ごとの配布資料ＰＤＦ

・ブロック研修回ごとの実施報告書ＰＤＦ

▲トップページ



▲本年度更新ページ(部分表示)：
実施報告書>四国ブロック

実践研修　実施報告書(四国ブロック)

1 日程・研修場所　令和4年10月18日(火)～10月20日(木)
研修会場 四国森林管理局(高知県高知市)
現地実習 朴ノ川山国有林3210い1林小班(高知県須崎市上分)

2 研修受講者数:15名［男性:14名　女性:1名］
(県職員6名、町職員1名、森林管理局職員4名、森林整備センター職員1名、民間事業体3名)

長野県	1名	山口県	1名	愛媛県	1名	長崎県	1名	高知県	2名
本山町	1名	森林管理局	4名	森林整備センター	1名	民間事業体	3名		

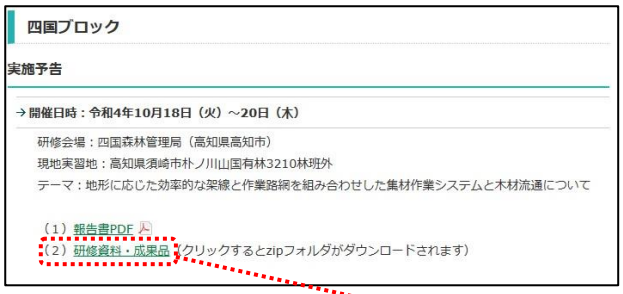
途中欠席者数　0　名

3 研修実施概要

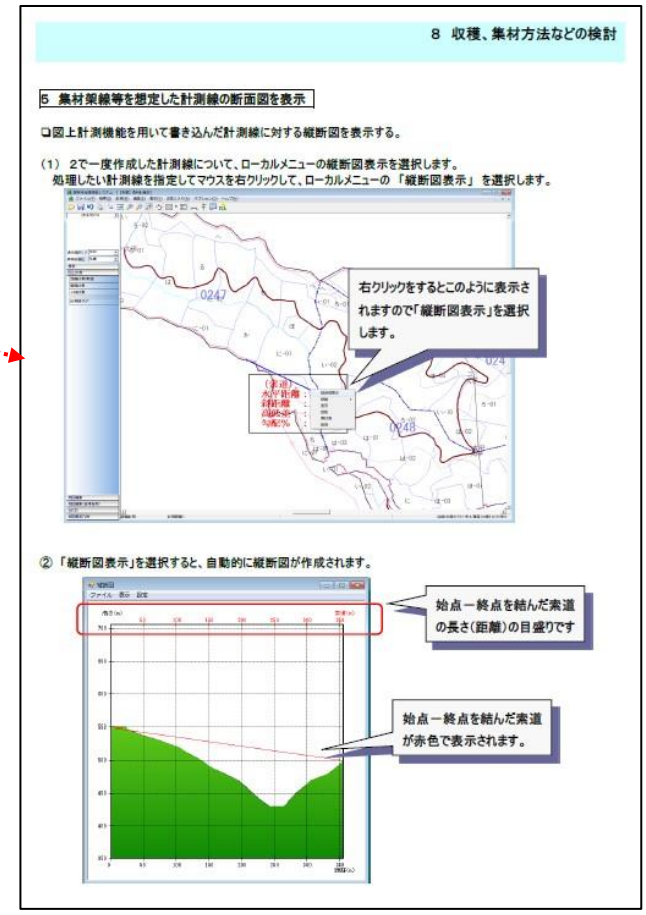
○研修運営状況、研修生の様子など
・1日目は、林野庁研究指導課安富係長からの開講挨拶後、サイプレス・スナダヤ砂田社長による将来展望を見据えた木材産業の現況講義を行った。その後、資料作成の手順・簡易架線概略・GIS等説明がなされ、班ごとに搬出系統図の検討・案作成に入った。受講生たちは開講前着席時から自主的に情報交換を行うなど、アイスブレイク不要な良い雰囲気でスタートした。また、砂田社長による講義では、国産木材産業の可能性にポジティブな影響を受けた様子だった。
・2日目は、ジャンボタクシーにて現地実習地へ移動。各班1本の採材実習、現地搬出間伐の講義・見学、ドローンによる演習林を確認した。その後、会場へ戻り、四国森林管理局内にて架線集材模型操作を体験、班ごとに集材作業システムを再検討した。採材研修では、結果を造材により確認、傷の見落としを含めた実体験、架線集材の実操作など、机上と現実の差を体感した様子が伺えた。
・3日目は、各班、集材作業システム検討結果についてプレゼン資料を作成、発表・質疑応答を行った。その後、資源活用課原田課長による講評、森林技術・支援センター渡辺所長による閉講の挨拶をもって本研修を終了した。
・全体的に各受講生が終始積極的に参画し、今後の実務への貢献が期待できる様子だった。
○今回の研修の工夫点
・採材案に基づき造材し丸太にした状態を確認、講評を受けた。採材のあり方が木材価値一収入にダイレクトに影響すること、傷の見落としにより強く印象を受け、理解が深まったように見受けられた。

4 記録写真

搬出系統図(架線・作業道)検討・作成:1日目
外部講師による採材研修の説明の様子:2日目
外部講師による集材作業見学の様子:2日目
架線集材模型(エンドレス方式)の見学・集材機操作実習:2日目
発表用の搬出システム資料の作成:2～3日目
班ごとに作成したスライドの発表:3日目



▲本年度更新ページ(部分表示)：
研修資料>四国ブロック



3. 森林総合監理士PRサイト

(1)目的

森林総合監理士活動への需要者(市町村、事業体、森林所有者等)に向けた、森林総合監理士活動の需要拡大を支援(ＰＲ)することに資する。

森林総合監理士の役割、機能、「依頼できること」、「森林総合監理士とともに実現できること」などをわかりやすく紹介し、森林総合監理士の登場で地域森林経営をどのように向上できるのか、森林総合監理士の活動モデル(実践モデル)を描く内容としている。活動モデルでは、地域レベル、個別レベルでの経営への助言・アドバイス、計画作成、監理、実行など、さまざまな場面の具体的な事例を掲載している。

(2)対象者

山林所有者、素材生産業者、木材流通・加工業者、市町村担当者、消費者、教育機関担当者等

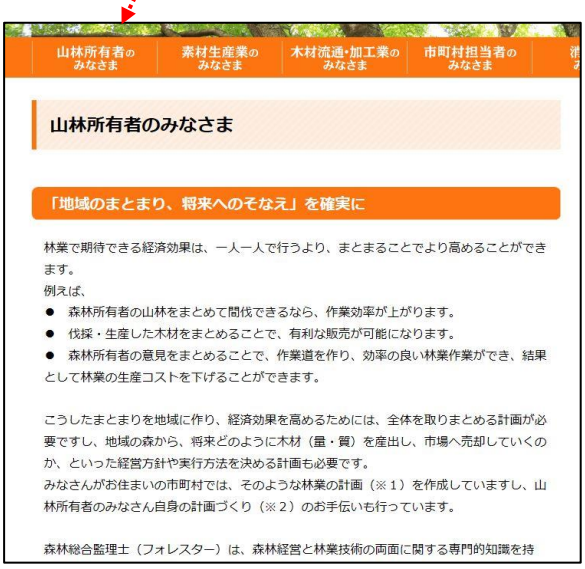
(3)構成・イメージ

○コンテンツ　※下線箇所：本年度更新情報のあるページ

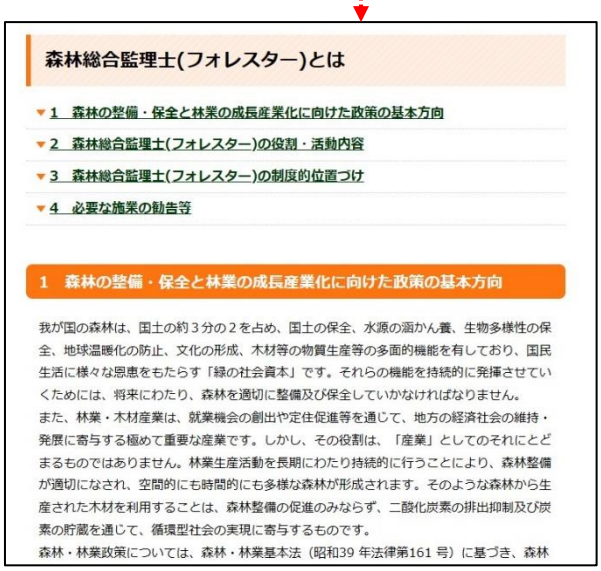
- 山林所有者、素材生産業者、木材流通・加工業者、市町村担当者、消費者、教育機関担当者等へ向けた森林総合監理士の活用方法
- 森林総合監理士(フォレスター)とは？：森林の整備・保全と林業の成長産業化に向けた政策の基本方向、森林総合監理士(フォレスター)の役割・活動内容、森林総合監理士(フォレスター)の制度的位置づけ、必要な施業の勧告等を掲載
- あなたの地域の森林総合監理士：各県ごとの森林総合監理士登録者一覧ＰＤＦ(林野庁ホームページをリンク掲載)

・森林総合監理士の活動モデル(実践モデル)：森林総合監理士の活動の立場、森林総合監理士(フォレスター)の活動モデルを掲載
・用語辞典：森林総合監理士関係用語の説明
・森林・林業情報源：森林林業の技術・普及(出版)関係、林業就業関係、木材関係、森林ボランティア、森林・環境教育関係の事業体等を掲載
・関連情報リンク

▲トップページ



▲山林所有者のみなさま(部分表示)



▲森林総合監理士とは(部分表示)

４. 森林総合監理士ネットワークサイト

(1)目的

森林総合監理士の活動を公表・共有するなど、活動の「見える化」を促進することで、地域の優れた取り組みを波及し、森林総合監理士のモチベーション向上に資する。森林総合監理士活動を広げるヒント、アイデア集として活用できる、継続的なスキルアップを目指したサイトコンテンツを掲載している。

(2)対象者

森林総合監理士(サイトを閲覧するために、事前に登録フォームから申請が必要)

※登録者のみのログイン制

(3)登録者数

363 名(１月 21 日時点)

(4)構成・イメージ

○コンテンツ　※下線箇所：本年度更新情報のあるページ

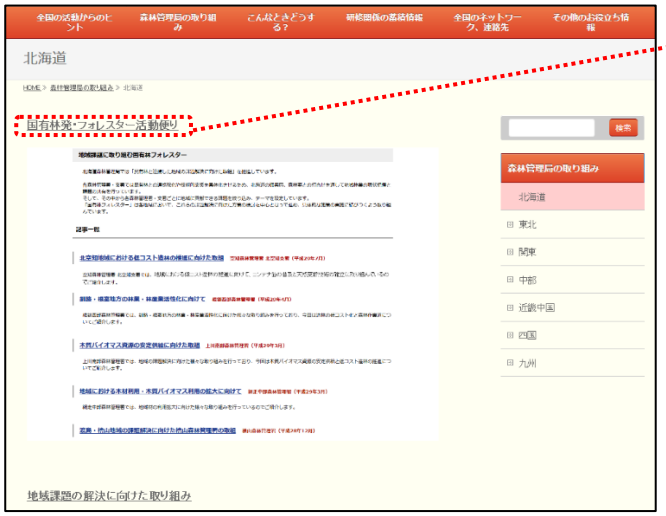
- 全国の活動からのヒント：森林総合監理士活動発表、進行形の取り組み、計画作成支援、経営支援、技術・集約化支援、需給調整・木材活用支援、特用林産物利活用支援、鳥獣害対策支援、安全衛生向上、研究開発支援(実証事業)、人材育成、インフォーマルな教育活動支援、意志決定支援等、活動事例を掲載
- 森林管理局の取り組み：各森林管理局の森林総合監理士に関連した事業内容を掲載
- 研修関係の蓄積情報：平成 23～25 年度准フォレスター研修・平成 26～28 年度森林総合監理士育成研修の講師一覧、研修フィールド一覧、講義資料等を掲載
- 全国のネットワーク、連絡先：協議会・ネットワーク、都道府県の普及担当課、森林管理局担当課の問い合わせ先等を掲載
- その他のお役立ち情報：森林総合監理士に役立つ情報を掲載
- 各ブロックのコンテンツ：７つのブロックごとに自由に情報を発信、コメント投稿できる設定

▲トップページ

▲本年度更新ページ(部分表示)

▲全国の活動からのヒント(部分表示)
>計画作成支援

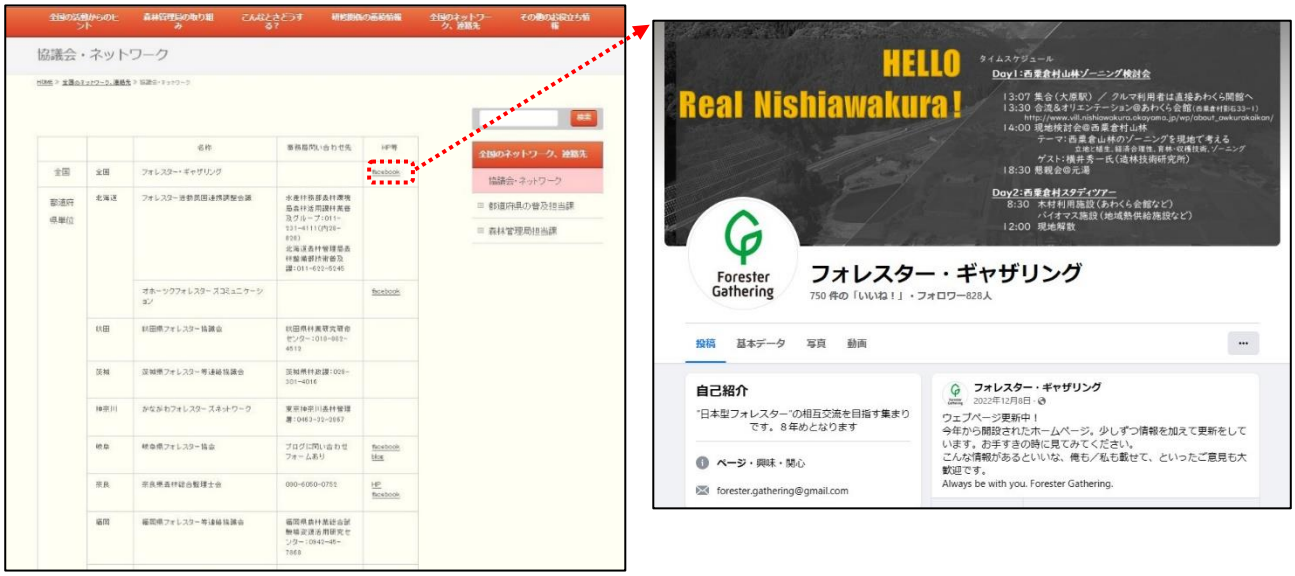
※外部データベースにリンク



▲森林管理局の取り組み>北海道森林管理局(部分表示)

※外部ホームページをリンク

▲研修関係の蓄積情報>講師一覧>本庁講師



▲全国のネットワーク、連絡先

５. 各サイトのアクセス数等

※ページ別訪問数：特定のページを訪問した者の数（期間内では重複あり）、ページビュー数：ページが見られた回数

(1)各サイトのページ別訪問数・ページビュー数

サイト	令和４年４月～令和５年１月		（参考）令和３年４月～令和４年１月	
	ページ別訪問数	ページビュー数	ページ別訪問数	ページビュー数
技術力維持・向上対策研修運営委託事業ポータルサイト	581	839	650	977
実践研修受講生向けサイト	432	752	382	569
森林総合監理士ＰＲサイト	1,741	2,156	2,485	3,254
森林総合監理士ネットワークサイト	416	599	702	941

(2) 本事業の全てのサイトの月ごとのページ別訪問数・ページビュー数

①ページ別訪問数

	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	合計
合計	233	396	360	344	267	390	315	336	317	212	3,170
技術力維持・向上対策研修運営委託事業ポータルサイト	42	110	113	34	54	36	38	30	62	62	581
実践研修受講生向けサイト	7	12	6	70	23	132	47	18	108	9	432
森林総合監理士ＰＲサイト	63	206	214	238	168	175	180	241	134	122	1,741
森林総合監理士ネットワークサイト	121	68	27	2	22	47	50	47	13	19	416

②ページビュー数

	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	合計
合計	293	649	459	438	361	504	395	426	529	292	4,346
技術力維持・向上対策研修運営委託事業ポータルサイト	64	168	157	48	74	44	44	48	93	99	839
実践研修受講生向けサイト	15	18	12	105	64	197	71	21	236	13	752
森林総合監理士ＰＲサイト	70	337	252	283	195	207	209	271	180	152	2,156
森林総合監理士ネットワークサイト	144	126	38	2	28	56	71	86	20	28	599

Ⅱ. 総括

森林総合監理士の技術水準の維持・向上、新たな森林管理システムを運営していく上での課題への対応や先進的な地域活動の支援を目的とした、森林総合監理士活動の見える化をねらいとし、森林総合監理士を活用する者対象の『森林総合監理士ＰＲサイト』と、森林総合監理士の登録者限定の『森林総合監理士ネットワークサイト』を設定し、令和３年度に実施された森林総合監理士活動の 49 事例の情報等を更新した。このほか、本事業全体の概要を示す『技術力維持・向上対策研修運営委託事業ポータルサイト』では、実践研修実施場所・研修日程等の情報や森林総合監理士(フォレスター)基本テキスト等、実践研修受講生へのフォローアップのための『実践研修受講生向けサイト』は、本年度の各ブロックで実施した研修実施報告書と研修資料を更新した。

一般向けの『技術力維持・向上対策研修運営委託事業ポータルサイト』と『森林総合監理士ＰＲサイト』については、安定的にアクセス数もあり、本事業及び森林総合監理士をＰＲする窓口的役割は十分に果たしていると考えられる。また、対象者限定の『実践研修受講生向けサイト』と『森林総合監理士ネットワークサイト』については、サイト利用者(森林総合監理士ネットワークサイトは登録者)数を加味すれば、一定の利用があると言える。

『森林総合監理士ＰＲサイト』は、森林総合監理士活動をＰＲし、地域での森林総合監理士の需要を喚起する目的として設定し、今年度、森林総合監理士(フォレスター)の活動情報等を更新した。各道県の森林総合監理士の活動事例の紹介や対象者(山林所有者、素材生産業者、木材流通・加工業、市町村担当者、消費者、教育機関等)ごとに森林総合監理士の活用の呼びかけをまとめたサイトで、より広い層に森林総合監理士活動を普及・啓発できる意義は大きいため、基礎情報のほか、森林総合監理士の活動の最新情報等を更新してきた。一般向けのサイトの中で、この『森林総合監理士ＰＲサイト』のアクセス数がもっとも高い結果となっており、アクセス解析の詳細から、「森林総合監理士とは」のページへの訪問数が突出して高く、森林総合監理士への関心の高さがうかがえ、今後とも情報の充実が求められている。

『森林総合監理士ネットワークサイト』は、情報共有の役割を主として、森林管理局での地域課題への取組や全国林業普及指導職員活動約 240 事例等の全国の先進的・優良事例、平成 23～28 年度に実施された森林総合監理士に関わる研修関係の蓄積情報(約 290 名の講師、フィールド)など、森林総合監理士活動に活用できる情報を掲載している。本サイトはログイン・パスワード制となっており、登録者数は１月 21 日時点で 363 名となっている。昨年度同様、アクセス解析の詳細から、「進行形の取り組み」へのニーズが高かったこともあり、森林総合監理士活動の最新情報等を更新した。今後は、特に現在進行形で動いている森林総合監理士の活動情報等を充実させ、登録者が業務に活用できる情報を効率的に収集し、提供していく必要がある。

参考資料

実践研修講師リスト(外部講師、林野庁講師)

令和4年度

北海道ブロック

※所属は研修担当時

講義・演習名	講師	所属
オリエンテーション・研修の目的等の説明・アイスブレイク	根本　治	北海道森林管理局技術普及課
【講義・机上案作成】 ・基本講義 （木材需給・流通に関する基礎知識） ・グループ演習①	嶋瀬拓也	(研)森林総合研究所北海道支所
	林　裕之	北海道森林管理局資源活用第二課
	根本　治	北海道森林管理局技術普及課
【現地視察・演習】 ・グループ演習② 【演習・発表】 ・グループ演習③ ・グループ演習④ ・発表 ・質疑応答	嶋瀬拓也	(研)森林総合研究所北海道支所
	根本　治	北海道森林管理局技術普及課
	和泉一広	北海道森林管理局技術普及課
【講評】 ・検討結果に対する講評と意見交換 ・まとめ	嶋瀬拓也	(研)森林総合研究所北海道支所
	林　裕之	北海道森林管理局資源活用第二課
	根本　治	北海道森林管理局技術普及課

東北ブロック

講義・演習名	講師	所属
【講義】森林作業道とは	斎藤仁志	岩手大学農学部
【講義】森林作業道配置計画の基礎知識	斎藤仁志	岩手大学農学部
【演習】情報技術を用いた森林路網計画の手順と方法	斎藤仁志	岩手大学農学部
【グループワーク】森林作業道配置図の作成	斎藤仁志	岩手大学農学部
	小笠原啓一	東北森林管理局森林整備部
	田中　忠	東北森林管理局森林整備部
	庄司卓矢	東北森林管理局森林整備部
	田中邦子	東北森林管理局森林整備部
【演習】森林作業道配置図の作成等	斎藤仁志	岩手大学農学部
	小笠原啓一	東北森林管理局森林整備部
	田中　忠	東北森林管理局森林整備部
	庄司卓矢	東北森林管理局森林整備部
	田中邦子	東北森林管理局森林整備部
【演習】森林作業道配置事例の研究	斎藤仁志	岩手大学農学部
	小笠原啓一	東北森林管理局森林整備部
	田中　忠	東北森林管理局森林整備部
	庄司卓矢	東北森林管理局森林整備部
	田中邦子	東北森林管理局森林整備部
【演習】【グループワーク】 森林作業配置の現地検討～情報化技術を用いた現地踏査～	斎藤仁志	岩手大学農学部
	小笠原啓一	東北森林管理局森林整備部
	田中　忠	東北森林管理局森林整備部
	庄司卓矢	東北森林管理局森林整備部
	田中邦子	東北森林管理局森林整備部

講義・演習名	講師	所属
【グループワーク】森林作業配置図の作成 路網配置の決定とその評価	斎藤仁志	岩手大学農学部
	小笠原啓一	東北森林管理局森林整備部
	田中　忠	東北森林管理局森林整備部
	庄司卓矢	東北森林管理局森林整備部
	田中邦子	東北森林管理局森林整備部
【発表・講評】	斎藤仁志	岩手大学農学部
	小笠原啓一	東北森林管理局森林整備部
	田中　忠	東北森林管理局森林整備部
	庄司卓矢	東北森林管理局森林整備部
	田中邦子	東北森林管理局森林整備部

中部ブロック

講義・演習名	講師	所属
オリエンテーション(ガイダンス)	筒井雅敏	中部森林管理局森林技術・支援センター
【講義・説明・演習】 ・伐採・造林一貫作業システムについて ・採材・仕分けについて ・伐採計画の演習について	大野田　学	中部森林管理局森林整備課
	芳沢真一	中部森林管理局資源活用課
	日置順昭	中部森林管理局資源活用課
	寺沢正樹	中部森林管理局技術普及課
	横井眞吾	中部森林管理局名古屋事務所
	筒井雅敏	中部森林管理局森林技術・支援センター
	棚橋和彦	中部森林管理局森林技術・支援センター
2日目の現地検討について	筒井雅敏	中部森林管理局森林技術・支援センター
【現地実習】伐採・造林一貫作業システムの現地検討・意見交換	川添峰夫	住友林業株式会社　資源環境事業本部 山林部　岐阜樹木育苗センター
	仲谷勝一	中部森林管理局岐阜森林管理署
	水野耕太	中部森林管理局岐阜森林管理署
	大野田　学	中部森林管理局森林整備課
	永瀬庄栄	中部森林管理局資源活用課
	日置順昭	中部森林管理局資源活用課
	寺沢正樹	中部森林管理局技術普及課
	横井眞吾	中部森林管理局名古屋事務所
	四ツ嶽誠	中部森林管理局森林技術・支援センター
	筒井雅敏	中部森林管理局森林技術・支援センター
	棚橋和彦	中部森林管理局森林技術・支援センター
【現地実習】市場視察・採材仕分け・流通・販売	杉山永喜	下呂総合木材市売協同組合
【演習】発表準備 伐採･造林一貫作業による主伐及び低コスト造林について 図面、シート等作成	大野田　学	中部森林管理局森林整備課
	芳沢真一	中部森林管理局資源活用課
	日置順昭	中部森林管理局資源活用課
	寺沢正樹	中部森林管理局技術普及課
	横井眞吾	中部森林管理局名古屋事務所
	四ツ嶽誠	中部森林管理局森林技術・支援センター
	筒井雅敏	中部森林管理局森林技術・支援センター
	棚橋和彦	中部森林管理局森林技術・支援センター
3日目の発表について	筒井雅敏	中部森林管理局森林技術・支援センター

講義・演習名	講師	所属
【演習】発表（発表準備、発表、ディスカッション）・講師講評	安富健人	林野庁研究指導課
	長陽一郎	林野庁業務課
	大野田　学	中部森林管理局森林整備課
	永瀬庄栄	中部森林管理局資源活用課
	日置順昭	中部森林管理局資源活用課
	寺沢正樹	中部森林管理局技術普及課
	横井眞吾	中部森林管理局名古屋事務所
	四ツ嶽誠	中部森林管理局森林技術・支援センター
	筒井雅敏	中部森林管理局森林技術・支援センター
	棚橋和彦	中部森林管理局森林技術・支援センター

近畿中国ブロック

講義・演習名	講師	所属
実践研修ガイダンス	上野康史	近畿中国森林管理局技術普及課
【講義】今後の森林づくりの考え方について	福本真也	近畿中国森林管理局計画課
【講義】多様な森林づくりの構想について	山下直子	(研)森林総合研究所関西支所
グループ演習・現地検討の進め方、発表のとりまとめ方説明	坪倉　真	近畿中国森林管理局技術普及課
【演習】現地検討前の打合せ(GW)	山下直子	(研)森林総合研究所関西支所
	福本真也	近畿中国森林管理局計画課
	池田則男	近畿中国森林管理局技術普及課
	上野康史	近畿中国森林管理局技術普及課
	坪倉　真	近畿中国森林管理局技術普及課
	草深和博	近畿中国森林管理局森林技術・支援センター
	嶋中伸二	近畿中国森林管理局森林技術・支援センター
	黒瀬祐二	近畿中国森林管理局森林技術・支援センター
	吉坂英則	近畿中国森林管理局森林技術・支援センター
現地検討の進め方説明	坪倉　真	近畿中国森林管理局技術普及課
【現地検討】 ・天然力を活用した森林づくり （天然生広葉樹の活用事例の調査） ・一斉人工造林地における今後の森林施業 （地位等の森林の状況の調査）	山下直子	(研)森林総合研究所関西支所
	福本真也	近畿中国森林管理局計画課
	池田則男	近畿中国森林管理局技術普及課
	上野康史	近畿中国森林管理局技術普及課
	坪倉　真	近畿中国森林管理局技術普及課
	草深和博	近畿中国森林管理局森林技術・支援センター
	嶋中伸二	近畿中国森林管理局森林技術・支援センター
	黒瀬祐二	近畿中国森林管理局森林技術・支援センター
	吉坂英則	近畿中国森林管理局森林技術・支援センター
【演習】発表とりまとめ(GW) 現地検討結果を踏まえて、「一斉人工造林地における今後の森林施業」をテーマとして、目標林型等について検討し、発表をとりまとめ	山下直子	(研)森林総合研究所関西支所
	福本真也	近畿中国森林管理局計画課
	池田則男	近畿中国森林管理局技術普及課
	上野康史	近畿中国森林管理局技術普及課
	坪倉　真	近畿中国森林管理局技術普及課
	草深和博	近畿中国森林管理局森林技術・支援センター
	嶋中伸二	近畿中国森林管理局森林技術・支援センター
	黒瀬祐二	近畿中国森林管理局森林技術・支援センター
	吉坂英則	近畿中国森林管理局森林技術・支援センター
本日の進め方説明	坪倉　真	近畿中国森林管理局技術普及課

講義・演習名	講師	所属
【演習】発表・意見交換・講評	山下直子	(研)森林総合研究所関西支所
	福本真也	近畿中国森林管理局計画課
	池田則男	近畿中国森林管理局技術普及課
	上野康史	近畿中国森林管理局技術普及課
	坪倉　真	近畿中国森林管理局技術普及課
	草深和博	近畿中国森林管理局森林技術・支援センター
	嶋中伸二	近畿中国森林管理局森林技術・支援センター
	黒瀬祐二	近畿中国森林管理局森林技術・支援センター
	吉坂英則	近畿中国森林管理局森林技術・支援センター
	小口真由美	林野庁業務課

四国ブロック

講義・演習名	講師	所属
研修主旨、意図、留意点の説明	後藤和昭	四国森林管理局森林技術・支援センター
【講義】 今後の世界の木材需要動向等について	砂田和之	株式会社サイプレス・スナダヤ
【講義】 集材架線システムの資料作成の説明(コスト計算等) GIS操作方法	原田康弘	四国森林管理局森林整備部資源活用課
	横山敬冶	四国森林管理局森林整備部資源活用課
	渡辺督巳	四国森林管理局森林技術・支援センター
	江入力男	四国森林管理局森林技術・支援センター
【実習】 机上で1/5000図面に搬出系統図(集材線・路網)を記入	原田康弘	四国森林管理局森林整備部資源活用課
	横山敬冶	四国森林管理局森林整備部資源活用課
	渡辺督巳	四国森林管理局森林技術・支援センター
	江入力男	四国森林管理局森林技術・支援センター
【実習】 採材研修	南　朋広	高知県森林組合連合会高幡共販所
	原田康弘	四国森林管理局森林整備部資源活用課
	横山敬冶	四国森林管理局森林整備部資源活用課
	渡辺督巳	四国森林管理局森林技術・支援センター
	江入力男	四国森林管理局森林技術・支援センター
	後藤和昭	四国森林管理局森林技術・支援センター
【実習】 素材生産作業現場見学及び説明	清水誠生	株式会社清水林業
	原田康弘	四国森林管理局森林整備部資源活用課
	横山敬冶	四国森林管理局森林整備部資源活用課
	渡辺督巳	四国森林管理局森林技術・支援センター
	江入力男	四国森林管理局森林技術・支援センター
	後藤和昭	四国森林管理局森林技術・支援センター
【実習】 簡易な架線集材設備の見学及び操作演習	原田康弘	四国森林管理局森林整備部資源活用課
	横山敬冶	四国森林管理局森林整備部資源活用課
	渡辺督巳	四国森林管理局森林技術・支援センター
	江入力男	四国森林管理局森林技術・支援センター
	後藤和昭	四国森林管理局森林技術・支援センター
【実習】 各班で現地確認を踏まえた、集材架線システムの資料作成	原田康弘	四国森林管理局森林整備部資源活用課
	横山敬冶	四国森林管理局森林整備部資源活用課
	渡辺督巳	四国森林管理局森林技術・支援センター
	江入力男	四国森林管理局森林技術・支援センター
	後藤和昭	四国森林管理局森林技術・支援センター

講義・演習名	講師	所属
【発表・講評】 各班発表、講評	原田康弘	四国森林管理局森林整備部資源活用課
	横山敬冶	四国森林管理局森林整備部資源活用課
	渡辺督巳	四国森林管理局森林技術・支援センター
	江入力男	四国森林管理局森林技術・支援センター
	後藤和昭	四国森林管理局森林技術・支援センター

実践研修修了者名簿

令和4年度

北海道ブロック

※所属は修了日現在

区分	都道府県	名前	所属	修了者番号
都道府県職員	北海道	工藤　雅人	檜山振興局森林室　北檜山事務所	016
都道府県職員	北海道	小林　さよ子	空知総合振興局　森林室　砂川事務所	014
都道府県職員	北海道	谷口　久美子	石狩振興局　森林室普及課	015
都道府県職員	北海道	德永　秀康	留萌振興局　森林室　天塩事務所	017
都道府県職員	北海道	棟方　清志	宗谷総合振興局　森林室	018
市町村職員	北海道	長谷　祐樹	北見市　農林水産部　農林整備課	020
都道府県職員	兵庫県	畝井　良幸	北播磨県民局　加東農林振興事務所　森林課	019
国有林職員	北海道	清水　亜広	北海道森林管理局　網走南部森林管理署	023
国有林職員	北海道	中嶋　佑輔	北海道森林管理局　空知森林管理署　北空知支署　業務グループ	021
国有林職員	北海道	長谷部　文香	北海道森林管理局　宗谷森林管理署　利尻森林事務所	022
国有林職員	大分県	蒲池　勝也	九州森林管理局　大分西部森林管理署　総務グループ	024

東北ブロック

区分	都道府県	名前	所属	修了者番号
都道府県職員	岩手県	清水　辰平	沿岸広域振興局農林部　大船渡農林振興センター　林業振興課	001
国有林職員	秋田県	村井　秀成	東北森林管理局　秋田森林管理署　湯沢支署　業務グループ	002
国有林職員	熊本県	礒﨑　愛永	九州森林管理局　総務企画部　総務課	003
国立研究開発法人職員	岩手県	佐藤　孝治	(研)森林研究・整備機構　森林整備センター　東北北海道整備局　盛岡水源林整備事務所	004
国立研究開発法人職員	福島県	大内　悠司	(研)森林研究・整備機構　森林整備センター　関東整備局　福島水源林整備事務所	005
民間	岩手県	佐藤　元幸	有限会社佐藤木材	006
民間	岩手県	関畑　大地	久慈地方森林組合　業務部　林産販売課	008
民間	岩手県	向川戸　大樹	久慈地方森林組合　業務部　林産販売課	009
民間	岩手県	森岩　達也	久慈地方森林組合　業務部　林産販売課	007
民間	福島県	近藤　克彦	公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会　林業労働力確保支援センター	010
民間	長野県	遠山　哲治	一般社団法人長野県林業コンサルタント協会　本部　業務課	011
民間	長野県	長崎　祥也	一般社団法人長野県林業コンサルタント協会　東信事務所	012
民間	長野県	堀内　加菜	一般社団法人長野県林業コンサルタント協会　本部　調査研究課	013

中部ブロック

区分	都道府県	名前	所属	修了者番号
都道府県職員	富山県	打尾　茂久	農林水産部　富山農林振興センター　森林整備課	025
都道府県職員	石川県	木本　祥太	石川農林総合事務所　林業振興課	026
市町村職員	石川県	本間　雄也	金沢市　森林再生課	027
都道府県職員	長野県	清水　香代	上伊那地域振興局　林務課	028
都道府県職員	長野県	三石　一彦	南信州地域振興局　林務課	029
都道府県職員	静岡県	小池　悠介	中遠農林事務所　森林整備課	030
都道府県職員	愛知県	横尾　英樹	西三河農林水産事務所　林務課	031
都道府県職員	滋賀県	吉浦　大智	西部・南部森林整備事務所	032
都道府県職員	広島県	太田　知宏	農林水産局　林業課	033
国有林職員	長野県	南坂　博和	中部森林管理局　中信森林管理署　松本森林事務所	035
国有林職員	長野県	向井　明	中部森林管理局　南信森林管理署	034
国有林職員	岐阜県	村井　千秋	中部森林管理局　東濃森林管理署	036

国立研究開発法人職員	三重県	中田　寿治	(研)森林研究・整備機構　森林整備センター　中部整備局　津水源林整備事務所	037
民間	岐阜県	日比野　基宏	岐阜県森林組合連合会　森林整備部	038

近畿中国ブロック

区分	都道府県	名前	所属	修了者番号
都道府県職員	奈良県	堀井　雅人	食と農の振興部　南部農林振興事務所　森林共生推進第一課	040
都道府県職員	和歌山県	松島　洋介	伊都振興局　農林水産振興部　林務課	039
国有林職員	岡山県	濵岡　麻美	近畿中国森林管理局　岡山森林管理署　新郷森林事務所	041
国立研究開発法人職員	石川県	河原田　裕二	(研)森林研究・整備機構　森林整備センター　金沢水源林整備事務所	042
国立研究開発法人職員	岡山県	宮本　忠輔	(研)森林研究・整備機構　森林整備センター　中国四国整備局　水源林業務課	043
国立研究開発法人職員	宮崎県	花田　英樹	(研)森林研究・整備機構　森林整備センター　宮崎水源林整備事務所	044
民間	兵庫県	井上　和宣	有限会社井上製材所	045

四国ブロック

区分	都道府県	名前	所属	修了者番号
都道府県職員	長野県	髙野　毅	北アルプス地域振興局　林務課	046
都道府県職員	山口県	井上　祐一	下関農林事務所　森林部　森林づくり推進課	047
都道府県職員	愛媛県	西田　剛士	東予地方局　農林水産振興部　森林林業課	048
都道府県職員	高知県	北代　新也	中央西林業事務所　森林土木第一課	050
都道府県職員	高知県	諏訪　貴俊	林業振興・環境部　林業大学校　教務課	049
市町村職員	高知県	立川　真悟	本山町　まちづくり推進課	051
都道府県職員	長崎県	辻　恵子	県央振興局林業課	052
国有林職員	高知県	北川　憲太朗	四国森林管理局　嶺北森林管理署　業務グループ	055
国有林職員	高知県	芹口　竜一	四国森林管理局　安芸森林管理署　安倉森林事務所	056
国有林職員	高知県	滝口　龍二	四国森林管理局　四万十森林管理署清水・貝の川森林事務所	054
国有林職員	高知県	堀　正幸	四国森林管理局　資源活用課	053
国立研究開発法人職員	鳥取県	橋本　直樹	(研)森林研究・整備機構　森林整備センター　鳥取水源林整備事務所	057
民間	兵庫県	河合　貴則	兵庫県森林組合連合会　業務第一課	058
民間	愛媛県	近藤　椋介	近藤産業株式会社	059
民間	高知県	黒瀬　宗樹	株式会社あすなろ四国支社	060

実践研修ふりかえりシートの様式例

実践研修　　●●ブロック　１日目　ふりかえりシート　　班：

所属組織名：　　氏名：　　受講生No.：

講義や演習で学んだことのポイントやキーワード 印象に残った講師や他の受講者の言葉を記録・整理	
研修後、職場（現場）でさっそく調べたいこと、 確認したいこと・取り組みたいことを記録・整理	
自分の知見を高めるために、 もっと詳しく知りたい・学びたいこと。 難しかったこと・わからなかったこと	

実践研修

●●ブロック　最終日ふりかえりシート

班:

所属組織名:　　**氏名:**　　**受講生No.:**

３日間の実践研修を終えて、新たに見えてきた自分自身の課題、
新たに獲得したこと、得た知識・情報、ポイント等を整理・記録しましょう

実践研修アンケート調査票　　**参考資料１－４**

令和4年度　技術力維持・向上対策研修運営委託事業

〇〇ブロック　実践研修評価アンケート調査票

今後の研修を効果的に実施するための参考資料としますので、率直なご意見・ご要望等をご記入下さい。
ボールペン等で濃くご記入くださいますようお願いします。

所属組織名：＿＿＿＿＿＿＿＿　氏名：＿＿＿＿＿＿＿＿　受講生No：＿＿＿＿

Ⅰ　森林総合監理士資格の有無
該当欄の数字に〇を付けて下さい。

(1)森林総合監理士資格の有無

森林総合監理士	資格なし
1	2

Ⅱ　本研修に対する理解度、活用度
該当欄の数字に〇を付け、理由等を【コメント】欄にご記入下さい。

(1)研修内容についてどの程度理解できましたか？

できなかった　　できた
1　2　3　4　5

【コメント】

(2)今後、森林総合監理士等の活動を行う上で、どの程度活用できそうですか？

できない　　できる
1　2　3　4　5

【コメント】

Ⅲ　本研修に対する全体としての満足度、運営に対する評価
該当欄の数字に〇を付け、理由等を【コメント】欄にご記入下さい。

(1)テーマの設定について（※森林総合監理士等の活動を行う上での評価として下さい）

低い　満足度　高い
1　2　3　4　5

【コメント】

(2)テーマに対するカリキュラムの内容について

低い　満足度　高い
1　2　3　4　5

【コメント】

(3)カリキュラムの時間について

低い　満足度　高い
1　2　3　4　5

【コメント】

(4)研修の進行・運営の流れについて

良くなかった　　良かった
1　2　3　4　5

【コメント】

Ⅳ　その他
自由に感想をお書き下さい。（研修の中で特に印象に残ったこと等）

ご協力ありがとうございました。

参考資料１－５

実践研修タイムスケジュールの事例

令和4年度　実践研修　講義等のタイムスケジュール

	予　定		実　績					
日程	開始時間	所要時間	開始時間	所要時間	講義等の名称	内容等	形態	担当
1日目	11:00	1:00	11:03	0:50	スタッフミーティング	タイムスケジュール・役割分担等の確認	その他	
10月18日（火）	13:00	0:30	13:00	0:30	開講式	・開講あいさつ （四国森林管理局　整備部長）※途中参加の予定 （林野庁　研究指導課） ・外部講師 ・スタッフ等の紹介 ・研修の目標・進め方・確認 ・スケジュール紹介 ・事務連絡（研修運営事務局） ・班内での自己紹介など （自己紹介の時間は、開講式の残り時間とする） ・アンケート調査票を配布（開講前に事務局配布）	その他	森林管理局
	13:30	1:30	13:30	1:32	・今後の世界の木材需要動向等について	外部講師 講義60分、質疑応答30分	講義	外部講師
	15:00	0:10	15:02	0:08	休憩		その他	
	15:10	0:40	15:10	1:01	・ひな形の説明 ・架線系作業システムの資料作成の説明 ・GIS操作方法の資料作成の説明	各班の担当講師 1班：森林管理局　2班：森林管理局　3班：森林管理局　4班：森林管理局 ・集材作業システムの資料作成の説明（コスト計算）30分 ・GIS操作方法説明10分	講義	森林管理局
	15:50	0:10	－	－	休憩		その他	
	16:00	0:40	16:11	0:34	搬出系統図（集材線・路網）作成	各班の担当講師 1班：森林管理局　2班：森林管理局　3班：森林管理局　4班：森林管理局 各班、机上で1/5000の図面に搬出系統図（集材線・路網）を記入。	実習	森林管理局

日程	開始時間	所要時間	開始時間	所要時間	講義等の名称	内容等	形態	担当
	16:40	**0:20**	16:45	0:13	ふりかえり	１日目のふりかえりシート配布（記入のみ）　回収 ※明日の現地実習の説明（簡潔にアナウンス）	その他	
	17:00		16:58		１日目終了			
	17:00		17:06	0:31	スタッフミーティング	ふりかえりシート回覧 ２日目の準備		

２日目 10月19日 （水）	**8:15**	**1:30**	8:10	1:28	現地へ移動（朴ノ川山3210）	準備物は、前日にタウンエースに積み込む ・道の駅「かわうその里すさき」でトイレ休憩（10分以内） （９：45までに現地着予定） ・研修生はジャンボタクシーで移動 ・内部講師４名がジャンボタクシーに同乗 １号車（森林管理局）２号車（森林管理局）３号車（森林管理局）４号車（森林管理局）		
	9:45	**0:10**	9:38	0:13	実習準備		その他	
	9:55	**1:10**	9:51	1:09	採材研修	全体外部講師 各班の担当講師 １班：森林管理局　２班：森林管理局　３班：森林管理局　４班：森林管理局 ・各班、１本を採材し、その結果を野帳へとりまとめ（15分） ・結果を発表（各班３分×４班＝12分） ・各班の採材結果に基づき造材（10分） ・外部講師講評及び質疑応答（残時間） ・準備物（電卓、輪尺、メジャー、単価表、野帳、野帳板）（丸太材積表・立木材積表）パソコン、モニター、ハンドマイク、パネル、パネルスタンド	その他	森林管理局 外部講師
	11:05	**0:55**	11:00	0:50	集材作業現場見学及び説明	事業概要外 ・事業概要等の説明20分 ・集材から造材までの一連の作業の流れ見学15分 ・ドローン飛行映像確認10分 ・質疑応答10分	説明 演習	外部講師

日程	開始時間	所要時間	開始時間	所要時間	講義等の名称	内容等	形態	担当
	12:00	0:50	11:50	0:40	昼食	現地昼食 ※12時までに質疑応答の時間が確保できなかった場合は、昼食時間を短縮し、質疑応答の時間を設ける。	その他	
	12:50	1:25	12:52	1:18	四国森林管理局へ移動	道の駅「かわうその里すさき」トイレ休憩		
	14:15	0:10	14:10	0:13	休憩		その他	
	14:25	0:55	14:23	1:02	簡易な架線集材設備の見学及び操作演習	・架線設備説明15分 ・電動集材機操作（3分×12名（国職員除く））36分	実習	森林管理局
	15:20	1:20	15:25	1:15	集材作業システムの資料作成	資料作成について、再度、進行役から説明。		森林管理局
	16:40	0:20	16:40	0:16	ふりかえり	２日目のふりかえりシート配布（記入のみ）　回収	その他	
	17:00		16:56		２日目終了			
			17:00	0:42	スタッフミーティング	ふりかえりシート回覧		
			17:42		終了			

３日目	8:15	1:25	8:15	1:47	発表資料作成	・8：15～9：20図面作成及びプレゼン作成 ・9：20～9：40プレゼン発表練習 ※資料が完成した班から発表資料印刷（会場内の事務局プリンターで一部印刷後、技センのコピー機で部数印刷）	グループワーク	森林管理局
	9:40	0:10	–	–	休憩		その他	
10月20日（木）	9:50	1:40	10:02	1:18	発表	発表順番は、1班→2班→3班→4班 ↑　↑　↑　↑ 質問は、2班　3班　4班　1班 ①15名（４班） ②各班20分（10分発表、各班質問検討2分、８分質疑応答） ③講評：10分程度（資源活用課長）	説明	

日程	開始時間	所要時間	開始時間	所要時間	講義等の名称	内容等	形態	担当
	11:30	**0:30**	11:20	0:35	ふりかえり（記入と共有） アンケート記入 閉講式 解散	ふりかえりシート配布・回収（15分以内） （ふりかえりシート班内共有は5分以内） 閉講式の挨拶は、技セン所長 閉会式後に集合写真撮影	その他	
	12:00	**0:30**	12:00	0:26	スタッフの３日間の反省会 全日程終了	ふりかえりシート、アンケート回覧		

研修における新型コロナウイルス感染症の感染防止対策について
（研修生への要請事項）

「林業成長産業化構想技術者育成研修」及び「実践研修」の研修実施に当たって、下記のとおり新型コロナウイルス感染症（以下「新型コロナ」という。）の感染防止対策を実施しますので、下記の要請事項等の遵守をお願いします。

記

１　研修受講前に関する事項

(1)　研修受講前の体調管理について

万全の体調で研修に臨むため、日頃から体調管理に努めてください。また、受講前の２週間は毎日（できれば朝夕２回）検温の上、各自の体調等について、別紙「体温・体調等記録用紙（表）」に記録し、受講の可否の判断材料としてください。

なお、当該記録用紙は、研修 14 日前から研修開始日を（表）面に、研修開始日から研修終了日までを（裏）面に記載する様式になっていますので、両面印刷の上、研修開始日までの状況を（表）面に記載し、研修に持参してください。

(2)　研修受講の可否の判断について

ア　受講の取りやめ

以下のいずれかに該当する方は、受講を見合わせてください。

① 研修前２週間以内に発熱等の症状が見られた者（※新型コロナが疑われる場合以外であっても、体調不良者は参加を見合わせてください）

② 国・地域を問わず、海外からの帰国後２週間以内の者

③ その他、同居親族等の家庭内又は職場の同僚などの感染が確認される等、感染のおそれがある者

イ　受講を要検討

以下のいずれかに該当する方は、受講の可否を慎重に検討願います。

① 基礎疾患（糖尿病、心不全、呼吸器疾患ほか）がある者、透析を受けている者、免疫抑制剤や抗がん剤等を用いている者など、重症化しやすいとされている者

② 研修前２週間以内に大規模イベント等（ライブハウス、コンサート等）に参加した者

ウ　その他

感染が拡大している地域等からの研修生は、当該都道府県等の方針（県外への移動自粛要請等）に基づき、研修受講について判断願います。

(3)　来場までの間の感染防止等について

ア　研修会場への来場の際、公共交通機関の利用にあたっては、感染防止にご留意ください。なお、利用した移動ルート（自宅最寄駅等⇔研修会場最寄駅等）の便名・座席番号等を控えておいてください。

イ　来場時に検温を実施し、体調の聞き取りを行います。その際、発熱症状等が

ある場合は、研修参加を取りやめ、そのまま帰宅等していただきます。

(4)　厚生労働省配布の接触確認アプリの活用（スマートフォン所有者のみ）

各自のスマートフォンに、厚生労働省が配布する新型コロナの陽性者と接触した可能性について通知を受け取ることのできるアプリをインストールし、研修受講の可否の判断材料としてください（※詳しくは厚生労働省ＨＰを参照）。

２　研修中に関する事項

(1)　持参品について

各研修生は、マスク、体温計を必ず持参願います（マスクは研修期間中に必要な枚数）。

(2)　研修中の感染防止対策について

ア　毎朝、研修スタッフが体調不良者の有無を確認しますので、研修生は各自で毎朝夕検温し、別紙「体温・体調等記録用紙（裏）」に体調その他参考事項等（メモ欄）を記録いただきます（記録用紙は研修最終日に提出）。

イ　過年度研修初日に実施していた意見交換会は、開催を見合わせます。

ウ　研修時間外においても不要な外出は避け、常識的判断に基づく、節度ある行動をとるよう心掛けてください。

(3)　講義・実習中の感染防止対策について

ア　研修中は、可能な限り、人を密集させない環境の整備に努め、屋内での講義では換気を励行します。

イ　研修会場内及び演習地までの移動車中では、マスクを着用していただきます。また、現地実習中も状況に応じてマスク等の着用をお願いします。

(4)　体調不良者の取扱いについて

ア　新型コロナの疑い如何に関わらず、体調不良者は即時研修を中止し、帰宅等していただきます。

イ　感染のおそれがない体調不良者の場合、必要に応じて病院で診察後、医師の診断結果に基づき帰宅・入院等いただきます。

ウ　感染が疑われる場合（濃厚接触者であることが判明した場合等を含む）、保健所等の指示に基づき対処します。また、帰宅方法等は、保健所や研修生の所属機関とも協議の上、決定します。

３　研修受講後に関する事項

研修終了（帰任）後２週間以内に体調不良となる等、当該研修受講時には既に新型コロナに感染していたおそれがある場合は、至急、研修事務局に連絡願います。

４　その他

感染拡大状況等によっては、研修開始前に、急遽、研修を中止する場合があります。また、研修生に新型コロナが疑われた場合等は、研修実施中であっても、保健所等の指示に従い、即時研修を中止し、全研修生を帰宅等させる場合があります。

体温・体調等記録用紙例　　参考資料１－７

体温・体調等記録用紙（表）

（研修受講14日前からの状況）

*新型コロナウイルスの最大潜伏期間はおおむね14日間といわれています。
*本記録用紙には、研修14日前から研修開始日までの発熱等の症状と健康状態をセルフチェックしていただくものです。
*この期間に体調不良を感じた場合には、無理せず、職場と相談の上、他の研修生のためにも受講について再検討してください。
*個人情報の取り扱いには十分注意し、感染対策以外では使用しません。

所　　属		研 修 名	実践研修
ふりがな		研修区分	北海道ブロック（北海道札幌市）
氏　　名		研修期間	令和４年９月13日（火）～９月15日（木）

日付	体温測定時間	体温（℃）	【新型コロナ感染症を疑う症状】発熱、咳、呼吸困難、全身倦怠感、咽頭痛、鼻汁・鼻閉、頭痛、関節・筋肉痛、下痢、嘔気・嘔吐、味覚や嗅覚の異常など		【参考1】医療機関の受診・解熱鎮痛薬の内服など	【参考2】「三密」状態になるなど感染リスクが高いと思われる外出先（場所）・相手方など
８月30日	:		□無	□有（　　）		
	:		□無	□有（　　）		
８月31日	:		□無	□有（　　）		
	:		□無	□有（　　）		
９月１日	:		□無	□有（　　）		
	:		□無	□有（　　）		
９月２日	:		□無	□有（　　）		
	:		□無	□有（　　）		
９月３日	:		□無	□有（　　）		
	:		□無	□有（　　）		
９月４日	:		□無	□有（　　）		
	:		□無	□有（　　）		
９月５日	:		□無	□有（　　）		
	:		□無	□有（　　）		
９月６日	:		□無	□有（　　）		
	:		□無	□有（　　）		
９月７日	:		□無	□有（　　）		
	:		□無	□有（　　）		
９月８日	:		□無	□有（　　）		
	:		□無	□有（　　）		
９月９日	:		□無	□有（　　）		
	:		□無	□有（　　）		
９月10日	:		□無	□有（　　）		
	:		□無	□有（　　）		
９月11日	:		□無	□有（　　）		
	:		□無	□有（　　）		
９月12日	:		□無	□有（　　）		
	:		□無	□有（　　）		
９月13日（当日）	:		□無	□有（　　）		
	:		□無	□有（　　）		

【注】「三密」状態：①換気の悪い密閉空間、②大勢がいる密集場所、③間近で会話する密接場面が重なる状態

体温・体調等記録用紙（裏）
（研修期間の状況）

*本記録用紙には、研修開始日から研修終了ま日での発熱等の症状と健康状態をセルフチェックしていただくものです。
*研修期間に体調不良を感じた場合には、速やかに研修スタッフに申し出てください。
*本記録用紙は、最終日に提出してください（本記録用紙は研修終了後2週間保存後、廃棄します）。
*個人情報の取り扱いには十分注意し、感染対策以外では使用しません。

所　　属		研 修 名	実践研修
ふりがな		研修区分	北海道ブロック（北海道札幌市）
氏　　名		研修期間	令和４年９月13日（火）～９月15日（木）

日付	体温測定時間	体温（℃）	【新型コロナ感染症を疑う症状】発熱、咳、呼吸困難、全身倦怠感、咽頭痛、鼻汁・鼻閉、頭痛、関節・筋肉痛、下痢、嘔気・嘔吐、味覚や嗅覚の異常　など		【参考1】医療機関の受診・解熱鎮痛薬の内服など	【参考2】・宿泊施設名称・研修中に利用した食堂等の名称など
９月13日	:		□無	□有（　　）		
	:		□無	□有（　　）		
９月14日	:		□無	□有（　　）		
	:		□無	□有（　　）		
９月15日	:		□無	□有（　　）		
	:		□無	□有（　　）		

【メモ１】
班のメンバーの氏名

①　　②　　③

④　　⑤　　⑥

【メモ２】
班のメンバー以外で研修中（時間外を含む）に間近で会話する場面があった方（スタッフを含む）の氏名

①　　②　　③

④　　⑤　　⑥

⑦　　⑧　　⑨

【注】濃厚接触：1mの距離（目安）で、マスク等を着用せずに15分以上の接触があった者（喫煙所・会食など）

実践研修

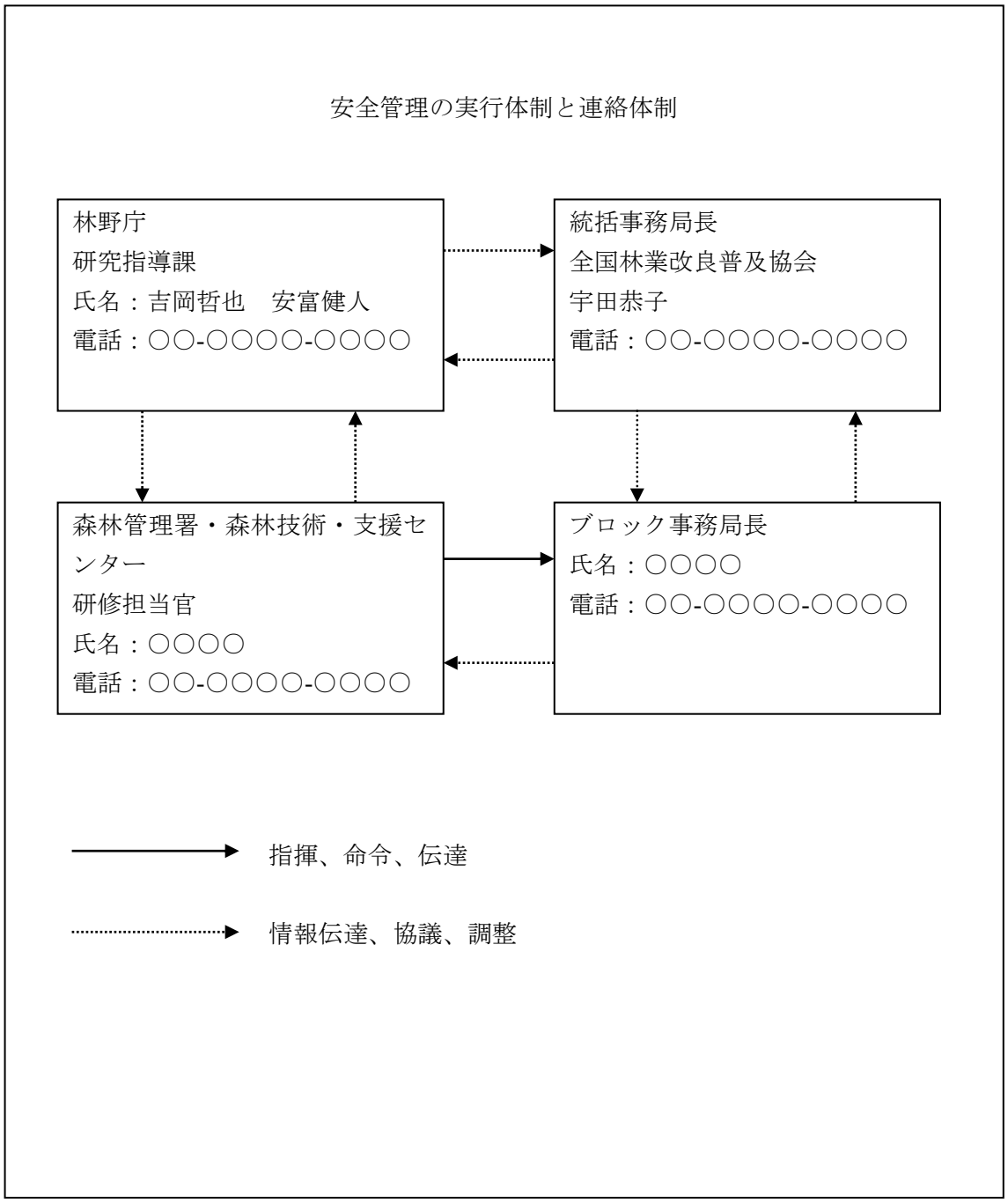
安全管理計画書

安全管理マニュアル

〇〇ブロック

１　安全管理の実行体制と連絡体制

現地においては森林管理局研修担当官の指示のもと、指揮・確認・情報伝達の体制は下記のとおりとする。



２　安全管理の事前確認

（１）受講者情報の事前確認

下記①、②、③については、統括事務局が事前に照会並びに案内を行うので、①、②については一覧（名簿）にて、③については研修開始時に確認する。

①受講者及び研修派遣元の情報

【受講者】氏名、住所、電話番号、救急時連絡先電話番号、年齢、血液型、蜂アレルギーの有無及び蜂アレルギーの程度、研修参加にあたり健康上での留意事項等

【派遣元】名称、住所、電話番号、緊急時連絡先（担当者氏名、電話番号）

②受講者の派遣元における保険の加入情報

③服装、保安帽の準備

受講者へあらかじめ、袖、裾締まりのよい服装での参加、及び山歩きに適した靴（長靴等）、保安帽等安全具の用意を伝えること。蜂の活動期については、現地実習等で着用する衣服は、黒っぽいものを避けること。

（２）研修場所、研修機械器具、救急薬品等の整備

①研修は安全に実施できる場所を選定すること。

②研修場所及び周辺を研修内容に即して事前に確認し、危険箇所（急傾斜、浮き石、蜂の巣等）を把握し、危険箇所にはテープ等で表示すると共に、現地実習実施前に必ず注意を促し、近づかないよう回避する。

③事故時に受講者が退避できる安全場所を確認しておくこと。

④救急車との合流場所を確認しておくこと。（救急車は林道等の悪路走行が困難なことがあるので、合流地点は人家近くが望ましい。）

⑤現地実習の現場も含め携帯電話の使用の可否を確認し、研修中の連絡体制が確保されていることを確認すること。（図面を作成し、会社によって使用可能なものや不可能なものがあるので複数の会社で試験してみる。）

なお、（特に現地実習現場において）受信範囲が極端に狭い、圏外のエリアがほとんど、というような場合は、統括事務局へ相談する。

⑥研修会場まで車で移動する場合は、事前に安全な経路を確認すること。

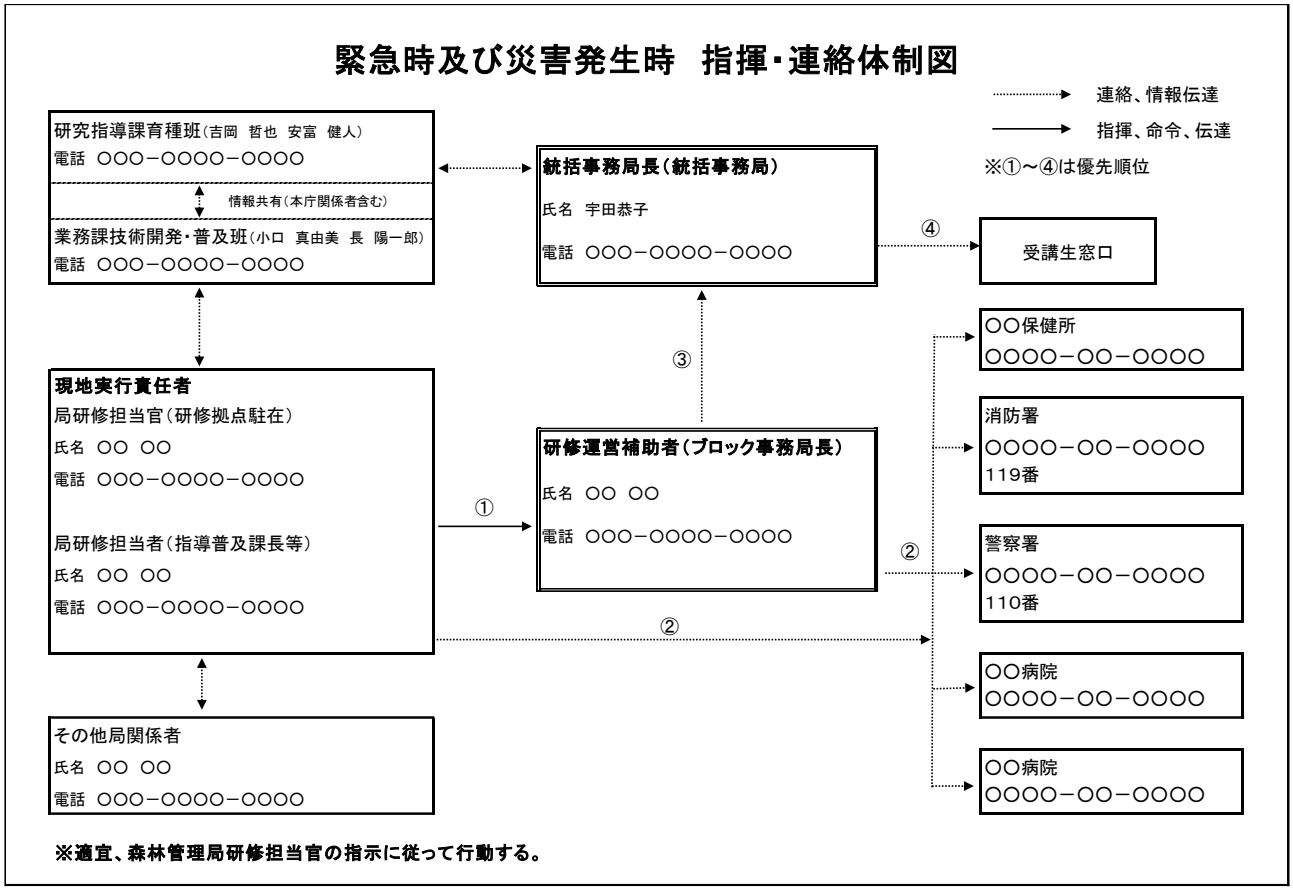
⑦けが人、急病人等の搬送手段、搬送医療機関を確認しておくこと。

⑧研修で使用する器具等の点検を行い、整備不良等に伴う危険因子の排除に努めること。

⑨携帯用救急薬品等の点検を行い、不足・不良や期限切れの無いようにすること。

（３）緊急時及び災害発生時　指揮・連絡体制の整備

緊急時の指揮・連絡体制は、下図のとおりとする。



（４）荒天時の対応（研修開催前）

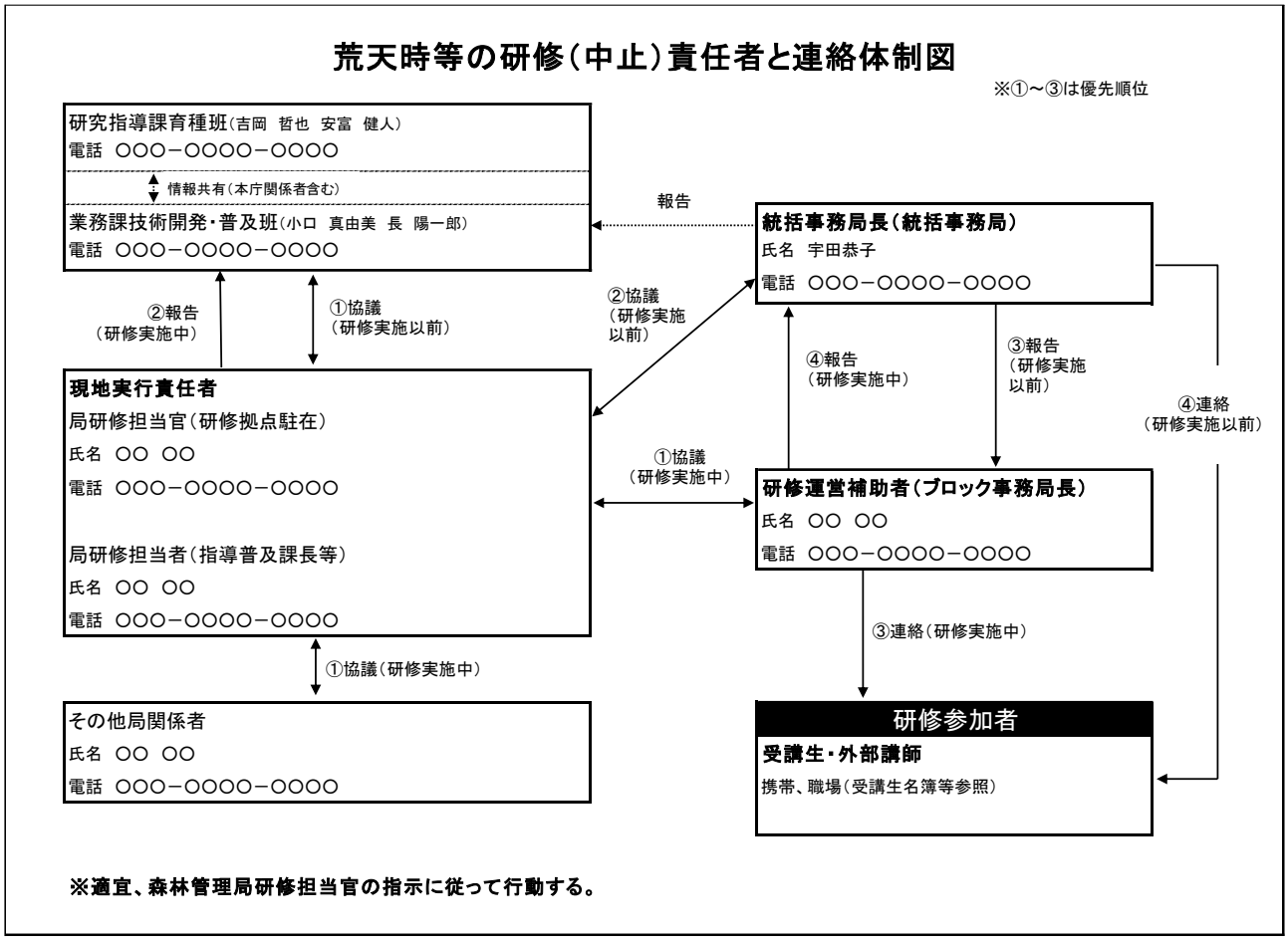
荒天時の研修の実施について、気象情報等の収集整理を行う者、研修の変更、中止の決定方法、決定の日時、研修参加者への周知方法については下記のとおりとする。

荒天時の研修実行（中止）決定責任者は実行責任者（局研修担当官）とするが、研修運営補助者と協議のうえ決定する。

①気象情報の収集整理担当者（ブロック事務局員○○○○）

②決定の日時（研修開催前：令和４年○月○日○時○分、研修中：令和４年○月○日○時○分）

③受講者・講師・その他研修参加者への周知方法



３　研修実行時の安全管理

（１）研修の実行

１）スタッフミーティング

研修開始前には、研修スタッフの他、講師、局研修担当官等を交えて、研修の内容、各スタッフの役割、研修の手順、実習内容、人員配置、受講者の出欠状況等の確認を行う。また、研修内容、天候、危険要因等の認識の一致を図る。

さらに、現地実習日の前日に開催される反省会において安全管理について再確認を行う。

２）研修参加者の安全確保

①研修会場へ車を使用して移動する場合は、交通事故に注意するよう注意喚起を促すこと。現地実習会場へ移動する場合は、当日の工事車両等の有無を確認する。

②研修参加者に対し、安全に関する基本的事項を説明し、身体保護のための被服、防護具は正しく着装するよう指導・確認する。

・保護帽は正しく装着し、あご紐は正しく締めること。

・作業服は袖、裾締まりの良いものを着用すること。

③研修参加者に対し、ヒヤリ・ハット事例があった場合の報告を徹底させること。

④現地実習などでは、次の安全活動を徹底する。

○ＫＹＴ（危険予知訓練）

危険個所に対する感受性を高めるとともに、問題解決能力の向上を図る。

○リスクアセスメント

現場における災害原因を分析し、事前排除に努める。

○指差呼称による確認

作業行動の要所で対象物を確認し、発声により意識を覚醒させ、うっかり災害を防止する。

○相互注意運動

お互いに不安全行動を指摘し合い、その改善を図る。

○４Ｓ運動

整理・整頓・清潔・清掃を行う。研修後の後始末を確実に行う。

○生産・工事現場の確認

機械が動いている生産・工事現場などをあらかじめ確認しておき、近づいたりしないこと。

○研修中の怪我に際しての対応

研修中の怪我により医療機関での処置が発生した場合、その怪我の状況、病院・診療所名、その後の経過を所属機関担当者に報告し対応を引き継ぐ。

３）救急薬品等の携帯

現地実習の場合は、携帯用救急薬品等を必ず携帯すること。

４）荒天時の対応（研修中）

研修中の天候急変等異常時には、次によることとする。

①中断、中止の判断は、現地実行責任者が決定し、ブロック事務局長が結果を統括事務局に報告する。

②一時的に避難する箇所を確保するとともに、下山については、集中豪雨、強風等による道路

事情を十分検討し、現地実行責任者等の慎重な判断指揮のもとに、余裕をもった行動をとること。

③退避場所(休憩所を含む)は異常出水、転落石、崩土等の危険を十分点検して選定すること。

④林道等道路上の待機、退避、または駐停車については、谷筋、岩石地、路肩法面の高い所、橋梁上等危険な箇所を避けること。

(2)研修終了後の確認

1)スタッフミーティング

研修終了後は、必要に応じ、局研修担当官等の参加を得て、研修に係る安全管理についての内容等について、事前打ち合わせどおり実施できたか確認を行うとともに、研修全体を振り返り、今後に向け安全で効果的な研修方法についての改善策をまとめる。

さらに、研修中に発生した「ヒヤリ・ハット」事例を報告し合い、発生原因、再発防止対策をまとめる。

【ヒヤリ・ハット事例報告項目】

①日時	
②場所	
③内容	
④状況	
⑤発生原因	
⑥再発防止策	

2)ヒヤリ・ハット事例報告

ヒヤリ・ハット事例と再発防止策を局研修担当官と統括事務局に報告する。

■付表１　チェックリスト

１．事前確認

□　連絡体制図を(通常時、緊急時)を作成しているか
□　参加者は労災保険又は傷害保険に加入しているか
□　受講者にあらかじめ、袖、裾締まりのよい服装での参加、保安帽等安全具の用意を伝えたか
□　参加者に蜂アレルギー者がいないかを確認したか
□　現地実習箇所について、事前に蜂等の危険因子を回避したか
□　現地の事前確認を行ったか
　安全面で研修開催可能な場所か
　　□　安全に研修できる地山勾配か
　　□　浮き石が無いか
　　□　蜂の巣(有・無)有の対策：研修箇所から外し、周知を徹底する
　　□　危険箇所がないか(崖、水量の多い谷等)
　　□　怪我人の搬送方法を確認したか
　　□　安全に研修出来るスペースは確保できるか
　　□　携帯電話の使用の可否を確認し連絡体制確保を確認出来たか
□　最寄りの病院の位置図、経路を確認したか
□　研修で使用する器具等の点検を行ったか
□　現地の天候(予報)を確認したか
□　携帯電話が繋がらない箇所の場合の対応策はとられているか

２．持ち物

□　マニュアル(緊急連絡網)
□　救急箱
　　□　バンドエイド
　　□　薬(消毒薬、湿布等)
　　□　包帯
　　□　三角巾(グループ分けした場合は各班毎)
　　□　タオル
　　□　ポイズンリムーバー
　　□　蜂スプレー(季節による)
　　□　ガーゼ
　　□　抗ヒスタミン軟膏(蜂刺され用)(使用期限を確認すること)

３．研修中

□　受講者が危険な行為をしていないか
□　怪我または気分の悪くなった受講者はいないか
□　上下作業になっていないか
□　受講者が作業危険区域内に立ち入ってないか(伐採区域等)

付表２　災害発生現場からの連絡事項(チーフ(現地責任者)連絡用)

災害発生現場からの連絡事項

1　連絡者の氏名　私は○○です。

2　災害の概要

（　い　つ　）　○○時△△分に

（ど こ で ）　○○研修の現場で　○○市○○町○○　付近には○○があります

（だ れ が ）　○○(氏名)が

（　何　を　）　○○作業中に

（どうして）　○○したところ

（何により）

（どうなった）　○○(部位)を○○した。

3　傷病者の容態

(意識)　ある・ない

(呼吸)　している・弱い・ない

(出血)　ある(多い・少ない／部位：　　)・ない

(骨折)　骨折はある(部位：　　)・ない・不明

(手当等)　止血、薬を服用・塗る　等

(その他)

4　救急車の要否

・救急車は必要・不要

・救急車との合流は○○地点(合流点までの距離、歩道の距離)

・輸血は必要・不要

・血液型はＲｈ(プラス・マイナス)(Ａ・Ｂ・Ｏ・ＡＢ)型

・搬送等の手段　○○で下山、合流地点まで○○分くらい

5　搬送先の医療機関

※連絡は、救急隊への引き継ぎ後、または、医療機関への搬送後に速やかに行うこと。

事故発生確認事項

<table>
<tr><td colspan="2">連絡者の氏名確認</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="4">災害の概要</td><td>いつ</td><td>月　日　時　分</td></tr>
<tr><td>どこで</td><td>研修の現場・　（市・郡）　（町・村）　で</td></tr>
<tr><td>だれが</td><td>（年齢　）</td></tr>
<tr><td>どんな</td><td>作業中
でケガをしました。</td></tr>
<tr><td colspan="2">発生原因</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">傷病者の様態</td><td>ケガの状況は
（意識）　ある　・　ない
（呼吸）　ある　・　ない
（出血）　ある　・　ない
（骨折）　ある　・　ない　・　不明</td></tr>
<tr><td colspan="2">救急車の要否</td><td>必要　・　不要</td></tr>
<tr><td colspan="2">（※）必要に応じて</td><td>・救急車の合流地点
・傷病者の住所
・傷病者の電話番号
・輸血　必要・不要
・血液型　Ａ・Ｂ・Ｏ・ＡＢ型　（Ｒｈ　プラス・マイナス）
・搬送医療機関</td></tr>
<tr><td colspan="2">現　場　概　況</td><td>天候　：　晴れ、曇り、雨、雪
樹種　：　スギ、ヒノキ、その他針（　　）、広葉樹
樹高　：　　ｍ
太さ　：　　ｃｍ
地山　：　勾配、土質（砂質、粘性、礫混じり、岩、その他（　）
その他：</td></tr>
</table>

緊急時の現場行動マニュアル

現場携帯用

チーフ：局研修担当官
（担当者　氏名、電話番号）

サブ：研修運営補助者
（ブロック事務局）
（担当者　氏名、電話番号）

情報の流れ

事故発生

通報　**研修中断指示・現場安全確保**
（発見者）　（チーフ、サブ）
①発見者はチーフ（○○○○）、サブ（○○○○）に通報、直ちに研修を中断
②チーフ、サブは現場確認・安全確保（落石、蜂等）
③受講生は予め決めた安全場所で待機
④チーフは救急車要請、サブは森林管理局・統括事務局へ第1報

救急車要請
（チーフ）

- 頭をぶつけた
- マムシに噛まれた
- ハチに刺された
- 出血が激しくとまらない
- 骨が折れているようだ
- 呼吸・脈拍が感じられない

必要なし

必要

第1報　サブ

助務者確保
（チーフ）
受講生に助務を依頼

消防通報・研修中止・助務者確保（チーフ）
①消防（119番）へ通報、サブへ救護指示
②研修を中止し、受講生に助務を依頼
③チーフは森林管理局・統括事務局へ第2報、サブは被災者救護等

第2報　チーフ

被災者救護・応急対応（サブ）
①助務者と協力して被災者を安全場所へ誘導
②助務者と協力して被災者の応急対応（統括事務局用意の緊急対応マニュアル等を参考にできる範囲で手当て）
③チーフは被災者の負傷程度を林野庁・管理局に、サブは統括事務局へ報告（第3報）

第3報　チーフ

現場安全確認後
研修再開・中止
（チーフ）

チーフ

被災者搬出（サブ）
①サブは被災者を人家近くの救急車合流地点まで搬送
②助務者は救急車誘導指示

公用車等で搬送
（研修関係者）

救急車で搬送（サブ）
①サブが救急車に同乗、助務者は救急車に随行
②救急車が到着したらチーフは森林管理局・統括事務局へ報告（第4報）、サブは救急車で搬送（搬送後の状況についてはチーフに報告）

第4報　チーフ

搬送後の現場対応（チーフ）
チーフは現場に残り、
①救急車が出発したら報告（第5報）
②受講生に研修会場の後片付け、帰宅指示
③警察の現場検証に協力・立会
　または、現場記録（写真・見取り図）作成

第5報　チーフ

医療施設での対応（サブ）
①サブは医療施設に到着後チーフへ報告、所属関係機関にチーフは報告（第6報）
②サブは処置後チーフへ状況報告

第6報　チーフ

管理局・統括事務局

林野庁

本事業で使用している研修関係用語の説明

実践研修では、より研修効果を上げるため様々な工夫をしながら実施している。それらの取り組みに関係する用語を中心として説明する。

○アイスブレイク

「アイスブレイク」とは、参加者の心や、初対面の参加者同士、スタッフ間との間に張った緊張の氷（アイス）を壊す（ブレイキング）時間である。研修の初日のオリエンテーション等で取り入れている。一般的には自己紹介の時間などを兼ねて簡単なゲームを行う。班内の受講生同士の自己紹介や課題等を決められた時間で話したり、誕生日でグループになり文等を交えた自己紹介などその場の雰囲気に合わせた多様なアイスブレイクを行っている。

○アイランド形式

演習（グループワーク）が多いことから、班（４～５人）ごとに机を配置する「アイランド形式」を取り入れている。アイランド形式は、講師やホワイトボード（スクリーン）が見えにくい場所もあるが、班の受講生同士のコミュニケーションを促し、気軽に意見交換し、意識を共有しやすい環境づくりに役立つ。

その他の配置としては、教室型、シアター型、半円型、円型がある。

○KP法

演習においてプレゼンテーションなどを行う際に使用している。

ポイントが書かれたＡ４版の紙（紙芝居）を黒板やホワイトボードに貼り付けながら話を進める手法をＫＰ（紙芝居プレゼンテーション）法といい、発表者がポイントを分かりやすく整理、見える化し、伝える手法である。

○ワークショップ

「ワークショップ」は一方通行的な知識や技術の伝達でなく、参加者が自ら参加・体験し、グループの相互作用の中で何かを学び合ったり創り出したりする、双方向的な学びと創造のスタイルとして定義されている。ワークショップの実施に当たっては、ファシリテーターと呼ばれる司会進行役が、参加者が自発的に作業する環境を整える重要な役割を担っている。このことにより、参加者全員が体験・運営することによりグループの合意形成が図られる。

○ペチャクチャタイム（PKT）

講義の合間や演習での発表後に、講義や発表を受けての感想や疑問点、助言等を班ごとに話し合う時間を適宜設けている。この時間を「ペチャクチャタイム」と呼んでいる。この時間を設けることにより、他の受講生の考えを聞くことで、自分の立ち位置や別の視点からの気づきを促し、より理解を深め、質問や意見を出しやすい雰囲気を作ることができる。

〇ふりかえり

学んだことを自分のこととして考えてもらうため、カリキュラムの中に「ふりかえり」の時間を設けている。

自身でふりかえりの時間で考えたことや新たな気づき、帰ってからすぐに活用できそうな点、自分なりにもう一度整理、確認しなければならない点等を具体的に書き、言葉化することである。また、グループで読み合い、共有する。そして、なによりも重要なことは、研修の成果として、言葉にしたことを受講生に持ち帰ってもらうことを目的としている。

なお、ふりかえりの際に使用する用紙を「ふりかえりシート」という。

〇スタッフミーティング

研修を円滑に実施していくため、カリキュラムの進行や参加者についての情報をすべてのスタッフで共有するため、研修実施前、研修期間中、研修終了後に全スタッフ、外部講師も参加してミーティングを行っている。

特に研修終了後のミーティングでは、最後に書いたふりかえりシートやアンケートを全参加者が読み、そこから気がついたことや自分が思ったことを発表していく（このミーティングでは、建設的な意見が出やすい雰囲気づくりを心掛けることが大事である）。

なお、この場で出された改善点やアイデアなどは、運営補助者が作成する実施報告書等で共有するようにしている。

事務担当、事務局名簿（統括事務局、ブロック事務局）

*運営スタッフは主な者である。

統括事務局名簿

名称	一般社団法人　全国林業改良普及協会				
所在地	〒100-0014　東京都千代田区永田町1-11―30　サウスヒル永田町5階				
電話番号	03-3500-5033				
運営スタッフ	事務局長	宇田恭子			
	スタッフ	中山　聡	本永剛士	石井麻美	三石　麗
		森本　唯	岩渕光則	仮家晋一郎	吉田憲恵

名称	Small Planet
所在地	〒839-1321　福岡県うきは市吉井町959-3
電話番号	
運営スタッフ	緒方美英子

北海道ブロック事務局

名称	株式会社　森林環境リアライズ		
所在地	〒064-0821　北海道札幌市中央区北一条西21丁目3番35号		
電話番号	011-699-6830		
運営スタッフ	事務局長	池ノ谷重男	
	スタッフ	朝野英昭	森　彩

東北ブロック事務局

名称	岩手県森林組合連合会		
所在地	〒020-0021　岩手県盛岡市中央通り3丁目15-17		
電話番号	019-654-4411		
運営スタッフ	事務局長	木幡英雄	
	スタッフ	持丸宗貴	小向晋悟

中部ブロック事務局

名称	株式会社　益建リバース	
所在地	〒509-2503　岐阜県下呂市萩原町西上田2641-1	
電話番号	0576-52-3280	
運営スタッフ	事務局長	大森政朗
	スタッフ	阪本敏男

近畿中国ブロック事務局

名称	新見市森林組合		
所在地	〒718-0002　岡山県新見市下熊谷407-2		
電話番号	0867-72-2179		
運営スタッフ	事務局長	小山正明	
	スタッフ	池田真理	

四国ブロック事務局

名称	高知県森林組合連合会		
所在地	〒783-0055　高知県南国市双葉台7-1		
電話番号	088-855-7050		
運営スタッフ	事務局長	櫻井祥一	
	スタッフ	杉山　慎	駒瀬信子

令和４年度技術力維持・向上対策研修運営委託事業
報告書
発行日：令和５年２月２８日
発　行：令和４年度技術力維持・向上対策研修運営委託事業統括事務局
一般社団法人　全国林業改良普及協会
〒100-0014　東京都千代田区永田町1-11−30
サウスヒル永田町5階
TEL 03-3500-5033